

マルチチャンネルインテグレートアンプ STR-DH770

各部名称

本体

- 本体前面（上部） [1]
- 本体前面（下部） [2]
- 電源表示ランプ [3]
- 表示窓上のインジケーター [4]
- 本体後面 [5]

リモコン

- リモコン（上部） [6]
- リモコン（下部） [7]

準備する

1. スピーカーを設置する

- スピーカーの名称と働き [8]
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する [9]
- 7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合） [10]
- 7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントハイスピーカーをつなぐ場合） [11]
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（バイアンプ接続を使う場合） [12]
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントBスピーカーをつなぐ場合） [13]
- スピーカー配置とスピーカーパターンの設定について [14]

2. スピーカーを接続する

- 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する [15]

- [7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合） \[16\]](#)
- [7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントハイスピーカーをつなぐ場合） \[17\]](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合） \[18\]](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合） \[19\]](#)

3. テレビを接続する

- [テレビを接続する \[20\]](#)
- [4Kテレビを接続する \[21\]](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意 \[22\]](#)
- [HDMI接続について \[23\]](#)

4. AV機器／アンテナを接続する

- [HDMI端子を使って機器を接続する \[24\]](#)
- [HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する \[25\]](#)
- [USB機器を接続する \[26\]](#)
- [アンテナを接続する \[27\]](#)
- [再生できるデジタル音声フォーマット \[28\]](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意 \[29\]](#)
- [HDMI接続について \[30\]](#)

5. 電源を入れる／リモコンを準備する

- [リモコンに電池を入れる \[31\]](#)
- [電源を入れる \[32\]](#)

6. Easy Setup（かんたん設定）を使って初期設定を行う

- [Easy Setup（かんたん設定）を使って設定する \[33\]](#)
- [言語を選ぶ（Language） \[34\]](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（Surround Back Speakers Assign） \[35\]](#)

自動音場補正を行う

- [1. 自動音場補正について \[36\]](#)
- [2. 自動音場補正を実行する前に \[37\]](#)
- [3. 測定用マイクをつなぐ \[38\]](#)
- [4. フロントスピーカーを選ぶ \[39\]](#)
- [5. 自動音場補正を行う \[40\]](#)
- [6. 自動音場補正の結果を確認する \[41\]](#)

映像や音源を楽しむ

AV機器を再生する

- [映像や音源を楽しむ \[42\]](#)
- [テレビ画面に表示されたメニューを使う \[43\]](#)
- [つないだ機器の映像や音源を楽しむ \[44\]](#)
- [テレビ放送の音声をアンプで楽しむ（オーディオリターンチャンネル） \[45\]](#)
- [HDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを見る \[46\]](#)

iPhone/iPodのコンテンツを再生する

- [BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作） \[47\]](#)
- [対応iPhone/iPodモデル \[48\]](#)

USB機器のコンテンツを再生する

- [USB機器の音楽コンテンツを楽しむ \[49\]](#)
- [USBの仕様および対応USB機器 \[50\]](#)
- [USB機器使用上のご注意 \[51\]](#)

ラジオを聞く

- [FMラジオを聞く \[52\]](#)
- [FMラジオ放送局を登録する（プリセットメモリー） \[53\]](#)
- [プリセットした放送局に名前をつける（NAME IN） \[54\]](#)
- [放送局を直接選局する（ダイレクト選局） \[55\]](#)

音響効果を楽しむ

- [音場（サウンドフィールド）を選ぶ \[56\]](#)
- [音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係一覧 \[57\]](#)
- [音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す \[58\]](#)
- [低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（NIGHT MODE） \[59\]](#)
- [イコライザーを調節する（EQ） \[60\]](#)
- [原音に忠実な音を楽しむ（Pure Direct） \[61\]](#)

BLUETOOTH機能を使う

BLUETOOTH機能について

- [BLUETOOTH機能を使ってできること \[62\]](#)

BLUETOOTH機器の音源を楽しむ

- [BLUETOOTH機能をオン/オフする（BT POWER） \[63\]](#)
- [ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（NFC） \[64\]](#)
- [BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作） \[65\]](#)
- [リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する \[66\]](#)
- [対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル \[67\]](#)

スマートフォンやタブレットなどでアンプを操作する（SongPal）

- [スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal） \[68\]](#)

その他の機能を使う

ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”）

- [“ブラビアリンク”とは？ \[69\]](#)
- [“ブラビアリンク”の準備をする \[70\]](#)
- [テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動） \[71\]](#)
- [アンプにつないだスピーカーからテレビの音声を楽しむ（システムオーディオコントロール） \[72\]](#)
- [つないだ機器のコンテンツをすぐに楽しむ（ワンタッチプレイ） \[73\]](#)

- 番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセレクター） [74]
- 最適な音場（サウンドフィールド）を自動で選ぶ（シーンセレクト） [75]
- オーディオ機器コントロール [76]
- テレビリモコンからのメニュー操作 [77]
- エコーキャンセリング連動 [78]

お好みに合わせて映像や音声を楽しむ

- デジタル音声とアナログ音声を切り替える（INPUT MODE） [79]
- 他の音声入力端子を使う（A. ASSIGN） [80]

スリープタイマーを使う

- スリープタイマーを使う [81]

情報を確認する

- 表示窓で情報を確認する [82]

設定を調節する

表示窓のメニューを使う

- 表示窓のメニューを使って操作する [83]
- 表示窓で情報を確認する [84]

かんたん設定（**Easy Setup**）

- Easy Setup（かんたん設定）を使って設定する [85]
- 言語を選ぶ（Language） [86]
- サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（Surround Back Speakers Assign） [87]

自動音場補正を行う

- 1. 自動音場補正について [88]
- 2. 自動音場補正を実行する前に [89]

- 3. 測定用マイクをつなぐ [90]
- 4. フロントスピーカーを選ぶ [91]
- 5. 自動音場補正を行う [92]
- 6. 自動音場補正の結果を確認する [93]
- 自動音場補正の補正タイプを選ぶ (CAL TYPE) [94]

レベル設定 (<LEVEL>)

- 各スピーカーからテストトーンを出力する (TEST TONE) [95]
- スピーカーレベルを調節する (Level) [96]

スピーカー設定 (Speaker Setting/<SPEAKER>)

- スピーカーパターンを選ぶ (SP PATTERN) [97]
- サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する (Surround Back Speakers Assign) [98]
- スピーカーのサイズを調節する (Size) [99]
- スピーカーの距離を調節する (Distance) [100]
- スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する (Crossover Freq) [101]
- 距離の測定単位を選ぶ (DIST. UNIT) [102]

入力設定 (<INPUT>)

- デジタル音声とアナログ音声を切り替える (INPUT MODE) [103]
- 各入力の名前を変更する (NAME IN) [104]
- 他の音声入力端子を使う (A. ASSIGN) [105]

サラウンド設定

- HD-D.C.S.エフェクトタイプを選ぶ (HD-D.C.S. TYP) [106]

イコライザー設定 (<EQ>)

- イコライザーを調節する (EQ) [107]

チューナー設定 (<TUNER>)

- FM放送局の受信モードを選ぶ (FM MODE) [108]

- プリセットした放送局に名前をつける (NAME IN) [109]

音声設定 (<AUDIO>)

- 低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ (NIGHT MODE) [110]
- 音声と映像出力を同期させる (A/V SYNC) [111]
- 音量を自動で調整する (AUTO VOL) [112]
- デジタル放送の音声を選択をする (DUAL MONO) [113]
- ダイナミックレンジを圧縮する (D. RANGE) [114]

HDMI設定 (<HDMI>)

- HDMI機器を制御する (CTRL HDMI) [115]
- テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る (電源オフ連動) [116]
- アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ (STBY THRU) [117]
- 接続機器のHDMI音声信号出力を設定する (AUDIO OUT) [118]
- 番組のジャンルに応じた音場 (サウンドフィールド) に自動的に切り替える (オートジャンルセレクター) [119]
- アクティブサブウーファアのレベルを設定する (SW LEVEL) [120]
- HDMI信号フォーマットを設定する (SIGNAL FMT.) [121]

BLUETOOTH設定 (<BT>)

- BLUETOOTHスタンバイモードを設定する (BT STANDBY) [122]
- BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する (BT AAC) [123]
- BLUETOOTH機能をオン/オフする (BT POWER) [124]

システム設定 (<SYSTEM>)

- 自動的にスタンバイ状態になるよう設定をする (AUTO STBY) [125]

お買い上げ時の設定に戻す

- お買い上げ時の設定に戻す [126]

困ったときは

エラーメッセージ

- [PROTECTOR \[127\]](#)
- [自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧 \[128\]](#)
- [USBメッセージ一覧 \[129\]](#)

全体

- [電源が自動的に切れる \[130\]](#)
- [複数のデジタル機器を接続中、再生可能な入力がみつからない \[131\]](#)
- [テレビの電源を入れてもアンプの電源が入らない \[132\]](#)
- [テレビの電源を切るとアンプの電源が切れる \[133\]](#)
- [テレビの電源を切ってもアンプの電源が切れない \[134\]](#)

映像

- [テレビに映像が表示されない \[135\]](#)
- [テレビに3D映像が表示されない \[136\]](#)
- [テレビに4K映像が表示されない \[137\]](#)
- [スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの画像がテレビに出力されない \[138\]](#)
- [テレビ画面にホームメニューが表示されない \[139\]](#)
- [表示窓が消灯する \[140\]](#)
- [アンプの電源が入っていないときテレビに映像が出ない \[141\]](#)

音声

- [どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない \[142\]](#)
- [ハム音またはノイズがひどい \[143\]](#)
- [特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない \[144\]](#)
- [特定の機器から音が出ない \[145\]](#)
- [オーディオリターンチャンネル \(ARC\) 機能に対応しているHDMIテレビOUT端子にテレビを接続しているとき、テレビから音が出ない \[146\]](#)
- [左右の音のバランスが悪い、または逆転している \[147\]](#)
- [ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生されない \[148\]](#)
- [サラウンド効果が得られない \[149\]](#)

スピーカーからテストトーンが出力されない [150]

- 表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される [151]
- スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの音声テレビに出力されない [152]
- アンプにつないだスピーカーからテレビの音声が出ない [153]
- アンプの電源が入っていないときテレビに映像と音声が出ない [154]
- アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音が出る [155]

チューナー

- FM放送の受信状態が悪い [156]
- FMステレオ放送の受信状態が悪い [157]
- 放送局が受信できない [158]

iPhone/iPod

- 音声が歪む [159]

USB機器

- 対応していないUSB機器を使用している [160]
- ノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする [161]
- USB機器が認識されない [162]
- 再生が始まらない [163]
- USB機器をUSBポートにつなげない [164]
- 表示窓の表示がおかしい [165]
- [READING] が長時間表示される、または再生までに時間がかかる [166]
- 音声ファイルを再生できない [167]

BLUETOOTH機器

- ペアリングができない [168]
- BLUETOOTH接続ができない [169]
- 音が飛んだり変動したりする、または接続が切れる [170]
- BLUETOOTH機器の音源が聞けない [171]
- ハム音またはノイズがひどい [172]

- [SongPalアプリが終了する \[173\]](#)

“ブラビアリンク”（HDMI機器制御）

- [HDMI機器制御機能が正しく働かない \[174\]](#)
- [アンプにつないだスピーカーからテレビの音が聞こえない \[175\]](#)

リモコン

- [リモコンで操作できない \[176\]](#)

解決しないときは

- [お買い上げ時の設定に戻す \[177\]](#)
- [音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す \[178\]](#)
- [カスタマーサポートウェブサイト \[179\]](#)

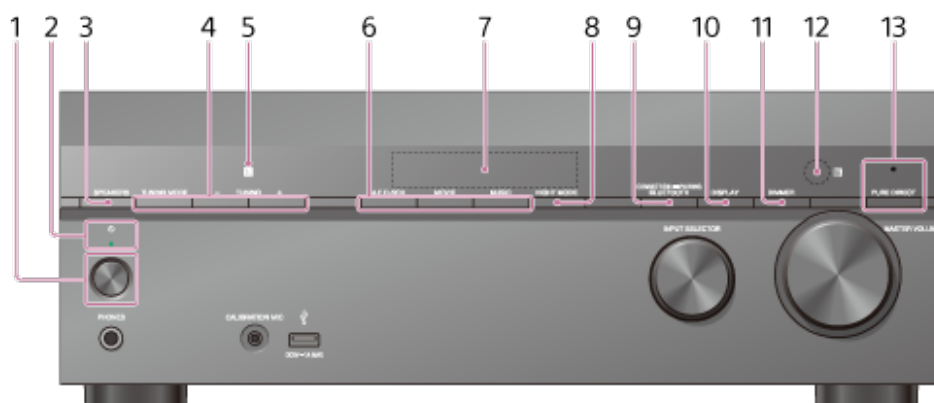
その他

商標について

- [商標について \[180\]](#)

[1] 各部名称 | 本体

本体前面（上部）

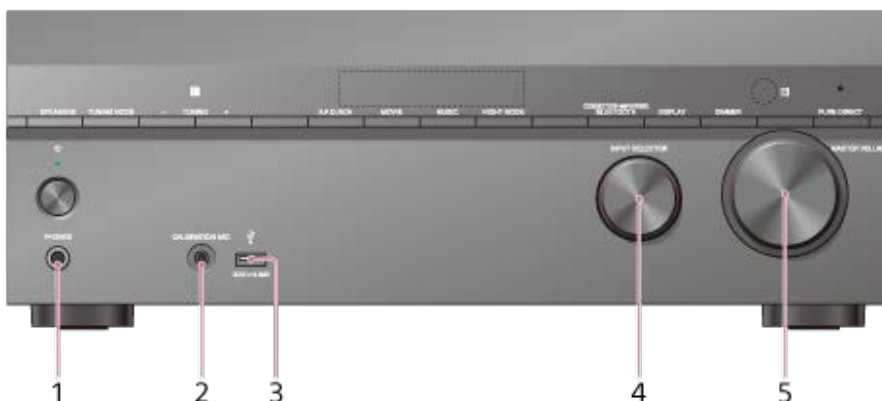


1. 電源（電源）

2. **電源表示ランプ**
3. **SPEAKERS**
4. **TUNING MODE、TUNING +/-**
内蔵のFMチューナーを操作するボタンです。
TUNING +/-を押して選局します。
5. **NFCセンサー**
6. **2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC**
好みの音場（サウンドフィールド）を選びます。
7. **表示窓**
8. **NIGHT MODE**
ナイトモード機能を有効にします。ナイトモード機能を有効にすると、小さな音量でも映画館のような環境を作り出します。
9. **CONNECTION — PAIRING BLUETOOTH**
アンプをBLUETOOTH機能に切り替え、ペアリングモードにします。
10. **DISPLAY**
表示窓に情報を表示します。
11. **DIMMER**
表示窓の明るさを3段階で調節します。
12. **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。
13. **PURE DIRECT**
ピュアダイレクトを選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。

[2] 各部名称 | 本体

本体前面（下部）



1. **PHONES端子**
ヘッドホンをつなぎます。
2. **CALIBRATION MIC端子**
3. **ψ (USB) ポート**
4. **INPUT SELECTOR**
5. **MASTER VOLUME**

[3] 各部名称 | 本体

電源表示ランプ

- 緑色：電源が入っている状態
- オレンジ色：スタンバイ状態で、次のいずれかの設定になっている状態
 - [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定している
 - [STBY THRU] を [ON] または [AUTO] に設定している
 - [BT STANDBY] を [STBY ON] に設定している (*)

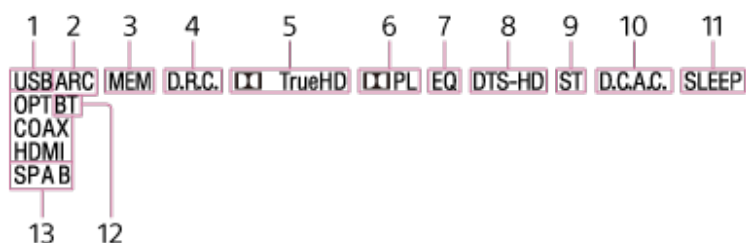
スタンバイ状態のときに、以下のとおり3つの設定項目をオフにすると、本体前面の電源表示ランプは消灯します。

- [CTRL HDMI] を [CTRL OFF] に設定している
- [STBY THRU] を [OFF] に設定している
- [BT STANDBY] を [STBY OFF] に設定している

* BLUETOOTH機器とペアリング接続が行われた場合、オレンジ色に点灯します。ペアリング済みの機器の登録情報がない場合は、[BT STANDBY] を有効にしているにもかかわらず、本体前面の電源表示ランプは消灯したままとなります。

[4] 各部名称 | 本体

表示窓上のインジケータ



1. USB

USB機器が検出されると点灯します。

2. 入力表示

現在アンプに入力されている信号を点灯表示します。

ARC

テレビ入力が選択され、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が入力されていま

す。

OPT

デジタル信号が光デジタル音声IN端子から入力されています。

COAX

デジタル信号が同軸デジタル音声IN端子から入力されています。

HDMI

選択したHDMI IN端子からデジタル信号が入力されています。

3. MEM

FMチューナーのメモリー機能が働いています。

4. D.R.C.

ダイナミックレンジの調整が働いているときに点灯します。

5. TrueHD (*)

ドルビーTrueHDフォーマットの信号をデコードしているときに点灯します。

6. PL

ドルビープロロジックフォーマットの信号を処理しているときに点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張できます。

7. EQ

イコライザーが働いているときに点灯します。

8. DTS-HD (*)

DTS-HDフォーマットの信号をデコードしているときに点灯します。

9. ST

FMステレオ放送を受信すると点灯します。

10. D.C.A.C.

自動音場補正の測定結果が適用されているときに点灯します。

11. SLEEP

スリープタイマーが働いているときに点灯します。

12. BT

BLUETOOTH機器との接続が完了すると点灯します。ペアリング開始から接続が確立するまでの間は点滅します。

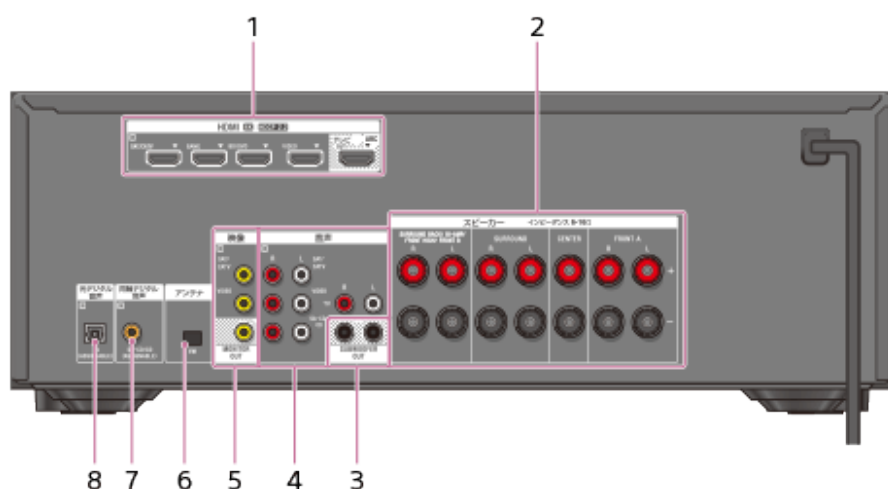
13. スピーカーシステム表示

* ドルビーデジタルまたはDTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していること、表示窓の [<INPUT>] メニューの [INPUT MODE] が [ANALOG] に設定されていないことを確認してください。

ご注意

- [ PL] (6) は、スピーカーパターンの設定によっては点灯しない場合があります。

本体後面



1. HDMI IN/OUT端子 (*1) (*2)
2. スピーカー端子
3. SUBWOOFER OUT端子
4. 音声IN端子
5. 映像IN/MONITOR OUT端子 (*2)
6. FMアンテナ端子
7. 同軸デジタル音声IN端子
8. 光デジタル音声IN端子

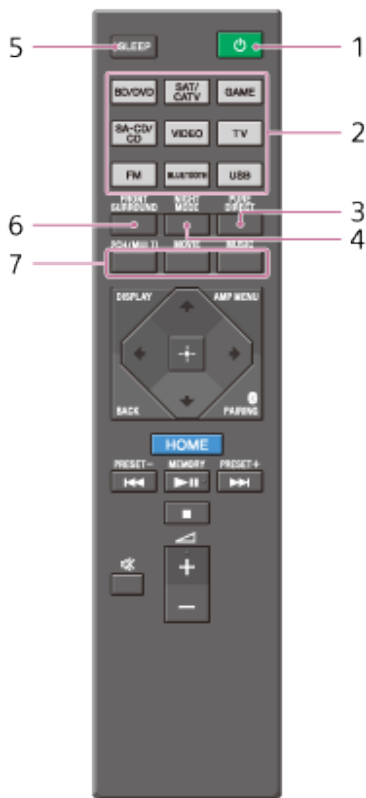
*1 HDCP 2.2は、4K映像などの高精細コンテンツのために強化された最新の著作権保護技術です。

*2 これらの入力端子から入力した映像を見るには、それぞれの入力に応じた出力端子にテレビをつないでください。アンプとテレビの接続について詳しくは、「[テレビを接続する](#)」をご覧ください。

入力端子	出力端子
HDMI IN	HDMIテレビOUT
映像IN	MONITOR OUT

リモコン (上部)

付属のリモコンを使ってアンプを操作してください。



1. 電源

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

以下のとおり設定すると、電力消費を抑えられます。

- [<HDMI>] メニューで [CTRL HDMI] を [CTRL OFF] にする。
- [<HDMI>] メニューで [STBY THRU] を [OFF] にする。
- [<BT>] メニューで [BT STBY] を [STBY OFF] にする。

2. 入力切り替え用ボタン

使用する機器を選びます。

入力切り替え用ボタンを押すと、アンプの電源が入ります。入力切り替え用ボタンには、ボタンを押して入力を切り替えられるようにあらかじめソニー製の機器が割り当てられています。

3. PURE DIRECT

ピュアダイレクトを有効にします。ピュアダイレクトを有効にすると、すべての入力でも原音により忠実な音を楽しめます。

4. NIGHT MODE

ナイトモード機能を有効にします。ナイトモード機能を有効にすると、小さな音量でも映画館のような環境を作り出します。

5. SLEEP

指定した時間に自動的に電源が切れるよう設定できます。

6. FRONT SURROUND

フロントサラウンド機能を有効にします。フロントサラウンド機能を有効にすると、2つのフロントスピーカーだけで映画館のようなサラウンドサウンドを楽しめます。

7. 2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC

お好みの音場（サウンドフィールド）を選びます。

ご注意

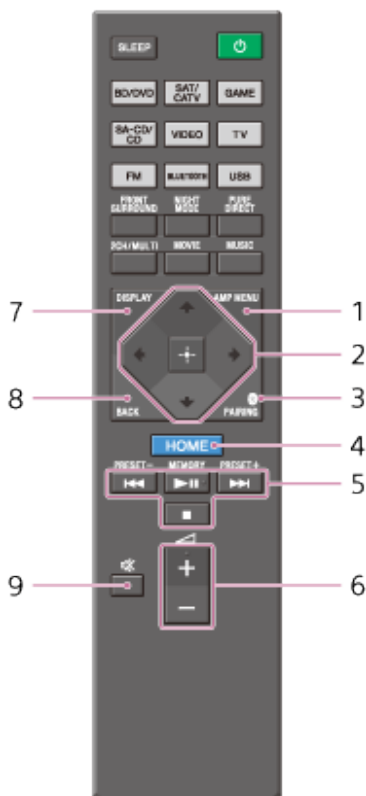
- 上記の説明は例としてあげています。

- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

[7] 各部名称 | リモコン

リモコン (下部)






付属のリモコンを使ってアンプを操作してください。



1. AMP MENU

アンプを操作するためのメニューを本体前面の表示窓に表示します。

2. , , , ,

, , , を押してメニュー項目を選び、を押して決定します。

3. PAIRING

アンプをBLUETOOTH機能に切り替え、ペアリングモードにします。

4. HOME

テレビ画面にホームメニューを表示します。

5. , , (*),

スキップ、再生、一時停止、停止の操作を行います。

入カソースに [FM] を選んでいるときに ,  を長押しすると、自動的に放送局をスキャンします。  を押すとダイレクト選局モードに切り替わります。

PRESET+/-

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。

MEMORY (*)

受信中の放送局をプリセットとして登録します。

6. \triangleleft + (*) / -

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

7. DISPLAY

表示窓に情報を表示します。

8. BACK

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているときに、前のメニューに戻る、またはメニューやガイドを閉じます。

9. \times (消音)

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

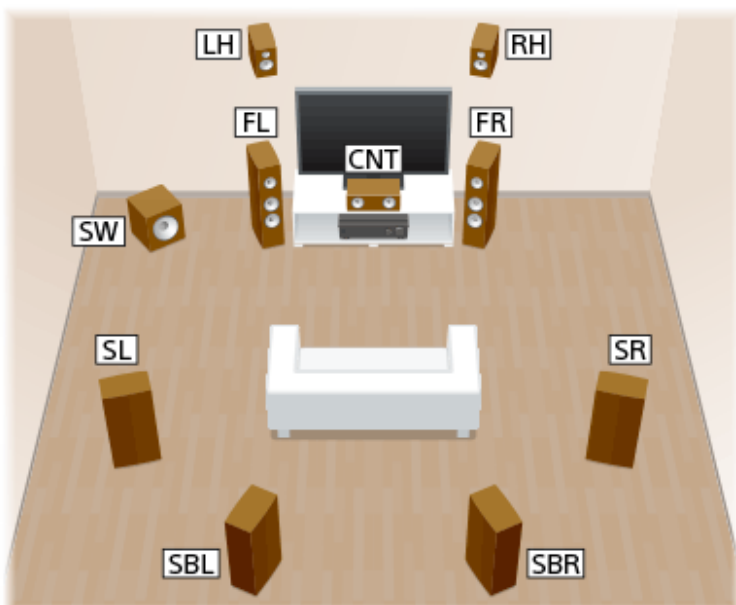
* \blacktriangleright / \parallel / MEMORY および \triangleleft + ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

[8] 準備する | 1. スピーカーを設置する スピーカーの名称と働き

スピーカーの設定例



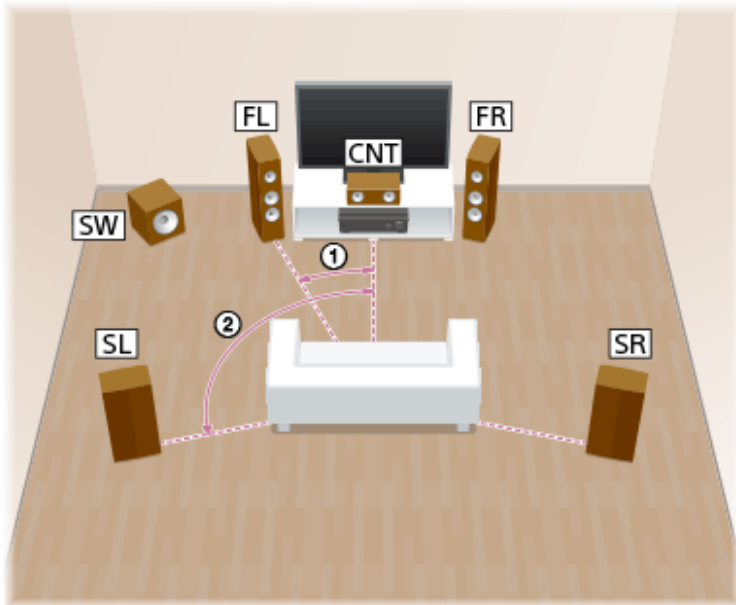
スピーカー	スピーカー名 (正式)
-------	-------------

名 (略称)	名)	働き
FL	フロントスピーカー (左)	左右のフロントチャンネルのステレオ音声を再生します。
FR	フロントスピーカー (右)	
CNT	センタースピーカー	センターチャンネルの音声 (セリフやボーカルなど) を再生します。
SL	サラウンドスピーカー (左)	左右のサラウンドチャンネルの音声を再生します。
SR	サラウンドスピーカー (右)	
SBL	サラウンドバックスピーカー (左)	左右のサラウンドバックチャンネルの音声を再生します。
SBR	サラウンドバックスピーカー (右)	
SB	サラウンドバックスピーカー	サラウンドバックチャンネルの音声を再生します。
SW	アクティブサブウーファー	LFE (重低音効果) チャンネルの音声を再生し、LFE以外のチャンネルの低音域を補強します。
LH	フロントハイスピーカー (左)	左右のフロントハイチャンネルの垂直方向のサウンド効果の音声を再生します。
RH	フロントハイスピーカー (右)	

[9] 準備する | 1. スピーカーを設置する

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する

映画館のようなマルチチャンネル音声を十分に楽しむには、5本のスピーカー (フロントスピーカー : 2本、センタースピーカー : 1本、サラウンドスピーカー : 2本) およびアクティブサブウーファーが必要です。



① 30°

② 100° - 120°

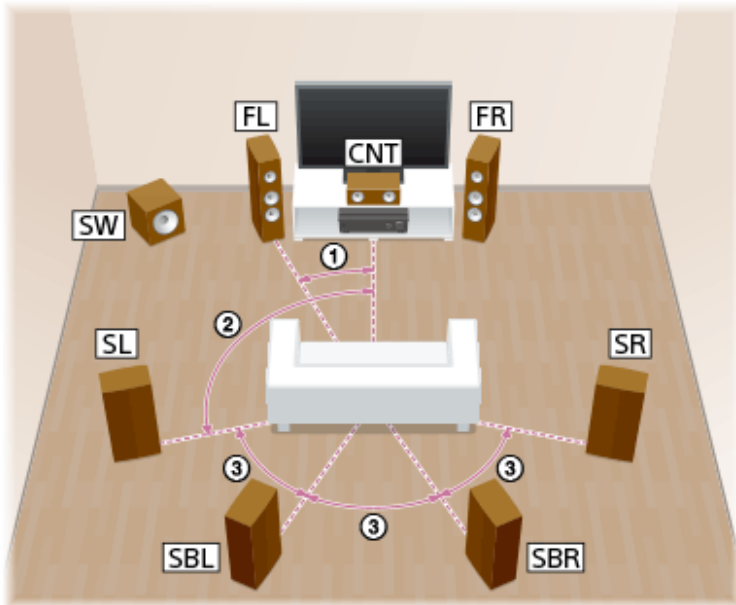
ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

[10] 準備する | 1. スピーカーを設置する

7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

DVDやブルーレイディスクに記録された6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの音声を忠実に再現することができます。



- ① 30°
- ② 100° - 120°
- ③ 等角度

ご注意

- 6.1チャンネルシステムで設置する場合は、サラウンドバックスピーカー1本を視聴位置の真後ろに配置してください。

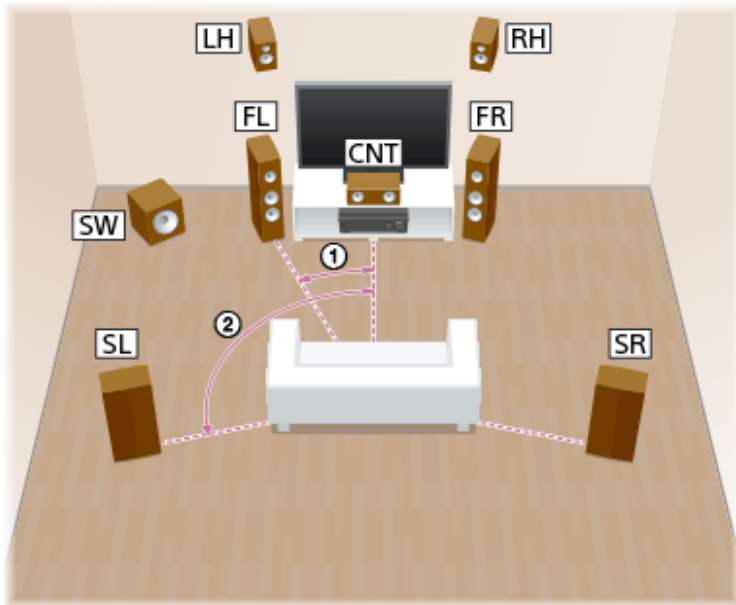
ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

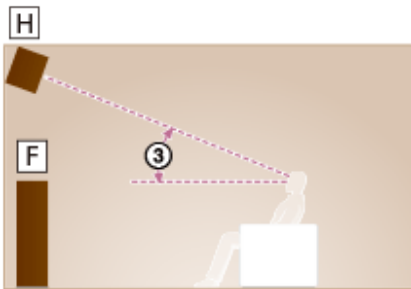
[11] 準備する | 1. スピーカーを設置する

7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントハイスピーカーをつなぐ場合）

2本のフロントハイスピーカーを接続し、垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます。



- ① 30°
- ② 100° - 120°



- ③ 30° - 45°
- H : フロントハイスピーカー（左と右）
F : フロントスピーカー（左と右）

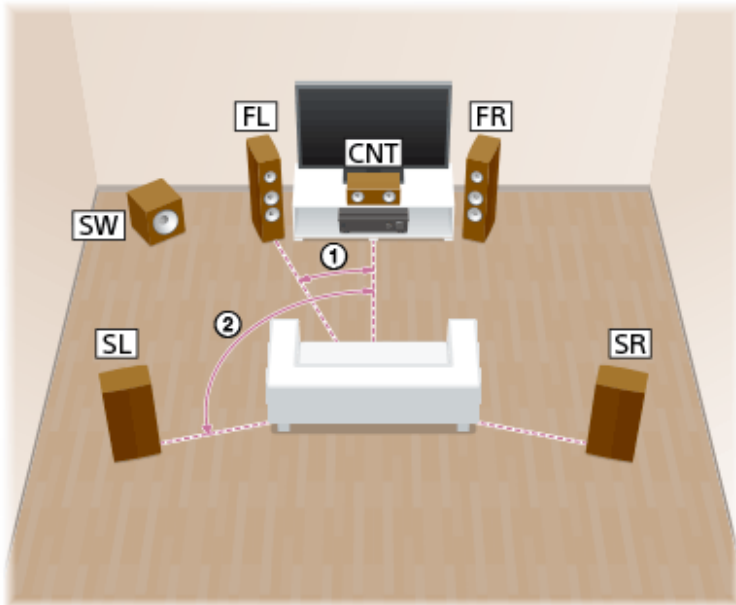
ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

[12] 準備する | 1. スピーカーを設置する

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（バイアンプ接続を使う場合）

バイアンプ接続を利用して、複数のアンプをツイーターとウーファーの両方に接続することで、より高音質の再生を楽しむことができます。



① 30°

② 100° - 120°

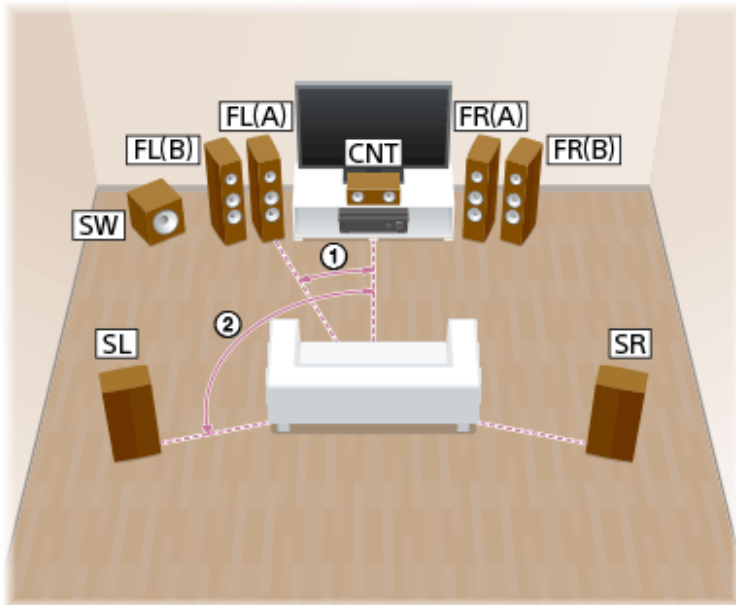
ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

[13] 準備する | 1. スピーカーを設置する

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）

フロントスピーカーシステムをもう1組お持ちの場合は、スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子に接続することができます（フロントBスピーカー接続）。音声は、フロントAスピーカーまたはフロントBスピーカーからのみの出力、フロントAとフロントBの両方のスピーカーからの出力が選べます。



- ① 30°
- ② 100° - 120°

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

[14] 準備する | 1. スピーカーを設置する

スピーカー配置とスピーカーパターンの設定について

表示窓で [<SPEAKER>] (スピーカー設定) メニューを選び、お使いのスピーカーシステムに合ったスピーカーパターンを選びます。

スピーカーシステム	表示窓の [SB ASSIGN] 設定 (*)	[<SPEAKER>] メニューで選択するスピーカーパターン
5.1チャンネル	[OFF]	[3/2.1]
7.1チャンネル (サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合)	—	[3/4.1]
7.1チャンネル (フロントハイスピーカーをつなぐ場合)	—	[5/2.1]
5.1チャンネル (バイアンプ接続)	[BI-AMP]	[3/2.1]

を使う場合)		
5.1チャンネル（フロントBスピーカーをつなぐ場合）	[SPK B]	[3/2.1]

* [SB ASSIGN] は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているときのみ設定できます。

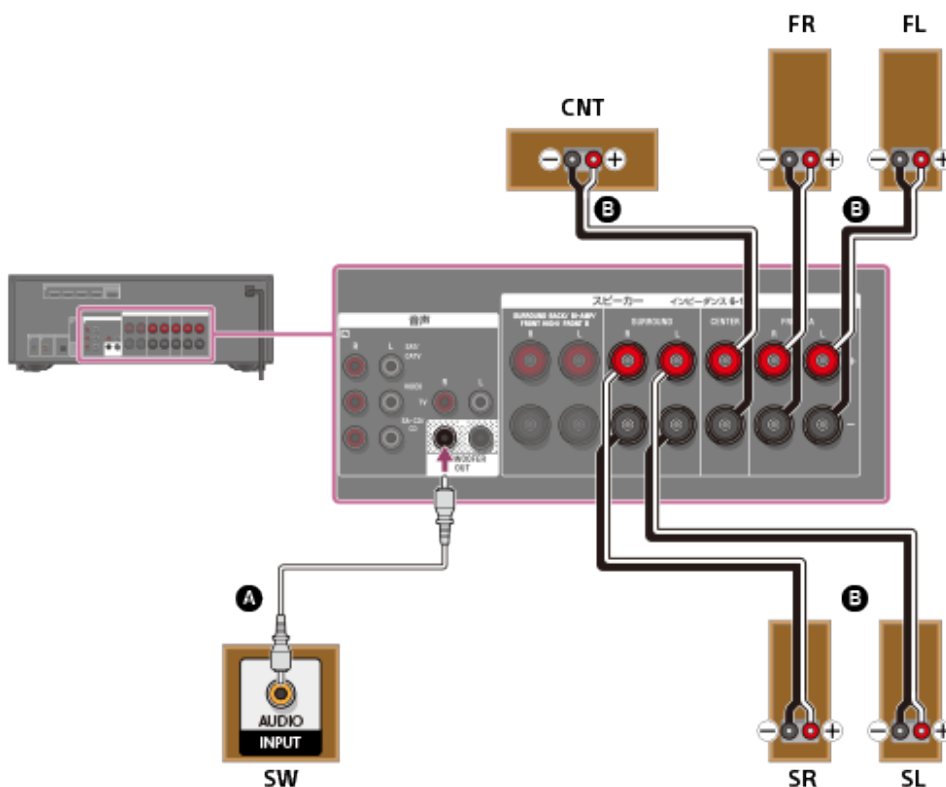
[15] 準備する | 2. スピーカーを接続する

5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについては、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- Ⓐ モノラル音声ケーブル（別売）
- Ⓑ スピーカーケーブル（別売）

スピーカーの接続後は、ホームメニューの [Speaker Setting] - [Surround Back Speakers Assign] を [None Speaker] に設定してください。

ヒント

- 表示窓のメニューから、サラウンドバックスピーカー用スピーカー端子の割り当てをすることも

きます。[<SPEAKER>] メニューの [SB ASSIGN] を [OFF] に設定します。

- [SB ASSIGN] は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているときのみ設定できます。

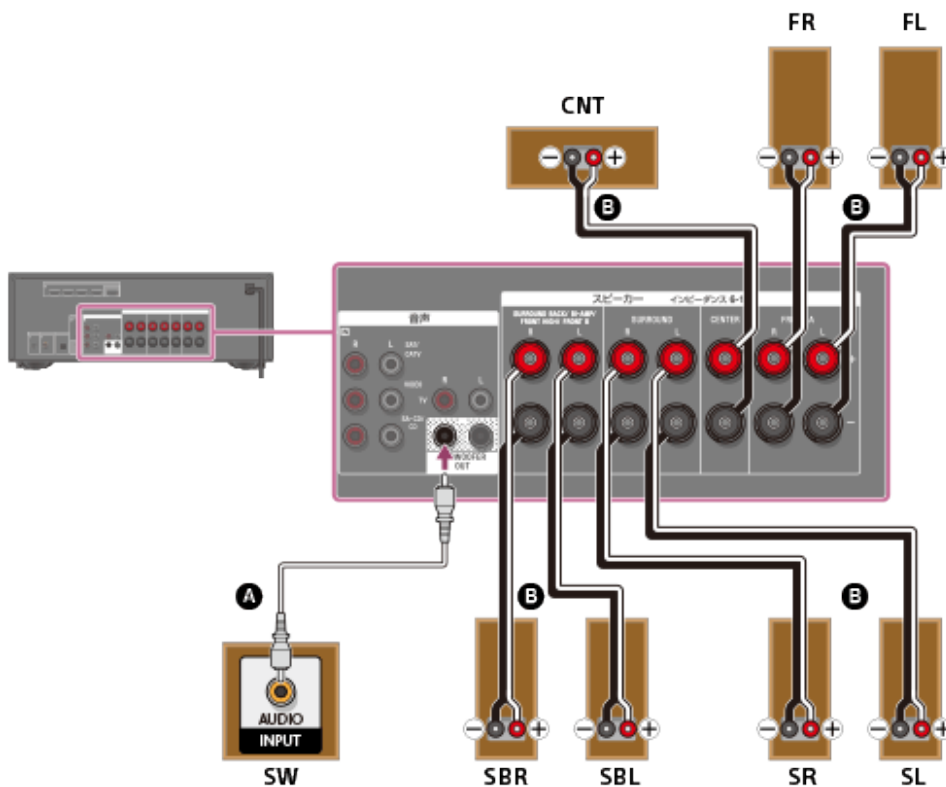
[16] 準備する | 2. スピーカーを接続する

7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを下図のようにつないてください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないてください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについては、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- A モノラル音声ケーブル（別売）
- B スピーカーケーブル（別売）

サラウンドバックスピーカーの接続後は、ホームメニューの [Speaker Setting] - [Surround Back Speakers Assign] を [Surround Back Speakers] に設定してください。

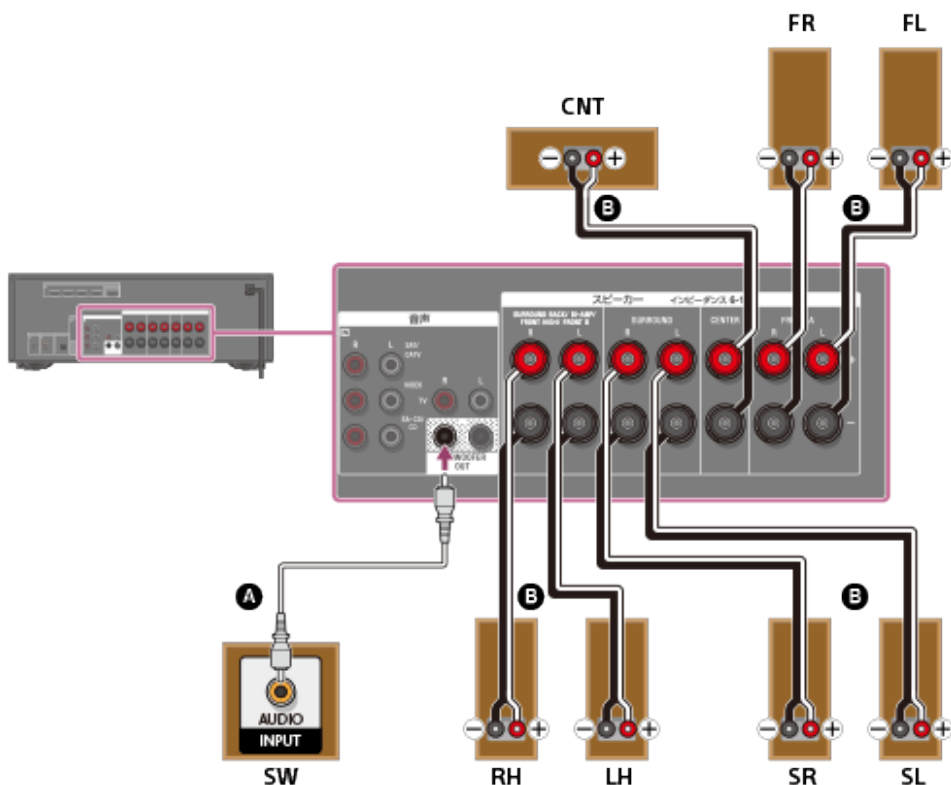
[17] 準備する | 2. スピーカーを接続する

7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントハイスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについては、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- Ⓐ モノラル音声ケーブル（別売）
- Ⓑ スピーカーケーブル（別売）

フロントハイスピーカーの接続後は、ホームメニューの [Speaker Setting] - [Surround Back Speakers Assign] を [Front High Speakers] に設定してください。

[18] 準備する | 2. スピーカーを接続する

5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）

バイアンプ接続を利用して、複数のアンプをツイーターとウーファーの両方に接続すること

で、より高音質の再生を楽しむことができます。

サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使用していない場合は、バイアンプ接続でフロントスピーカーをスピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につなぐことができます。各スピーカーを下図のようにつないでください。

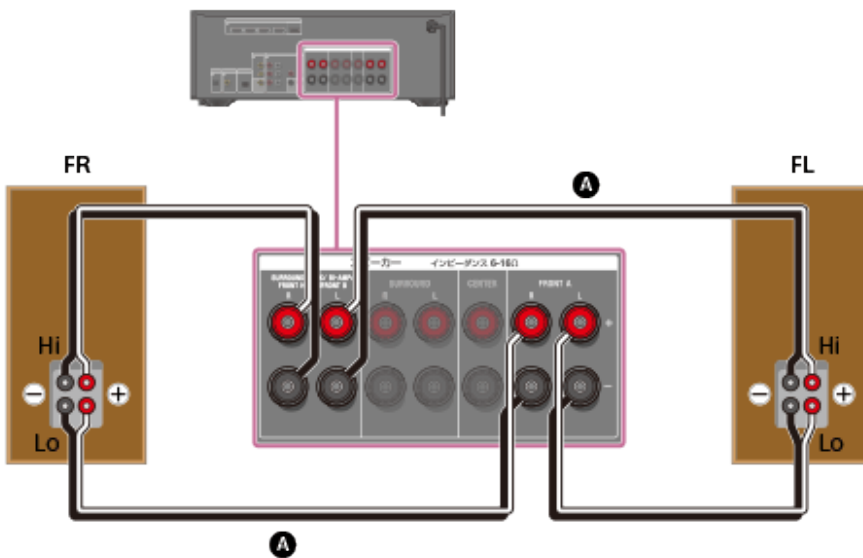
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについては、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。

バイアンプ接続でフロントスピーカーを接続する

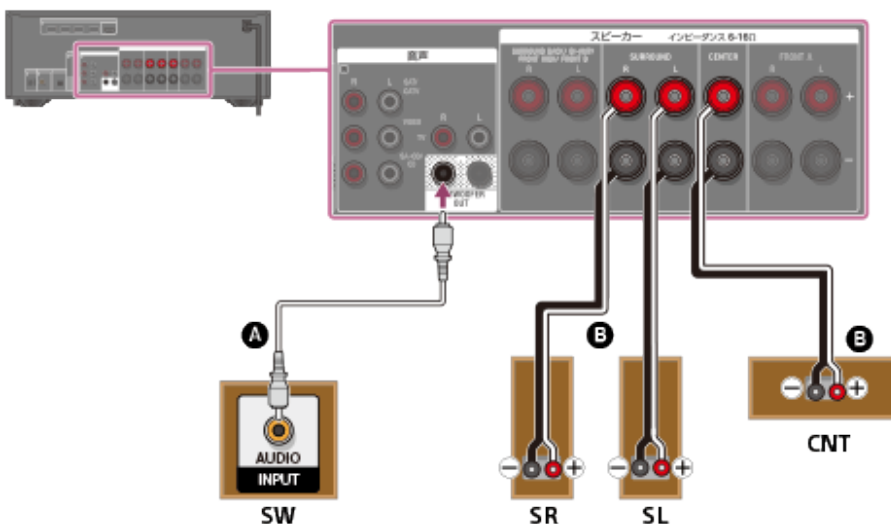
フロントスピーカーのLo（またはHi）側の端子をスピーカーFRONT A端子につなぎ、フロントスピーカーのHi（またはLo）側の端子をスピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につなぎます。

故障を防ぐため、それぞれのスピーカーに付いているHi/Loのショート金具を必ず外してください。



- A スピーカーケーブル（別売）

フロントスピーカー以外のスピーカーを接続する



- A モノラル音声ケーブル（別売）
- B スピーカーケーブル（別売）

バイアンプ接続が完了したら、ホームメニューの [Speaker Setting] - [Surround Back Speakers Assign] を [Bi-Amplifier Speakers] に設定してください。

ヒント

- 表示窓のメニューから、サラウンドバックスピーカー用スピーカー端子の割り当てをすることもできます。 [<SPEAKER>] メニューの [SB ASSIGN] を [BI-AMP] に設定します。
- [SB ASSIGN] は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているときのみ設定できます。

[19] 準備する | 2. スピーカーを接続する

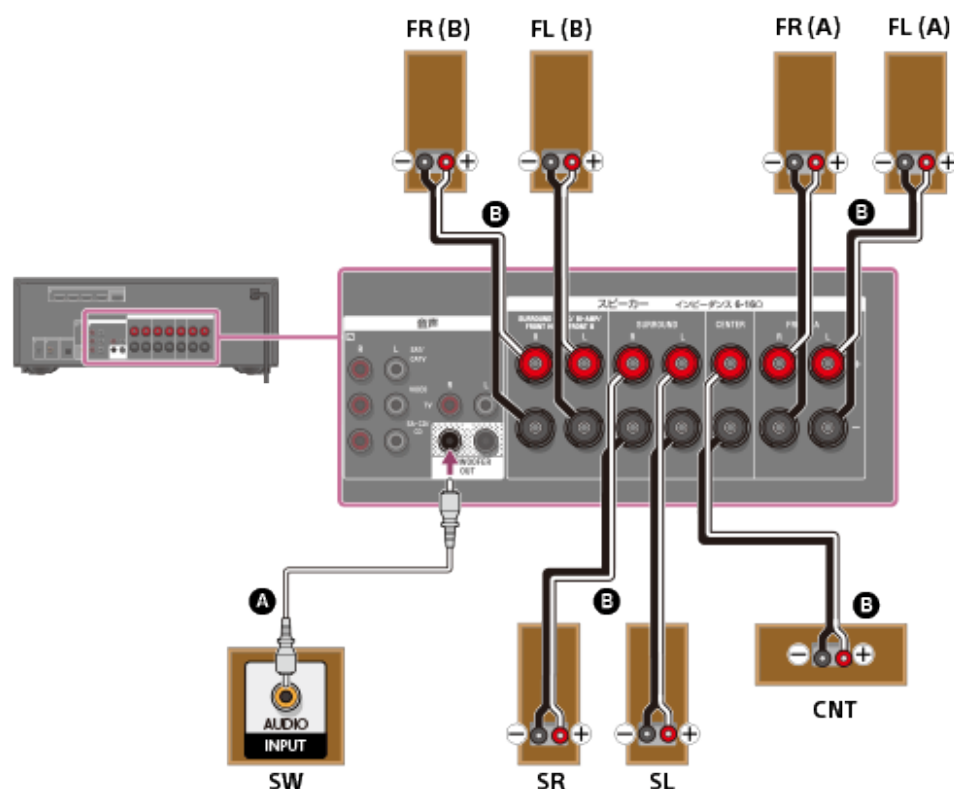
5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）

サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使用していない場合は、もう1組のフロントスピーカーシステムをスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につなぐことができます（フロントBスピーカー接続）。

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについては、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A モノラル音声ケーブル（別売）**
- **B スピーカーケーブル（別売）**

フロントBスピーカーの接続後は、ホームメニューの [Speaker Setting] - [Surround Back Speakers Assign] を [Front B Speakers] に設定してください。
本体前面のSPEAKERSでお好みのフロントスピーカーシステムを選べます。

ヒント

- 表示窓のメニューから、サラウンドバックスピーカー用スピーカー端子の割り当てを変更することもできます。 [<SPEAKER>] メニューの [SB ASSIGN] を [SPK B] に設定します。
- [SB ASSIGN] は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているときのみ設定できます。

[20] 準備する | 3. テレビを接続する

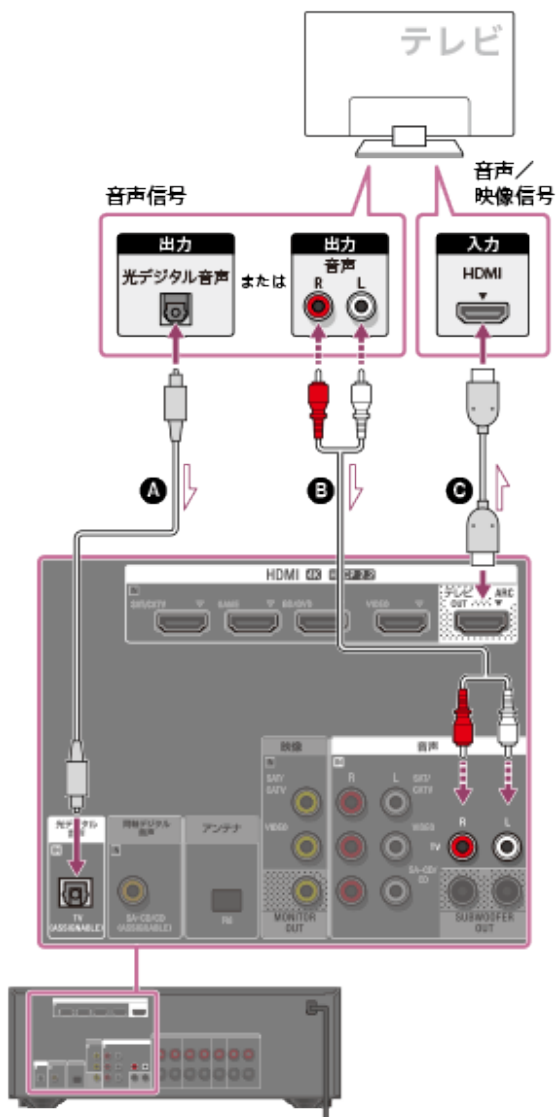
テレビを接続する

HDMIテレビOUTまたはMONITOR OUT端子にテレビをつなぎます。テレビ画面に表示されるメニューを使って操作できます。ホームメニューはHDMIテレビOUT端子につないでいる場合のみ使えます。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能非対応のテレビをつなぐ

実線は音声信号の推奨接続、破線は音声信号の代替接続を示しています。いずれかの方法で接続してください。テレビへの映像／音声信号の出力のためには、HDMIケーブルでの接続が必要です。



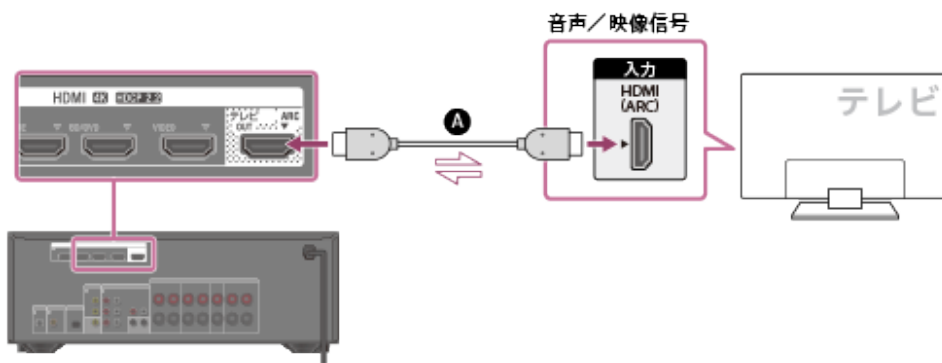
- **A** 光デジタル音声ケーブル（別売）
- **B** 音声ケーブル（別売）
- **C** HDMIケーブル（別売）

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応のテレビをつなぐ

1本のHDMIケーブルをつなぐだけで、アンプに接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。テレビへの映像/音声信号の出力とテレビからの音声信号の入力を同時に行います。



A HDMIケーブル（別売）

ご注意

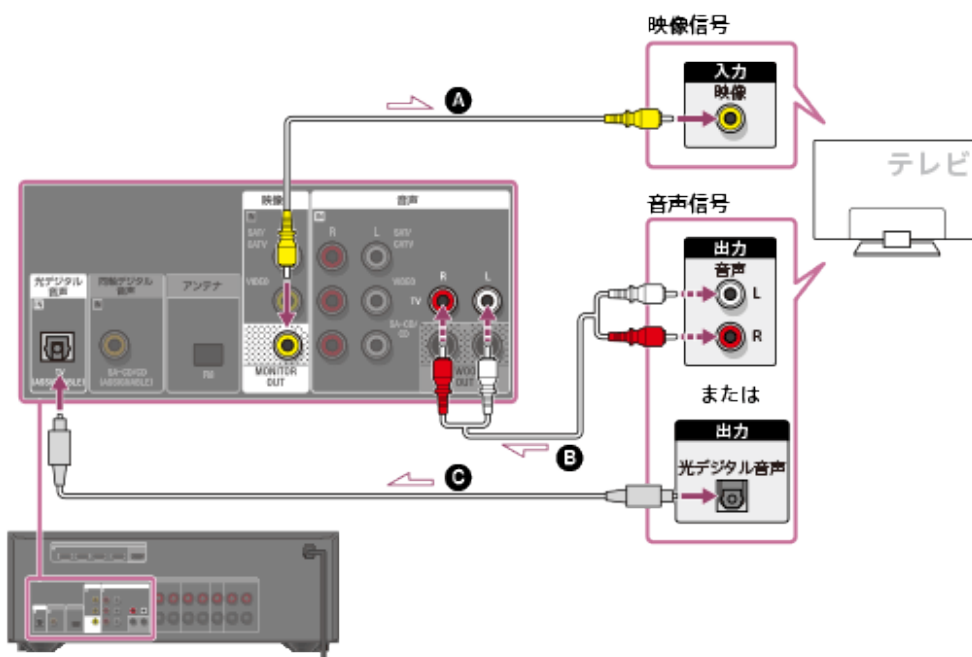
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- この接続でお使いになるには、HDMI機器制御機能を有効に設定する必要があります。AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定してください。

ヒント

- テレビのHDMI端子（「ARC」表示のある端子）に他の機器を接続している場合は、機器を外し、アンプを接続してください。

HDMI端子がないテレビをつなぐ

実線は音声信号の推奨接続、破線は音声信号の代替接続を示しています。いずれかの方法で接続してください。映像信号には、映像ケーブルでの接続が必要です。



A 映像ケーブル（別売）

B 音声ケーブル（別売）

⑥ 光デジタル音声ケーブル（別売）

ご注意

- テレビまたはプロジェクターを本体後面のHDMIテレビOUTまたはMONITOR OUT端子につないでください。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナをアンプからさらに離れたところに設置してください。

ヒント

- テレビを本体後面の音声IN TV端子につなぐ場合に、テレビの音声出力端子に〔固定〕または〔可変〕の設定があるときは、〔固定〕に設定してください。

[21] 準備する | 3. テレビを接続する

4Kテレビを接続する

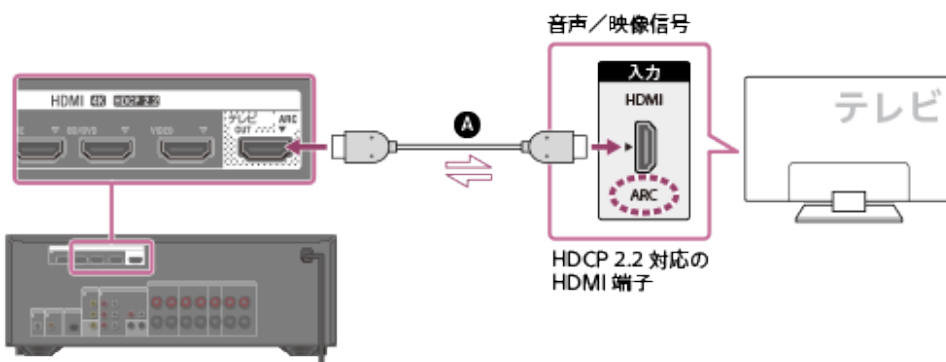
本体後面のすべてのHDMI端子は、HDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に準拠し、4K解像度の信号の入出力に対応しています。

HDCP 2.2は、4K映像など4Kコンテンツの著作権をより強固に保護するために策定された新しい著作権保護規格です。

HDCP 2.2に準拠した著作権保護付きの4Kコンテンツを見る場合は、アンプのHDMI端子を、テレビやAV機器のHDCP 2.2 対応のHDMI端子につなぎます。お使いのテレビやAV機器のどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、テレビまたはAV機器に付属の取扱説明書を参照してください。

4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合は、HDMI信号フォーマットを設定する必要があります。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する \(SIGNAL FMT.\)](#)」をご覧ください。

テレビのHDMI端子にARC表示があり、HDCP2.2に対応している場合（*）



A HDMIケーブル（別売）

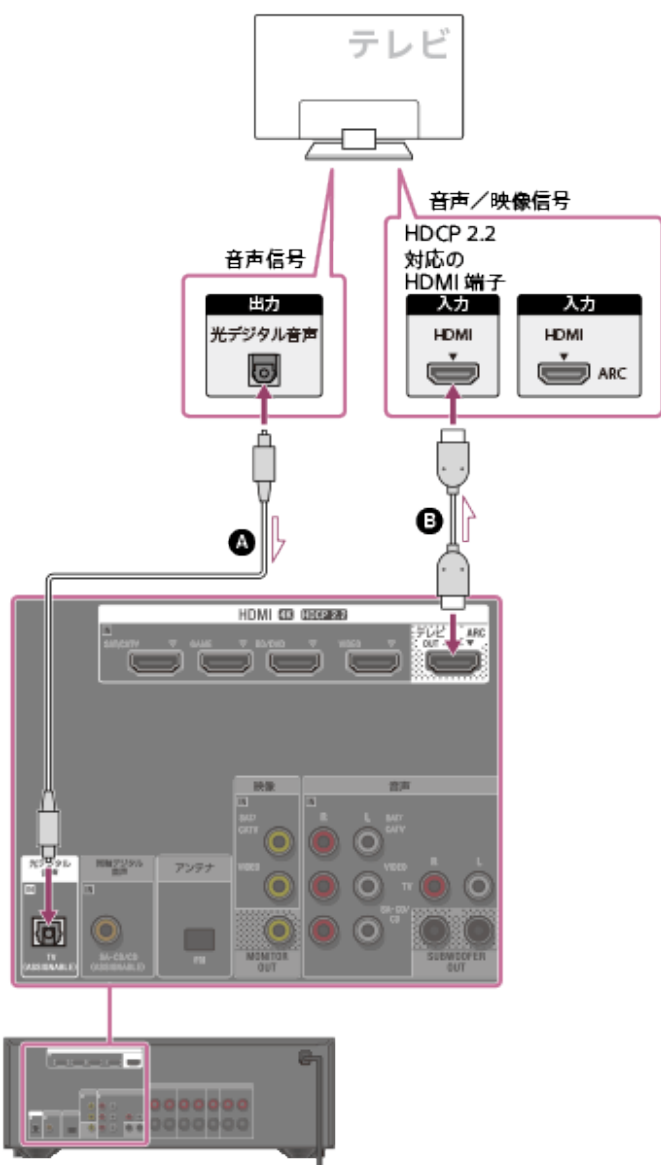
- * ARC（オーディオリターンチャンネル）機能はHDMIケーブルを使って、デジタル音声をテレビからアンプに送信します。

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

テレビのARC表示のあるHDMI端子がHDCP 2.2に非対応の場合

テレビのARC表示のあるHDMI端子がHDCP 2.2に対応していない場合にHDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを視聴するには、HDMIケーブルを使って、テレビのHDCP 2.2対応の別のHDMI入力端子につないでください。この接続の場合、ARC機能を使わないため、デジタル音声を聞くためには、テレビの光デジタル音声出力端子に光デジタル音声ケーブルをつなぐ必要があります。



- Ⓐ 光デジタル音声ケーブル（別売）
- Ⓑ HDMIケーブル（別売）

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブル

ルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

[22] 準備する | 3. テレビを接続する

ケーブル類を接続するときのご注意

- 必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
- すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[HDMI接続について](#)」の「対応する映像フォーマット」をご覧ください。
- また、高帯域幅を必要とする映像フォーマットの場合は、HDMI信号フォーマットを設定する必要があります。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する \(SIGNAL FMT.\)](#)」をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が入力されない場合は、セパレート音声ケーブルやデジタル接続ケーブルをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は入力端子の再割り当てを行ってください。

[23] 準備する | 3. テレビを接続する

HDMI接続について

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブラビアリンク”に対応する機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。

HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号をアンプにつないだスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSDおよびリニアPCMの音声信号に対応しています。
- HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）の信号を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD）、Deep Color、および4Kまたは3D伝送に対応しています。
- 3Dコンテンツを楽しむには、3Dに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー、PlayStation 4など）とアンプを、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のコンテンツを再生してください。
- 4Kコンテンツを楽しむには、4Kに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーなど）とアンプを、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）でつなぎ、4K対応のコンテンツを再生してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする4Kコンテンツなどを楽しむには、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- アンプのすべてのHDMI端子は次の規格・機能に対応しています。
 - HDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に準拠。テレビやAV機器のHDCP 2.2対応端子につないでください。詳しくは、お使いのテレビまたはAV機器の取扱説明書を参照してください。
 - 最大18 Gbpsのデータ転送の帯域幅に対応。
 - ITU-R BT.2020規格に準拠した広色域をサポート。
 - 3D映像信号の伝送をサポート。
 - Deep Color、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能、HDR（High Dynamic Range）信号のパススルー伝送。
- HDCP 2.2は、4K映像などの高精細コンテンツのために強化された最新の著作権保護技術です。
- BT.2020は、スーパーハイビジョンテレビのために策定された新しい広色域規格です。
- HDRは、より広い明るさのダイナミックレンジで映像を表示できる最新の映像フォーマットです。

対応する映像フォーマット

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
4096 × 2160p @ 59.94/60 Hz	○ （*1）	—	—	—

4096 × 2160p @ 50 Hz	○ (* 1)	—	—	—
4096 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○ (* 2)	—	—	—
4096 × 2160p @ 25 Hz	○ (* 2)	—	—	—
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○ (* 2)	—	—	—
3840 × 2160p @ 59.94/60 Hz	○ (* 1)	—	—	—
3840 × 2160p @ 50 Hz	○ (* 1)	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○ (* 2)	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	○ (* 2)	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○ (* 2)	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @				

50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

- *1 入力信号の映像フォーマットがYCbCr 4:4:4、YCbCr 4:2:2、RGB 4:4:4、またはYCbCr 4:2:0 Deep Color (10 bitまたは12 bit) のときは、[<HDMI>]メニューでHDMI信号フォーマットを[ENHANCED]に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する \(SIGNAL FMT.\)](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- *2 入力信号の映像フォーマットがDeep Color (10 bitまたは12 bit) のときは、[<HDMI>]メニューでHDMI信号フォーマットを[ENHANCED]に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する \(SIGNAL FMT.\)](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

ご注意

- お使いのテレビや映像機器によっては、4Kコンテンツや3Dコンテンツが表示されない場合があります。アンプが対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- つないだ機器について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

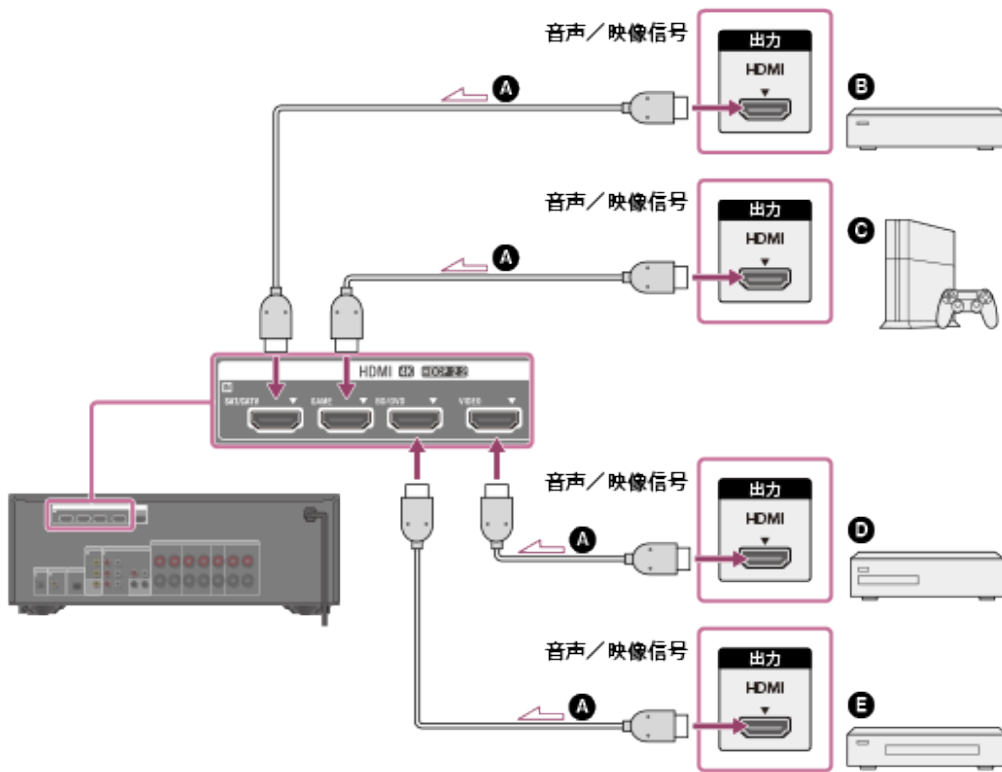
[24] 準備する | 4. AV機器／アンテナを接続する

HDMI端子を使って機器を接続する

機器を下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

すべてのHDMI端子がHDCP 2.2 (High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2) に対応しています。4KコンテンツなどのHDCP 2.2対応の著作権保護されたコンテンツを見る場合は、これらの端子を、テレビやAV機器のHDCP 2.2対応のHDMI端子につなぎます。詳しくは、それぞれの機器に付属の取扱説明書を参照してください。



- **A** HDMIケーブル（別売）
- **B** ケーブルテレビ（CATV）ボックス、衛星放送チューナー
- **C** PlayStation 4などのゲーム機
- **D** DVDレコーダー/プレイヤー
- **E** ブルーレイディスクレコーダー/プレイヤー

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

ヒント

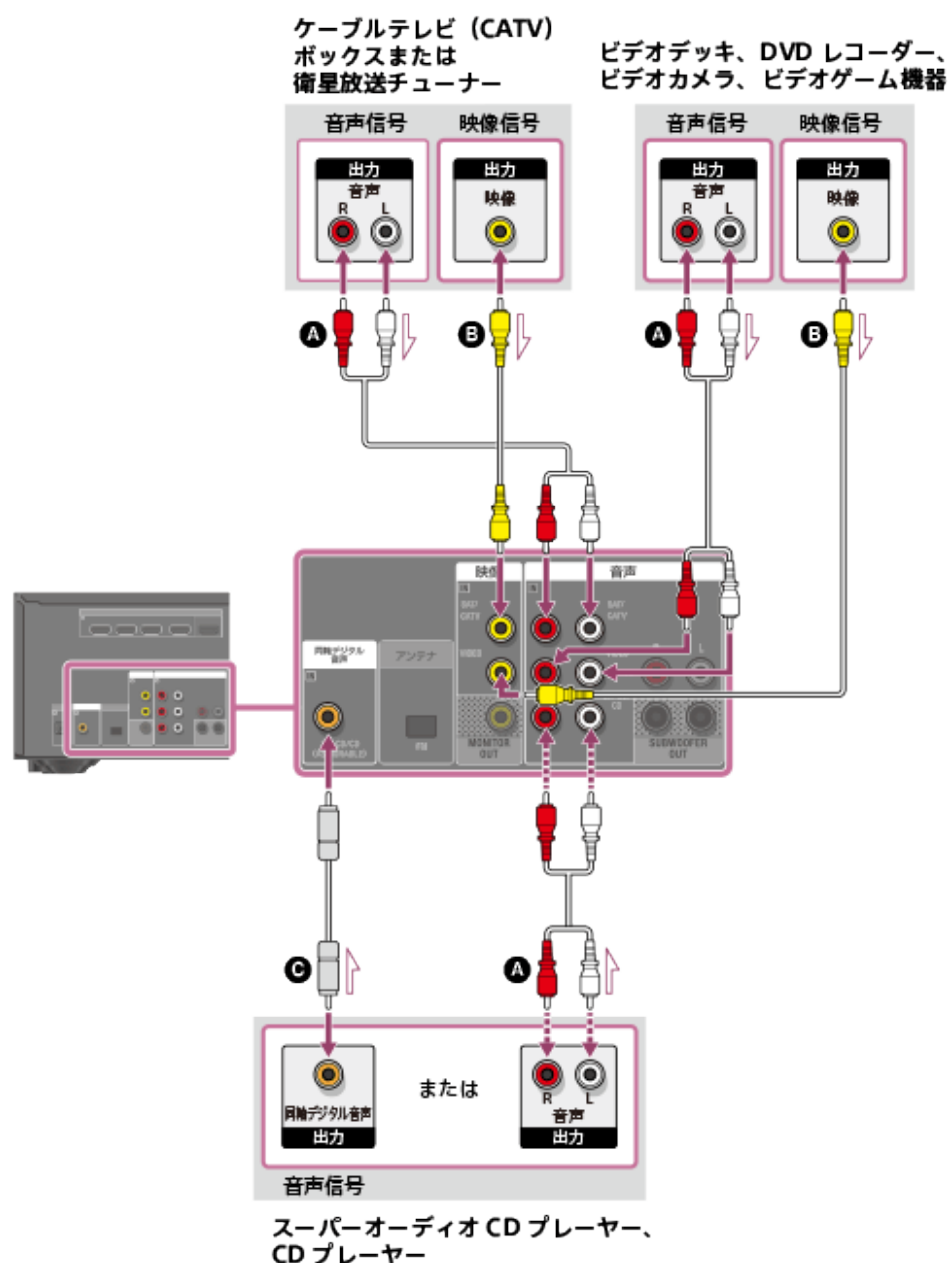
- 上記の接続は一例です。各HDMI機器はアンプのいずれかのHDMI入力端子につないでください。
- 画質は接続する端子に左右されます。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

[25] 準備する | 4. AV機器/アンテナを接続する

HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

機器を下図のようにつないでください。

実線は推奨接続、破線は代替接続を示しています。いずれかの方法で接続してください。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。



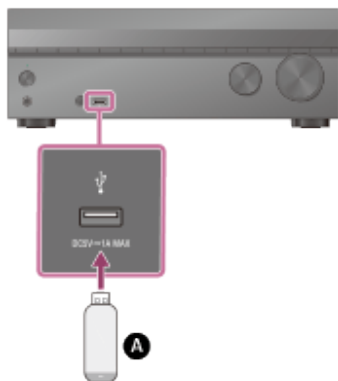
- **A** 音声ケーブル (別売)
- **B** 映像ケーブル (別売)
- **C** 同軸デジタル音声ケーブル (別売)

ヒント

- 本体前面の表示窓に表示できるように、各入力名を変更できます。詳しくは、「各入力の名前を変更する (NAME IN)」をご覧ください。
- 画質は接続する端子に左右されます。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

USB機器を接続する

USB機器を下図のようにつないでください。



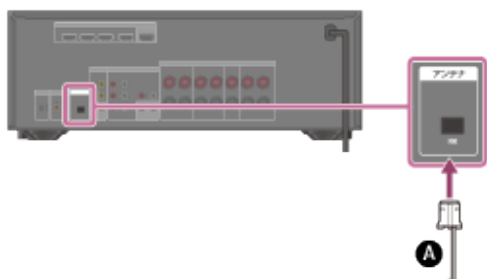
A USB機器

ご注意

- iPhone、iPodをUSB接続で再生することはできません。

アンテナを接続する

付属のFMアンテナ線を下図のようにつないでください。
必ず電源コードを抜いた状態で、アンテナ線をつないでください。



A FMアンテナ線（付属）

ご注意

- FMアンテナ線は必ず完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線を接続したら、できるだけ水平になるように設置してください。

再生できるデジタル音声フォーマット

デコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。以下の音声フォーマットに対応しています。[] 内は表示窓に表示される文言を示しています。

デジタル音声フォーマット	最大チャンネル数	アンプと再生機器との接続
ドルビーデジタル [DOLBY D]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI
ドルビーデジタルEX [DOLBY D EX]	6.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI
ドルビーデジタルプラス [DOLBY D +] (*1)	7.1	HDMI
ドルビーTrueHD [DOLBY HD] (*1)	7.1	HDMI
DTS [DTS]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI
DTS-ES Discrete [DTS-ES DSC]	6.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI
DTS-ES Matrix [DTS-ES MTX]	6.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI
DTS 96/24 [DTS 96/24]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI
DTS-HD High Resolution Audio [DTS-HD HR] (*1)	7.1	HDMI
DTS-HD Master Audio [DTS-HD MA] (*1) (*2)	7.1	HDMI
DSD [DSD] (*1)	5.1	HDMI
マルチチャンネルリニアPCM [PCM] (*1)	7.1	HDMI
MPEG-2 AAC (LC) [MPEG-2 AAC] (*1)	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI

- *1 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。
- *2 96 kHz以上のサンプリング周波数の信号は、96 kHzまたは88.2 kHzのサンプリング周波数で再生されます。

[29] 準備する | 4. AV機器／アンテナを接続する

ケーブル類を接続するときのご注意

- 必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
- すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[HDMI接続について](#)」の「対応する映像フォーマット」をご覧ください。
- また、高帯域幅を必要とする映像フォーマットの場合は、HDMI信号フォーマットを設定する必要があります。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する \(SIGNAL FMT.\)](#)」をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が正しく出力されない場合は、セパレート音声ケーブルやデジタル接続ケーブルをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は入力端子の再割り当てを行ってください。

[30] 準備する | 4. AV機器／アンテナを接続する

HDMI接続について

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブラビアリンク”に対応する機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。

HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号をアンプにつないだスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSDおよびリニアPCMの音声信号に対応しています。
- HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）の信号を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD）、Deep Color、および4Kまたは3D伝送に対応しています。
- 3Dコンテンツを楽しむには、3Dに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー、PlayStation 4など）とアンプを、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のコンテンツを再生してください。
- 4Kコンテンツを楽しむには、4Kに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーなど）とアンプを、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）でつなぎ、4K対応のコンテンツを再生してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする4Kコンテンツなどを楽しむには、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- アンプのすべてのHDMI端子は次の規格・機能に対応しています。
 - HDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に準拠。テレビやAV機器のHDCP 2.2対応端子につないでください。詳しくは、お使いのテレビまたはAV機器の取扱説明書を参照してください。
 - 最大18 Gbpsのデータ転送の帯域幅に対応。
 - ITU-R BT.2020規格に準拠した広色域をサポート。
 - 3D映像信号の伝送をサポート。
 - Deep Color、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能、HDR（High Dynamic Range）信号のパススルー伝送。
- HDCP 2.2は、4K映像などの高精細コンテンツのために強化された最新の著作権保護技術です。
- BT.2020は、スーパーハイビジョンテレビのために策定された新しい広色域規格です。
- HDRは、より広い明るさのダイナミックレンジで映像を表示できる最新の映像フォーマットです。

対応する映像フォーマット

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
4096 × 2160p @ 59.94/60 Hz	○ （*1）	—	—	—

4096 × 2160p @ 50 Hz	<input type="radio"/> (* 1)	—	—	—
4096 × 2160p @ 29.97/30 Hz	<input type="radio"/> (* 2)	—	—	—
4096 × 2160p @ 25 Hz	<input type="radio"/> (* 2)	—	—	—
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz	<input type="radio"/> (* 2)	—	—	—
3840 × 2160p @ 59.94/60 Hz	<input type="radio"/> (* 1)	—	—	—
3840 × 2160p @ 50 Hz	<input type="radio"/> (* 1)	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz	<input type="radio"/> (* 2)	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	<input type="radio"/> (* 2)	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz	<input type="radio"/> (* 2)	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1920 × 1080p @ 50 Hz	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1920 × 1080p @ 25 Hz	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1920 × 1080i @ 50 Hz	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1280 × 720p @				

50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

- *1 入力信号の映像フォーマットがYCbCr 4:4:4、YCbCr 4:2:2、RGB 4:4:4、またはYCbCr 4:2:0 Deep Color (10 bitまたは12 bit) のときは、[<HDMI>]メニューでHDMI信号フォーマットを[ENHANCED]に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する \(SIGNAL FMT.\)](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- *2 入力信号の映像フォーマットがDeep Color (10 bitまたは12 bit) のときは、[<HDMI>]メニューでHDMI信号フォーマットを[ENHANCED]に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する \(SIGNAL FMT.\)](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

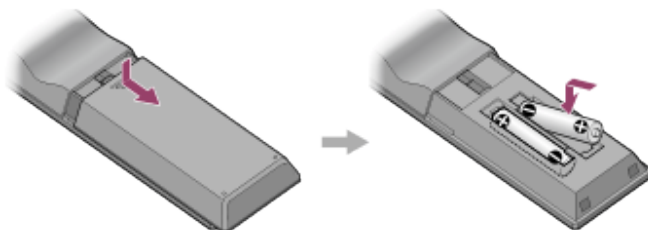
ご注意

- お使いのテレビや映像機器によっては、4Kコンテンツや3Dコンテンツが表示されない場合があります。アンペアに対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- つないだ機器について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

[31] 準備する | 5. 電源を入れる／リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる

リモコンに単4形マンガン乾電池（付属）2本を入れます。乾電池を入れるときは+と-が正しい向きか確認してください。



ご注意

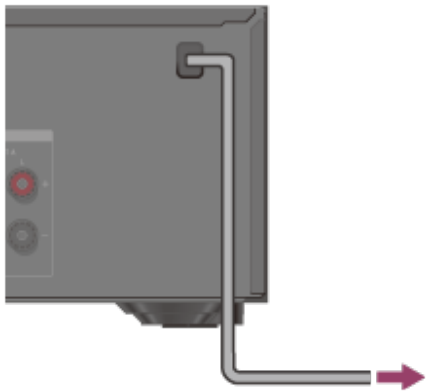
- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、本体前面のリモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因になります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- リモコンが認識されなくなったら、乾電池を2本とも新しいものに交換してください。

[32] 準備する | 5. 電源を入れる／リモコンを準備する

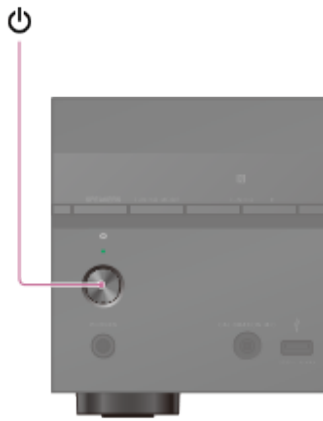
電源を入れる

電源コードをつなぐ前に、必ずスピーカーやアンプとつないでお使いになるすべての機器との接続を行ってください。

1 電源コードを壁のコンセントにつなぐ。



2 電源（電源）を押して、電源を入れる。



リモコンの⏻（電源）でも電源を入れることができます。電源を切るときには、もう一度⏻（電源）を押します。

ご注意

- 電源を切ったあと、表示窓に [STANDBY] が点滅します。[STANDBY] が点滅中は電源コードを抜かないでください。故障の原因になります。

[33] 準備する | 6. Easy Setup（かんたん設定）を使って初期設定を行う

Easy Setup（かんたん設定）を使って設定する

アンプの電源を初めて入れたときや初期化後に電源を入れたときには、テレビ画面に Easy Setup の設定画面が表示されます。画面の指示に従って、以下の機能を設定できます。

- **Language**
画面のメッセージに使用する言語を選べます。
- **Surround Back Speakers Assign**
スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子への割り当てを設定できます。
- **Auto Calibration**
スピーカーの構成や距離、視聴環境などを測定し、音のバランスを最適な状態に補正します。

ご注意

- この機能を使うには、テレビの入力を、アンプをつないでいる入力に切り替えてください。

Easy Setup画面が表示されない、または手動で Easy Setup画面を表示させたい場合は、HOMEを押してホームメニューを表示し、[Easy Setup] を選んでください。

[34] 準備する | 6. Easy Setup (かんたん設定) を使って初期設定を行う

言語を選ぶ (Language)

画面のメッセージに使用する言語を選べます。

① ホームメニューから [Easy Setup] を選ぶ。

② お好みの言語を選ぶ。

- English : 英語
- Español : スペイン語
- Français : フランス語
- Deutsch : ドイツ語

[35] 準備する | 6. Easy Setup (かんたん設定) を使って初期設定を行う

サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する (Surround Back Speakers Assign)

スピーカー-SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子への割り当てを設定できます。

① ホームメニューから [Speaker Setting] を選ぶ。

② [Surround Back Speakers Assign] を選ぶ。

③ スピーカー-SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子に対して、以下のいずれかの割り当てを設定する。

- Surround Back Speakers : サラウンドバックスピーカーを使うとき。
- Bi-Amplifier Speakers : バイアンプ接続を使うとき。
- Front B Speakers : フロントBスピーカーを使うとき。
-

Front High Speakers: フロントハイスピーカーを使うとき。

- **None Speaker :** 上記の接続を使わないとき。

ご注意

- [Surround Back Speakers Assign] はヘッドホンをつないでいないときのみ設定することができます。

ヒント

- 表示窓の [<SPEAKER>] メニューの [SB ASSIGN] から、サラウンドバックスピーカー端子の割り当てをすることもできます。

[36] 準備する | 自動音場補正を行う

1. 自動音場補正について

自動音場補正機能で以下の自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーとアンプの接続の確認
- スピーカーレベルの調節
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定（*）
- スピーカーサイズの測定（*）
- 周波数特性の測定（EQ）（*）

* [DIRECT] が使われていてアナログ入力選ばれているときは、測定結果は使用できません。

ご注意

- 自動音場補正（D.C.A.C.）は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。ただし、スピーカーのレベルは、[Speaker Setting] メニューの [Level] を使ってお好みに合わせて手動で調節できます。

[37] 準備する | 自動音場補正を行う

2. 自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に、以下の項目を実行または確認してください。

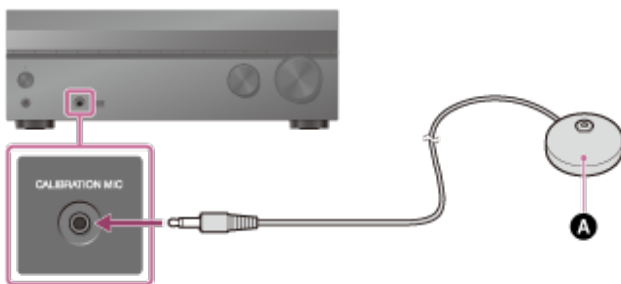
- スピーカーを配置し、接続が完了していること。
- CALIBRATION MIC端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には他のマイクをつながないでください。
- バイアンプ接続またはフロントBスピーカー接続を使用する場合は、スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の割り当てを正しく設定してください。
- スピーカー出力が [SPK OFF] 以外に設定されていることを確認する。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子さまに充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

[38] 準備する | 自動音場補正を行う

3. 測定用マイクをつなぐ



A 測定用マイク（付属）

1 CALIBRATION MIC端子に付属の測定用マイクをつなぐ。

2 測定用マイクを配置する。

視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

[39] 準備する | 自動音場補正を行う

4. フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。

操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

- 1 本体前面のSPEAKERSをくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

SPEAKERS



どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SP A :**
スピーカーFRONT A端子につないだスピーカー
- **SP B (*):**
スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につないだスピーカー
- **SP A B (*):**
スピーカーFRONT A端子およびスピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の両方につないだスピーカー (パラレル接続)
- **(表示なし):**
[SPK OFF] が表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

* [SP B] または [SP A B] を選ぶには、ホームメニューの [Speaker Setting] - [Surround Back Speakers Assign] を使って、スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の割り当てを [Front B Speakers] に設定してください。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

5. 自動音場補正を行う

視聴位置から自動音場補正を実行します。

① ホームメニューから **[Easy Setup]** を選ぶ。

② テレビ画面の指示に従って操作し、**[Start]** を選ぶ。

数秒後に測定が始まります。

測定が完了するのにおよそ30秒かかり、テスト音が鳴り続きます。

測定が終わると、ピープ音とともに画面が切り替わります。

③ お好みの項目を選ぶ。

- **Retry** : 自動音場補正を再度実行します。
- **Save&Exit** : 測定結果を保存し、設定を終了します。
- **Exit** : 測定結果を保存せずに設定を終了します。

測定結果について詳しくは、「[6. 自動音場補正の結果を確認する](#)」をご覧ください。

④ 測定結果を保存する。

手順3で **[Save&Exit]** を選びます。

ご注意

- 手順2でエラーコードや警告メッセージが表示された場合は、「[自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)」をご覧ください。
- ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

ヒント

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。
 - 電源 (電源) を押す。
 - リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
 - リモコンのHOME、AMP MENUまたは \times を押す。
 - 本体前面のSPEAKERSを押す。
 - 音量を調節する。
 -

[41] 準備する | 自動音場補正を行う

6. 自動音場補正の結果を確認する

以下の手順に従って、自動音場補正で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

1 [Retry] を選ぶ。

2 テレビ画面の指示に従って操作し、[Start] を選ぶ。

数秒後に測定が始まります。

測定が完了するのにおよそ30秒かかり、テスト音が鳴り続きます。

測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。

3 お好みの項目を選ぶ。

- **Retry** : 自動音場補正を再度実行します。
- **Save&Exit** : 測定結果を保存し、設定を終了します。
- **Exit** : 測定結果を保存せずに設定を終了します。

4 測定結果を保存する。

手順3で [Save&Exit] を選びます。

警告メッセージが表示されたら

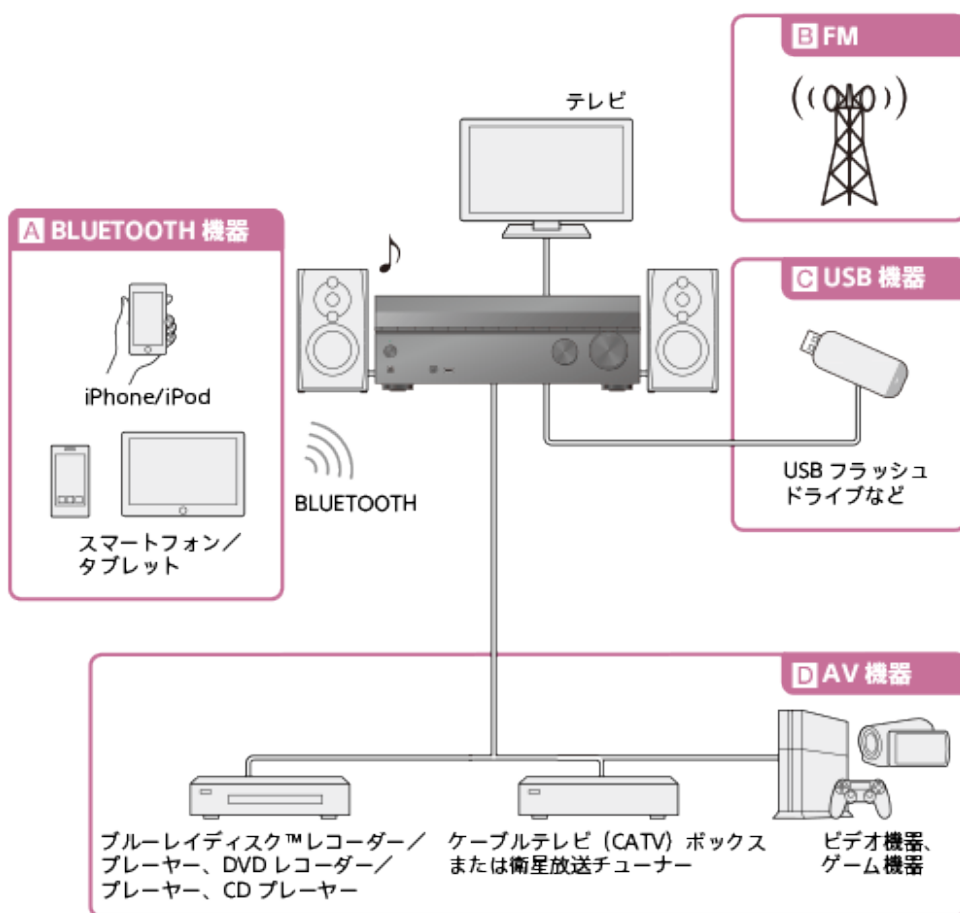
警告メッセージを確認して、[OK] を選びます。警告メッセージについては、「[自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)」をご覧ください。

- アクティブサブウーファースの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のまままで使用できます。

[42] 映像や音源を楽しむ | AV機器を再生する

映像や音源を楽しむ

ここでは、アンプを使用しての映像や音源の楽しみかたを説明します。
例えば、下図のように複数の機器をアンプにつなぐことができます。



A BLUETOOTH機器

iPhone/iPodまたはスマートフォンやタブレットの音楽コンテンツを楽しむ

iPhone/iPodまたはスマートフォンやタブレットに保存した音楽コンテンツなどの音源を、BLUETOOTH経由でアンプに送信して楽しむことができます。

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ (ペアリング操作)

B FM

FMラジオを聞く

内蔵のFMチューナーで、高音質のFMラジオ放送を楽しむことができます。

プリセット登録機能を使って、お好みのFMラジオの放送局を30局まで登録することができます。

FMラジオを聞く

C USB機器

USB機器の音楽コンテンツを楽しむ

外部ハードディスク、USBフラッシュドライブなどのUSB機器を本体前面の ψ (USB) ポートに接続し、アンプに接続したスピーカーやヘッドホンで音楽を聞くことができます。

USB機器の音楽コンテンツを楽しむ

D AV機器

ブルーレイディスクプレーヤー、CDプレーヤー、ケーブルテレビ (CATV) ボックス、衛星放送チューナーまたはゲーム機器などのAV機器の映像/音声を楽しむ

AV機器をアンプに接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。

アンプのHDMI端子はHDCP 2.2に対応していますので、衛星放送やストリーミングサービスなどの4Kコンテンツを楽しむことも可能です。

つないだ機器の映像や音源を楽しむ

[43] 映像や音源を楽しむ | AV機器を再生する

テレビ画面に表示されたメニューを使う

アンプのメニューをテレビ画面に表示できます。

- 1 テレビの入力を、アンプをつないでいるHDMI入力に切り替える。
- 2 リモコンのHOMEを押して、テレビ画面にホームメニューを表示する。



- 3 リモコンの ◀ / ▶ をくり返し押ししてお好みのメニューを選び、 ⏏ を押して決定する。

ホームメニューの項目

Watch : 接続機器の映像を見るときに選びます。

Listen : 接続機器の音源を聞くとときに選びます。

Easy Setup : Easy Setupを実行するときを選びます。

Speaker Setting : スピーカーの設定を調節するときを選びます。

ヒント

- 前の画面に戻るには、BACKを押します。
- メニューを閉じるには、HOMEを押してホームメニューを表示させ、もう一度HOMEを押します。

[44] 映像や音源を楽しむ | AV機器を再生する

つないだ機器の映像や音源を楽しむ

① テレビの入力を、アンプをつないでいるHDMI入力に切り替える。

② HOMEを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



③ ホームメニューから [Watch] または [Listen] を選ぶ。

メニュー項目リストが表示されます。

4 使用する機器を選ぶ。

5 機器の電源を入れて再生を開始する。

6 \triangleleft +/-を押して、音量を調節する。

本体前面のMASTER VOLUMEつまみでも調節できます。

ご注意

- スピーカーの破損を防ぐために、電源を切る前に音量を下げておいてください。

ヒント

- 本体前面のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力切り替え用ボタンを押しても、使用する機器を選べます。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンの \triangleleft +/-ボタンを使うと、音量の調節速度や調節量を変えられます。
音量を素早く上げ/下げするには

- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみを素早く回す。
- リモコンのボタンを押したままにする。

音量を微調節するには

- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをゆっくり回す。
- リモコンのボタンを短く押す。

[45] 映像や音源を楽しむ | AV機器を再生する

テレビ放送の音声をアンプで楽しむ（オーディオリターンチャンネル）

テレビのオーディオリターンチャンネル（ARC）対応HDMI入力端子にアンプを接続した場合は、光デジタル音声ケーブルやアナログ音声ケーブルを接続せずにテレビの音声をアンプに接続したスピーカーで聞くことができます。テレビの音声をアンプにつないだスピーカーから出力するには、以下の手順で設定してください。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<HDMI>] メニューから [CTRL HDMI] を選ぶ。
- 3 [CTRL ON] を選ぶ。

お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合、またはHDMIケーブル以外のケーブル（光デジタル音声ケーブルまたは音声ケーブル）経由の音声信号を選びたい場合

音声入力モードを切り替えてください。詳しくは、「[デジタル音声とアナログ音声を切り替える \(INPUT MODE\)](#)」をご覧ください。

ご注意

- オーディオリターンチャンネルはソニー製以外の機器でも働く場合がありますが、動作を保証するものではありません。
- 必ず事前にテレビの音量をオフにするか、または消音機能を有効にしてください。
- お使いのテレビにシステムオーディオコントロール機能がない場合にテレビのスピーカーとアンプにつないだスピーカーから音声を出力するには、AMP MENUを押し、表示窓の [<HDMI>] メニューで [AUDIO OUT] を [TV+AMP] に設定してください。

[46] 映像や音源を楽しむ | AV機器を再生する

HDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを見る

4Kコンテンツなど、HDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを見る場合は、テレビとアンプのHDCP 2.2対応のHDMI端子同士をつなぎます。著作権保護された4Kコンテンツは、HDCP 2.2対応のHDMI端子に対応機器を接続しないと視聴できません。お使いのテレビまたは4K対応機器がHDCP 2.2対応のHDMI端子を装備しているかどうかは、テレビまたは4K対応機器に付属の取扱説明書を参照してください。

[47] 映像や音源を楽しむ | iPhone/iPodのコンテンツを再生する

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

BLUETOOTH機器では、あらかじめワイヤレス接続する機器同士を登録しておく必要があります。この登録のことを「ペアリング」といいます。一度ペアリングをすれば、同じBLUETOOTH機器に対してペアリングは不要です。

1 BLUETOOTH機器をアンプから1メートル以内の場所に置く。

2 リモコンのBLUETOOTHを押して、BLUETOOTH機能を選ぶ。

3 リモコンの  PAIRINGを押して、アンプをペアリングモードにする。

表示窓に [PAIRING] が表示され、[BT] が素早く点滅を始めます。

5分以内に手順4を行ってください。

5分以内に手順4を行わない場合は、自動的にペアリングモードは解除されます。その場合は、もう一度アンプをペアリングモードにしてください。

4 BLUETOOTH機器でペアリングを行い、アンプを検出する。

詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。

BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。本機は [STR-DH770] として表示されます。

5 BLUETOOTH機器の画面で [STR-DH770] を選ぶ。

[STR-DH770] が表示されない場合は、手順1からやり直してください。

6 接続が完了し、表示窓の [BT] が点灯していることを確認する。

7 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

8 音量を調節する。

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、アンプ側で音量レベルを調節します。

ペアリングモードを解除するには

手順3の後、本体前面のCONNECTION ■ PAIRING BLUETOOTHを長押しする。

ご注意

- 手順2で本体前面のINPUT SELECTORを使ってBLUETOOTH機能の選ぶこともできます。
- お使いのBLUETOOTH機器がAVRCPプロファイルに対応していない場合は、アンプで再生などの操作はできません。
- 手順6でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大9台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。10台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器のペアリング情報が、新しくペアリングした機器のペアリング情報と置き替わります。

ヒント

- 本体前面のCONNECTION ■ PAIRING BLUETOOTHを長押ししてアンプをペアリングモードにすることもできます。
- BLUETOOTH機器の種類によっては、BLUETOOTH機器の操作ボタンでも音量を調節できます。

[48] 映像や音源を楽しむ | iPhone/iPodのコンテンツを再生する

対応iPhone/iPodモデル

本機が対応しているiPhone/iPodモデルは以下のとおりです。アンプにつないで使用する前にiPhone/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。

BLUETOOTH接続時

- **iPhone :**
iPhone 6s Plus/iPhone 6s/iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5
- **iPod touch :**
iPod touch (第5世代および第6世代)

ヒント

- BLUETOOTH接続でSongPalアプリを使うことができます。

USB機器の音楽コンテンツを楽しむ

ψ (USB) ポートにUSB機器をつないで、保存されている音楽を楽しむことができます。

1 ホームメニューから【Listen】 - 【USB】を選ぶ。

USB機器を ψ (USB) ポートにつないでいるときは、表示窓に【USB】が点灯します。アンプに付属のリモコンを使ってUSB機器を操作できます。

2 ◀◀/▶▶を押して、再生したい曲を選ぶ。

曲の再生が始まり、表示窓に曲番号が表示されます。

リモコンを使ってUSB機器を操作するには

USBを押してから、以下のボタンをお使いください。

- ▶|| : 再生を開始または一時停止します。
- : 再生を停止します。
- ◀◀/▶▶ : 前の曲または次の曲の先頭へ移動します。

ご注意

- DRM (Digital Rights Management) 著作権保護付きの音源は、再生できません。

USBの仕様および対応USB機器

USBの仕様

対応音声フォーマット (*)

本機で再生できる音声フォーマットは以下のとおりです。

MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) :

.mp3

WMA :

.wma

AAC :

.m4a、.mp4、.3gp

WAV :

.wav

* あらゆるエンコード/ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。

ご注意

- ファイルフォーマットやエンコードの状況、または記録媒体への記録の状態によっては、再生できないことがあります。
- パソコンで編集したファイルは再生できないことがあります。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- 本機が認識できる、USB機器のフォルダーパスの最大文字数、最大音声ファイル数/フォルダー数は次のとおりです。
 - 認識可能なフォルダーパスの文字数：128文字まで
 - 認識可能な最大フォルダー数：200個（ルートフォルダー含む）
 - 認識可能なフォルダーあたりの最大音声ファイル数：150個

最大音声ファイル数と最大フォルダー数は、ファイルとフォルダーの階層構造によって異なる場合があります。サポート外の形式のファイルや不要なフォルダーは、USB機器に保存しないでください。

- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。

対応USB機器

マスタストレージクラス（MSC）対応機器

最大電流

1 A

検証済ソニー製USB機器

本機でお使いになれるソニー製USB機器は以下のとおりです。

Walkman :

NW-E062/E063

NW-E083

NW-F800シリーズ

NW-F805

NW-F887

NW-M505

NW-S14/S15

NW-S784/S785/S786

NW-WH303

NW-ZX1/ZX2

NWZ-M504

NWZ-ZX2

ポケットビット：

USM16GQX/128GQX

ICレコーダー／ラジオレコーダー／リニアPCMレコーダー：

ICD-BX332

ICD-PX333D/PX333F/PX333M/PX440

ICZ-R100

ICZ-R250TV

PCM-D100

ご注意

- NTFSフォーマットのデータを読み取ることはできません。
- ハードディスクの最初のパーティションに保存されたデータ以外を読み取ることはできません。
- ここにリストアップされていない機種種の動作は保証しません。
- ここにリストアップされているUSB機器をご使用の場合でも、すべての動作を保証するものではありません。
- ここにリストアップされているUSB機器の一部の機種は、地域によっては入手できない場合があります。
- ここにリストアップされている機種をフォーマットするときは、その機器自体のフォーマット機能または機種専用のフォーマット用ソフトウェアを使ってフォーマットしてください。
- USB機器をつなぐときは、USB機器のライブラリーやデータベースを作成中であることを示す表示が消えていることを確認してください。

[51] 映像や音源を楽しむ | USB機器のコンテンツを再生する

USB機器使用上のご注意

- 操作中にUSB機器を取り外さないでください。データ破損やUSB機器の破損を防ぐため、USB機器を取り外すときは、アンプの電源を切ってください。
- アンプとUSB機器をUSBハブを介してつながないでください。
- USB機器をつないでいるときは、[READING]が表示されます。
- USB機器の種類によっては、[READING]が表示されるまでに10秒ほどかかることがあります。
- USB機器をつないだときは、USB機器のすべてのファイルを読み込みます。USB機器にたくさんのフォルダーやファイルが保存されていると、USB機器を読み込むのに時間がかかることがあります。
- アンプが認識できる、USB機器のフォルダーパスの最大文字数、最大音声ファイル数／フォルダー数は次のとおりです。

- 認識可能なフォルダーパスの文字数：128文字まで
- 認識可能な最大フォルダー数：200個（ルートフォルダー含む）
- 認識可能なフォルダーあたりの最大音声ファイル数：150個

最大音声ファイル数と最大フォルダー数は、ファイルとフォルダーの階層構造によって異なる場合があります。サポート外の形式のファイルや不要なフォルダーは、USB機器に保存しないでください。

- あらゆるエンコード/ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。互換性のないソフトやハードを使って作成した音声ファイルを保存したUSB機器を再生すると、ノイズが発生したり、音が途切れたり、あるいはまったく再生されないことがあります。
- 以下のような場合は、再生開始までに時間がかかることがあります。
 - フォルダーの階層構造が複雑な場合
 - メモリー容量が極端に大きい場合
- アンプのUSB機能は、お使いのUSB機器のすべての機能をサポートするものではありません。
- アンプでの再生順は、USB機器の再生順とは異なることがあります。
- ファイルが保存されていないUSB機器を接続すると、表示窓に [NO TRACK] が表示されます。
- 非常に長いトラックを再生しているときは、一部の操作が再生を遅らせる原因となる場合があります。

[52] 映像や音源を楽しむ | ラジオを聞く

FMラジオを聞く

内蔵チューナーを通してFM放送を聞くことができます。以下の手順で放送局を自動的に合わせます。必ず事前にFMアンテナをつないでください。

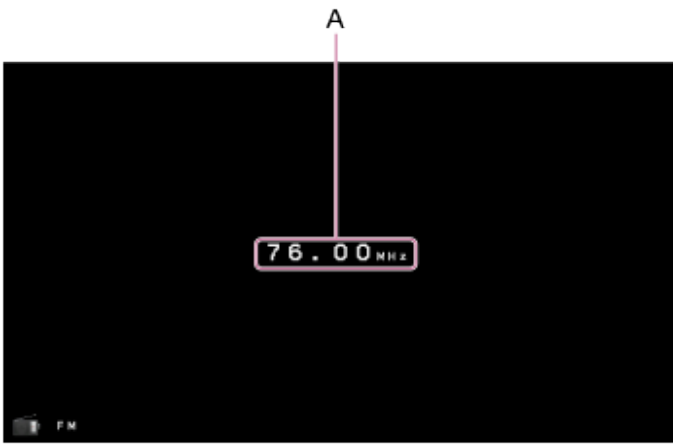
1 ホームメニューから [Listen] - [FM] を選ぶ。

FM画面が表示されます。

2 FM画面に表示されている周波数の数字が動き始めるまで、◀◀または▶▶を押したままにする。

オートスキャン（自動的に放送局を探す）が始まり、受信可能な放送局が見つかったら自動的にスキャンが停止します。

FM画面



A：周波数表示

現在受信している放送局の周波数を表示します。

ヒント

- リモコンの▲/▼または本体前面のTUNING +/-で選局することもできます。

[53] 映像や音源を楽しむ | ラジオを聞く

FMラジオ放送局を登録する（プリセットメモリー）

お気に入りの放送局として、FM局を最大30局登録できます。

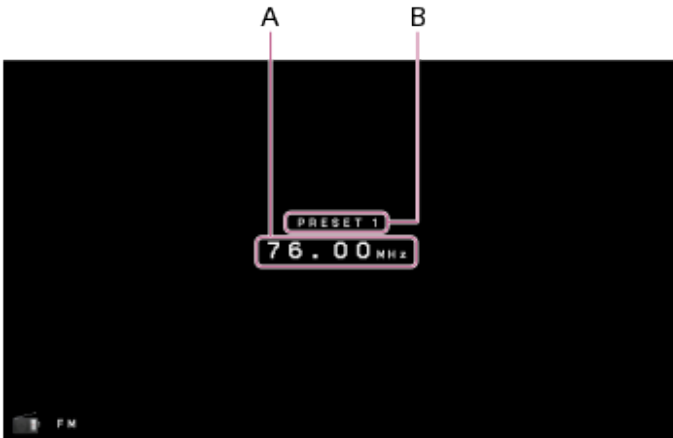
- 1 ホームメニューから【Listen】 - 【FM】を選ぶ。
FM画面が表示されます。
- 2 プリセットしたい放送局を受信する。
- 3 MEMORYを押す。
- 4 PRESET +/-を押して、プリセット番号を選ぶ。
- 5 MEMORYをもう一度押す。

選んだプリセット番号で放送局が登録されます。

6 手順2から5をくり返して、他の放送局を登録する。

PRESET 1からPRESET 30までFM放送局を登録できます。

FM画面



A : 周波数表示

現在受信している放送局の周波数を表示します。

B : プリセット番号

選んだプリセット番号

[54] 映像や音源を楽しむ | ラジオを聞く

プリセットした放送局に名前をつける (NAME IN)

プリセットした放送局に最大8文字で名前を入力できます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 名前をつけたいプリセット番号を選ぶ。

2 AMP MENUを押す。

- 3 表示窓の [<TUNER>] メニューから [NAME IN] を選ぶ。
- 4 ▲/▼をくり返し押しして文字を選び、▶を押す。
◀/▶を押して、入力位置を前後に移動できます。
- 5 手順4をくり返して一文字ずつ選び、[OK]を押す。
入力した名前が登録されます。

名前の入力を中止するには

BACKを押す。

[55] 映像や音源を楽しむ | ラジオを聞く

放送局を直接選局する（ダイレクト選局）

放送局の周波数を直接入力できます。

- 1 ホームメニューから [Listen] - [FM] を選ぶ。
FM画面が表示されます。
- 2 ■を押す。
- 3 周波数を入力する。
 1. ▲/▼を押して、表示窓に表示されている数字を変更する。
 2. [OK]を押して次の数値へ移動する。
◀/▶を押して、入力位置を前後に移動できます。
- 手順3をくり返して周波数の最後の数字まで入力する。

ご注意

- 合わせた周波数が無効または範囲外の場合は、[---.--- MHz] が表示され、画面が現在の周波数に戻ります。
正しい周波数が入力されていることを確認してください。周波数が正しく入力されていない場合は、手順3と4をくり返してください。それでも放送局を受信できない場合は、お住まいの地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

ヒント

- 選局時は100 kHzステップで周波数が切り替わります。

[56] 映像や音源を楽しむ | 音響効果を楽しむ

音場（サウンドフィールド）を選ぶ

スピーカー接続や入力音源に合わせて、さまざまな音場（サウンドフィールド）のモードを選べます。

1 FRONT SURROUND、2CH/MULTI、MOVIEまたはMUSICを押して、お好みの音場（サウンドフィールド）を選ぶ。

本体前面の2CH/MULTI、MOVIEまたはMUSICボタンを使って、音場（サウンドフィールド）を選ぶこともできます。

ご注意

- ヘッドホンをつないでいるときは、ヘッドホン用の音場（サウンドフィールド）のみが表示されません。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用の音場（サウンドフィールド）が機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- スピーカーパターンによっては、[PLIIX MV]（ドルビープロロジックIIx Movie）、[PLIIX MS]（ドルビープロロジックIIx Music）が表示されないことがあります。
- 音場（サウンドフィールド）の設定によっては、一部のスピーカーやアクティブサブウーファーから音が出力されないことがあります。

音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係一覧

選択した音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係は以下の表のとおりです。

ご注意

- 音が出ないときは、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかり接続されているか、スピーカーパターンの選択が正しいかを確認してください。

2chコンテンツ

音場（サウンドフィールド）		表示窓の表示	フロントスピーカー出力	センタースピーカー出力	サラウンドスピーカー出力	サラウンドバックスピーカー出力	アクティブサブウーファー出力	フロントハイスピーカー出力
2CH/MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○
	ダイレクト（アナログ入力）	DIRECT	◎	—	—	—	—	—
	ダイレクト（その他）	DIRECT	◎	—	—	—	○（*）	—
MOVIE	HD-D.C.S.（ダイナミック/シアター/スタジオ）	HD-D.C.S.	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII Movie	PLII MV	◎	○	○	—	○	—
	ドルビープロロジックIIx	PLIIX MV	◎	○	○	○	○	—

ド)		表示窓の表示	ピー カー 出力	ピー カー 出力	ピー カー 出力	クス ピー カー 出力	ウー ファー 出力	ス ピー カー 出力
2CH/MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○
	ダイレクト	DIRECT	◎	○	○	○	○	○
MOVIE	HD-D.C.S. (ダイナミック/シアター/スタジオ)	HD-D.C.S.	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII Movie	PLII MV	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックIIx Movie	PLIIX MV	◎	○	○	○	○	—
	Neo:6 シネマ	NEO6.CINEMA	◎	○	○	○	○	○
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	◎	—	—	—	○	—
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	○	○	○	○	○
	コンサートホール	HALL	◎	○	○	○	○	○
	ジャズクラブ	JAZZ	◎	○	○	○	○	○
	ライブハウス	CONCERT	◎	○	○	○	○	○
	スタジアム	STADIUM	◎	○	○	○	○	○
	スポーツ	SPORTS	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII Music	PLII MS	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックIIx Music	PLIIX MS	◎	○	○	○	○	—

	Music							
	Neo:6 ミュージック	NEO6.MUSIC	◎	○	○	○	○	○

—：音声が出力されません。

◎：音声が出力されます。

○：音声が出力されるかどうかはスピーカーパターンの設定、入力ソースのチャンネルによります。

[58] 映像や音源を楽しむ | 音響効果を楽しむ

音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

以下の操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

① 電源を切る。

② MUSICを押しながら （電源）を押す。

[S.F. CLEAR] が表示窓に表示され、すべての音場（サウンドフィールド）が初期設定状態に戻ります。

[59] 映像や音源を楽しむ | 音響効果を楽しむ

低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（NIGHT MODE）

小さな音量でも映画館のような環境を作り出す機能です（ナイトモード機能）。深夜に映画を見るときに、小さな音量でも会話をはっきりと聞き取れます。この機能は、音場（サウンドフィールド）が選ばれている場合でも使用できます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

① AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<AUDIO>] メニューから [NIGHT MODE] を選ぶ。

3 [NIGHT ON] または [NIGHT OFF] を選ぶ。

ご注意

- [DIRECT] が選ばれアナログ入力を選択しているときは、働きません。

ヒント

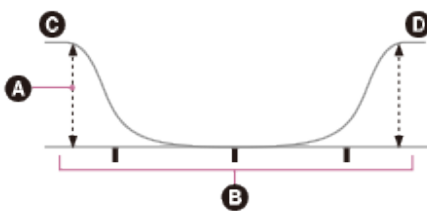
- 本体前面のNIGHT MODEでも、ナイトモード機能のオン/オフが設定できます。
- ナイトモードが有効になると、低域、高域、エフェクトレベルが上がり、[D. RANGE] が自動的に [COMP. ON] に設定されます。

[60] 映像や音源を楽しむ | 音響効果を楽しむ

イコライザーを調節する (EQ)

以下のパラメーターを使って、フロントスピーカーの音質（低域/高域のレベル）を調節できます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。



- A レベル (dB)
- B 周波数 (Hz)
- C 低域
- D 高域

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓のメニューから [<EQ>] を選ぶ。

3 [BASS] または [TREBLE] を選ぶ。

4 ゲインを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - [DIRECT] が選ばれアナログ入力を選択しているとき。
 - ピュアダイレクト機能が有効なとき。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- [BASS] および [TREBLE] の周波数は固定です。

[61] 映像や音源を楽しむ | 音響効果を楽しむ

原音に忠実な音を楽しむ (Pure Direct)

ピュアダイレクト機能を使うと、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクト機能がオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。

1 PURE DIRECTを押す。

ピュアダイレクト機能を解除するには

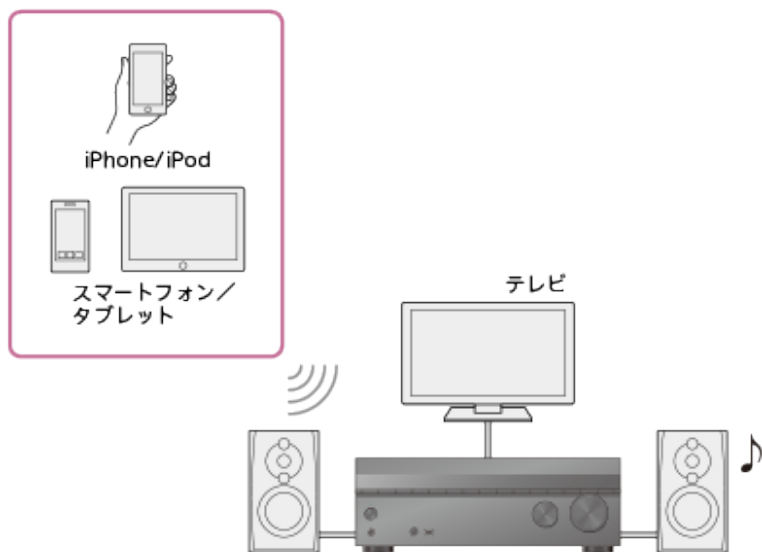
以下のいずれかの操作を行うと、ピュアダイレクト機能は解除されます。

- PURE DIRECTをもう一度押す。
- 音場（サウンドフィールド）を変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- [EQ]、[NIGHT MODE]、[AUTO VOL] または [D. RANGE] の設定を変える。

ご注意

- ピュアダイレクト機能が選ばれているときは、[EQ]、[NIGHT MODE]、[AUTO VOL] または [D. RANGE] は働きません。

BLUETOOTH機能を使ってできること



BLUETOOTH機器の音楽コンテンツをアンプに送信して聞く

BLUETOOTH機能に対応したiPhone/iPodあるいはスマートフォンやタブレットの音楽コンテンツを、アンプに送信して楽しむことができます。

NFC機能に対応した機器なら、アンプに近づけるだけで、ワンタッチ接続が可能です。

ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音源を楽しむ (NFC)

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ (ペアリング操作)

本機が対応するBLUETOOTHのバージョンとプロファイルについては、「対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル」をご覧ください。

BLUETOOTH機能をオン/オフする (BT POWER)

BLUETOOTH機能をオン/オフできます。NFC機能もこの設定と連動してオン/オフされません。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<BT>] メニューから [BT POWER] を選ぶ。

3 [BT ON] または [BT OFF] を選ぶ。

ご注意

- 入カソースとして [BT] (BLUETOOTH機器) を選んでいるときは、この機能は設定できません (表示窓の [BT POWER] の表示が暗くなります)。

[64] BLUETOOTH機能を使う | BLUETOOTH機器の音源を楽しむ

ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音源を楽しむ (NFC)

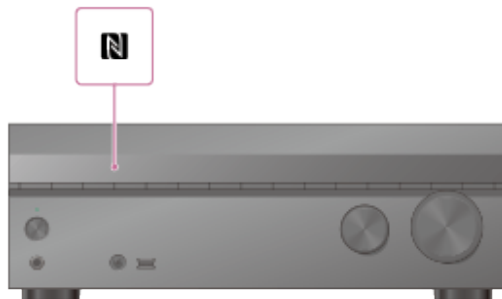
NFC機能を使ってワンタッチ接続でBLUETOOTH機器の音源を楽しめます。

- 1 Android OS 4.0以前を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器の場合は、「NFC簡単接続」アプリをお使いのスマートフォンまたはタブレットにダウンロードする。



Android OS 4.1以降を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器をお使いの場合は、「NFC簡単接続」アプリをインストールする必要はありません。

- 2 BLUETOOTH機器で本体前面の **N** マークをタッチする。



- 3 BLUETOOTH機器の画面に表示される指示に従って、BLUETOOTH接続操作を完了する。

4 接続が完了し、表示窓の [BT] が点灯していることを確認する。

5 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

6 音量を調節する。

最初にBLUETOOTH機器の音量を調節してください。それでも音量が小さい場合は、アンプの音量を調節してください。

対応スマートフォン/タブレット

NFC機能を搭載したスマートフォン/タブレット（対応OS : Android 2.3.3以降、Android 3.xは除く）

ヒント

- アンプがスタンバイ状態のときでも自動的にBLUETOOTH接続させたいときは、AMP MENUを押して、表示窓の [<BT>] メニューの [BT STANDBY] を [STBY ON] に設定してください。

[65] BLUETOOTH機能を使う | BLUETOOTH機器の音源を楽しむ

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

BLUETOOTH機器では、あらかじめワイヤレス接続する機器同士を登録しておく必要があります。この登録のことを「ペアリング」といいます。一度ペアリングをすれば、同じBLUETOOTH機器に対してペアリングは不要です。

1 BLUETOOTH機器をアンプから1メートル以内の場所に置く。

2 リモコンのBLUETOOTHを押して、BLUETOOTH機能を選ぶ。

3 リモコンの  PAIRINGを押して、アンプをペアリングモードにする。

表示窓に [PAIRING] が表示され、[BT] が素早く点滅を始めます。

5分以内に手順4を行ってください。

5分以内に手順4を行わない場合は、自動的にペアリングモードは解除されます。その場合は、もう一度アンプをペアリングモードにしてください。

4 BLUETOOTH機器でペアリングを行い、アンプを検出する。

詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。

BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。本機は [STR-DH770] として表示されます。

5 BLUETOOTH機器の画面で [STR-DH770] を選ぶ。

[STR-DH770] が表示されない場合は、手順1からやり直してください。

6 接続が完了し、表示窓の [BT] が点灯していることを確認する。

7 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

8 音量を調節する。

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、アンプ側で音量レベルを調節します。

ペアリングモードを解除するには

手順3の後、本体前面のCONNECTION ■ PAIRING BLUETOOTHを長押しする。

ご注意

- 手順2で本体前面のINPUT SELECTORを使ってBLUETOOTH機能の選ぶこともできます。
- お使いのBLUETOOTH機器がAVRCPプロファイルに対応していない場合は、アンプで再生などの操作はできません。
- 手順6でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大9台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。10台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器のペアリング情報が、新しくペアリングした機器のペアリング情報と

置き替わります。

ヒント

- 本体前面のCONNECTION ■ PAIRING BLUETOOTHを長押ししてアンプをペアリングモードにすることもできます。
- BLUETOOTH機器の種類によっては、BLUETOOTH機器の操作ボタンでも音量を調節できます。

[66] BLUETOOTH機能を使う | BLUETOOTH機器の音源を楽しむ

リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する

リモコンの以下のボタンを使ってBLUETOOTH機器を操作できます。

- ▶|| (*): 再生開始または一時停止
- ■: 再生停止
- ◀◀/▶▶: 前の曲または次の曲の先頭へ移動します。

* BLUETOOTH接続が解除された状態のときに▶||を押すと、最後に接続したBLUETOOTH機器と自動的に接続します。

ご注意

- これらの操作は特定のBLUETOOTH機器では働かないことがあります。また、お使いのBLUETOOTH機器によっては実際の操作が異なることがあります。

[67] BLUETOOTH機能を使う | BLUETOOTH機器の音源を楽しむ

対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル

「プロファイル」は各種BLUETOOTH製品の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は、以下のBLUETOOTHバージョンおよびプロファイルに対応しています。

- **対応BLUETOOTHバージョン**: BLUETOOTH標準規格Ver. 4.2準拠
- **対応BLUETOOTHプロファイル**:
 - A2DP 1.3 (Advanced Audio Distribution Profile) : 高音質な音声/音楽コンテンツを受信する。
 - AVRCP 1.5 (Audio Video Remote Control Profile) : 一時停止、停止、再生、音量

調節など、オーディオ／映像機器を操作する。

- SPP 1.2 (Serial Port Profile)
- DID (Device Identification Profile)

対応するBLUETOOTH機器の最新の情報については、「[カスタマーサポートウェブサイト](#)」に記載のウェブサイトをご確認ください。

ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器とアンプとの間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、BLUETOOTH機器本体で再生する場合とは異なり、操作に対する反応が遅れたり、再生開始までに遅延が生じることがあります。

[68] BLUETOOTH機能を使う | スマートフォンやタブレットなどでアンプを操作する
(SongPal)

スマートフォンやタブレット機器を使って操作する (SongPal)

SongPalは、スマートフォン／タブレットから、SongPal対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

お手持ちのスマートフォンやタブレットを使ってGoogle Play™ (Playストア) またはApp Storeで「SongPal」を検索し、ダウンロードしてください。

SongPalを使うと、以下のことができます。

- アンプの入力、音量、よく使う設定を変更する。
- スマートフォンやタブレットに保存している音声／音楽コンテンツをアンプで楽しむ。
- スマートフォンやタブレットのディスプレイを使って音楽をビジュアルで楽しむ。

1 SongPalをお使いのモバイル機器にダウンロードする。

2 アンプとモバイル機器をBLUETOOTH接続でつなぐ。

3 SongPalを起動し、画面の指示に従ってセットアップする。

セットアップが完了すると、SongPalを使ってアンプを操作できます。

ご注意

- SongPalは、アンプのBLUETOOTH機能を使用します。
- SongPalの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

[69] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる (“ブラビアリンク”)

“ブラビアリンク”とは？

“ブラビアリンク”はHDMI機器制御（*1）機能をソニーが独自に拡張した機能です。“ブラビアリンク”対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブル（*2）（別売）でつなぐと、テレビのリモコンひとつで機器の操作ができます。

“ブラビアリンク”を活用すると、以下の機能が使えます。

- テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）
- アンプにつないだスピーカーからテレビの音声を楽しむ（システムオーディオコントロール）
- テレビ放送の音声をアンプで楽しむ（オーディオリターンチャンネル）
- つないだ機器のコンテンツをすぐに楽しむ（ワンタッチプレイ）
- テレビリモコンからのメニュー操作
- アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（STBY THRU）
- 番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセクター）
- 最適な音場（サウンドフィールド）を自動で選ぶ（シーンセレクト）
- オーディオ機器コントロール
- エコーキャンセリング連動

*1 HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

*2 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）のご使用をおすすめします。

ご注意

- HDMI機器制御機能が搭載されたソニー製以外の機器でも電源オフ連動、システムオーディオコントロール、ワンタッチプレイ、テレビリモコンからのメニュー操作が使用できる場合がありますが、動作を保証するものではありません。

[70] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる (“ブラビアリンク”)

“ブラビアリンク”の準備をする

“ブラビアリンク”機能を使うために、HDMI機器制御機能を有効にします。アンプおよびつないだ機器のHDMI機器制御機能を個別に有効にする必要があります。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 **AMP MENUを押す。**
- 2 **表示窓の [<HDMI>] メニューから [CTRL HDMI] を選ぶ。**
- 3 **[CTRL ON] を選ぶ。**
HDMI機器制御機能が有効になります。
- 4 **もう一度AMP MENUを押して、メニューを閉じる。**
- 5 **テレビのリモコンでアンプが接続されているHDMI入力を選択して、テレビ画面にテレビの設定メニューを表示する。**
アンプや、アンプに接続した機器のメニューが表示される場合は、手順7に進んでください。
- 6 **テレビのHDMI機器制御機能を有効にする。**
テレビの設定については、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 7 **アンプに接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にする。**
接続した機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- HDMIケーブルを抜いたり接続を変えたりした場合は、もう一度上記の操作を行ってください。

[71] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”）

テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）

テレビの電源を切ると、アンプとアンプに接続された機器の電源も連動して切れます。以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

① AMP MENUを押す。

② 表示窓の [<HDMI>] メニューから [STBY LINK] を選ぶ。

③ お好みの設定を選ぶ。

- **ON**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
- **AUTO**：アンプの入力が [TV]、[BD/DVD]、[GAME]、[SAT/CATV]、[SA-CD/CD]、[VIDEO] のとき、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
- **OFF**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切っても、アンプの電源は連動しません。

ご注意

- 機器の状態によっては、接続された機器の電源が切れない場合があります。
- 電源オフ連動はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

[72] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”）

アンプにつないだスピーカーからテレビの音声を楽しむ（システムオーディオコントロール）

テレビを視聴しているときにアンプの電源を入れると、テレビの音声は自動的にアンプに接続されたスピーカーから出力されます。テレビのリモコンでアンプの音量を調節できます。前回テレビを見たときに、音声があンプに接続されたスピーカーから出力されていた場合は、

テレビの電源を入れるとアンプの電源も自動的に入ります。
テレビのメニューからも操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- テレビによっては、アンプの音量の数字がテレビ画面に表示されます。テレビ画面に表示された数字は表示窓の数字と異なる場合があります。
- システムオーディオコントロールはソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。
- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロールが使えない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] が [CTRL ON] に設定されていると、システムオーディオコントロールの設定に応じて [<HDMI>] メニューの [AUDIO OUT] は自動的に設定されます。

[73] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる (“ブラビアリンク”)

つないだ機器のコンテンツをすぐに楽しむ (ワンタッチプレイ)

アンプに接続された機器 (ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4 など) のコンテンツを再生すると、自動的にアンプとテレビの電源が入り、アンプの入力は再生した機器の入力に切り替わり、音声はアンプに接続したスピーカーから出力されます。

ご注意

- 表示窓の [<HDMI>] メニューの [STBY THRU] が [AUTO] または [ON] に設定されていて、かつ、前回テレビを見たときに、音声はテレビのスピーカーから出力されていた場合は、他機器のコンテンツを再生してもアンプの電源は入らずに、テレビから音声と映像が出力されます。
- テレビによっては、再生途中のコンテンツの開始部分が正しく再生されない場合があります。
- ワンタッチプレイはソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

[74] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる (“ブラビアリンク”)

番組のジャンルに応じた音場 (サウンドフィールド) に自動的に切り替える (オートジャンルセレクター)

オートジャンルセレクターは、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG 情報）を検出し、アンプのサウンドフィールドをその番組のジャンルに合わせて自動的に切り替え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。

この機能は、テレビとアンプに接続された機器がオートジャンルセレクターに対応している場合に使用できます。詳しくは、テレビや機器の取扱説明書を参照してください。

1 表示窓の [<HDMI>] メニューから [SOUND.FIELD] を選ぶ。

- **AUTO** : デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- **MANUAL** : 本体前面またはリモコンの2CH/MULTI、MOVIE、MUSICボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応一覧（番組情報（EPG 情報）：オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド）

- **ニュース／報道** : 2chステレオ (2CH STEREO)
- **スポーツ** : スポーツ (SPORTS)
- **情報／ワイドショー** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **ドラマ** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **ミュージック** : 詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応一覧をご覧ください。
- **バラエティ** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **映画** : HDデジタル・シネマ・サウンド (HD-D.C.S.)
- **アニメ／特撮** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **ドキュメンタリー** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **劇場／公演** : ライブハウス (CONCERT)
- **趣味／教育** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **福祉** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **その他** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- **スポーツ (CS)** : スポーツ (SPORTS)
- **洋画 (CS)** : HDデジタル・シネマ・サウンド (HD-D.C.S.)
- **邦画 (CS)** : HDデジタル・シネマ・サウンド (HD-D.C.S.)
- **映画** : マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)

音楽番組詳細ジャンル対応一覧（詳細ジャンル：サウンドフィールド）

- **国内ロック／ポップス** : ライブハウス (CONCERT)
- **海外ロック／ポップス** : ライブハウス (CONCERT)
- **クラシック／オペラ** : コンサートホール (HALL)
- **ジャズ／フュージョン** : ジャズクラブ (JAZZ)
- **歌謡曲／演歌** : ライブハウス (CONCERT)
- **ライブ／コンサート** : ライブハウス (CONCERT)
- **ランキング／リクエスト** : ライブハウス (CONCERT)
- **カラオケ／のど自慢** : ライブハウス (CONCERT)
- **民謡／邦楽** : ライブハウス (CONCERT)
- **童謡／キッズ** : ライブハウス (CONCERT)

- **民族音楽／ワールドミュージック**：ライブハウス（CONCERT）
- **その他**：ライブハウス（CONCERT）

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。
- オートジャンルセレクターはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

[75] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”）

最適な音場（サウンドフィールド）を自動で選ぶ（シーンセレクト）

テレビのシーンセレクトの設定に応じて、アンプの音場（サウンドフィールド）を自動的に切り替えます。

詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

シーンセレクトとアンプのサウンドフィールドは以下のように切り替わります。

- **シネマ**：HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）
- **スポーツ**：スポーツ（SPORTS）
- **ミュージック**：ライブハウス（CONCERT）
- **アニメ**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **フォト**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ゲーム**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **グラフィックス**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）

ご注意

- シーンセレクトはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

[76] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”）

オーディオ機器コントロール

テレビのアプリからオーディオ機器コントロールアプリを選び、アプリを使ってアンプの設定、サウンドフィールド、入力切り替えなどができます。

この機能はテレビがオーディオ機器コントロールアプリに対応していて、テレビがインターネットに接続している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- オーディオ機器コントロールアプリはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

[77] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる (“ブラビアリンク”)

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリンクメニューからアンプを選択して、アンプを操作することができます。この機能はテレビがリンクメニューに対応している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- テレビのリンクメニューで、アンプは [チューナー] としてテレビに認識されます。
- テレビによっては、一部の操作が行えないことがあります。
- テレビリモコンからのメニュー操作はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

[78] その他の機能を使う | ブラビアテレビと他機器と連動させる (“ブラビアリンク”)

エコーキャンセリング連動

テレビを視聴しながらSkypeなどのソーシャル視聴機能をお使いになるときに、通話時のエコーを低減します。この機能はテレビがソーシャル視聴機能に対応している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- エコーキャンセリング連動は、アンプ側で [TV] またはHDMI入力端子につないだ機器からの入力を選んでいるときに働きます。
- ソーシャル視聴機能を使ったときにアンプ側でHDMI入力端子につないだ機器からの入力を選んでいる場合は、自動的にテレビからの入力に切り替わります。ソーシャル視聴機能とテレビ番組の音声はアンプに接続されたスピーカーから出力されます。

- この機能はテレビから音声が出力されているときは使えません。
- エコーキャンセリング連動はソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

[79] その他の機能を使う | お好みに合わせて映像や音声を楽しむ

デジタル音声とアナログ音声を切り替える (INPUT MODE)

機器を本体後面のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り替えたりすることができます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 入力切り替え用ボタンを押して入力を選ぶ。

2 AMP MENUを押す。

3 表示窓の [<INPUT>] メニューから [INPUT MODE] を選ぶ。

4 お好みの設定を選ぶ。

- **AUTO** : デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMIの音声信号が優先されます。デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。テレビ入力を選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が優先されます。お使いのテレビがARC機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。
- **OPT** : デジタル音声信号入力を光デジタル音声IN端子に指定します。
- **COAX** : デジタル音声信号入力を同軸デジタル音声IN端子に指定します。
- **ANALOG** : アナログ音声信号入力を音声IN (L/R) 端子に指定します。

ご注意

- 入力信号によっては、[INPUT MODE] が暗く表示され、設定できない場合があります。

ヒント

- 手順1で入力を選ぶときに、本体前面のINPUT SELECTORつまみを使うこともできます。

[80] その他の機能を使う | お好みに合わせて映像や音声を楽しむ

他の音声入力端子を使う (A. ASSIGN)

端子の初期設定がつないでいる機器に対応していない場合は、光デジタル音声IN/同軸デジタル音声IN端子の割り当てを他の入力に変更できます。

例：DVDプレーヤーを光デジタル音声IN端子につないでいるとき、光デジタル音声IN端子を [BD/DVD] に割り当てる。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 割り当てたい入力名を選ぶ。
- 2 AMP MENUを押す。
- 3 表示窓の [<INPUT>] メニューから [A. ASSIGN] を選ぶ。
- 4 割り当てたい端子を選ぶ。

割り当て可能な音声入力端子

OPT :

BD/DVD、SAT/CATV、GAME、SA-CD/CD、VIDEO (*)

COAX :

BD/DVD、SAT/CATV、GAME、SA-CD/CD (*)、VIDEO

NONE :

BD/DVD (*)、SAT/CATV (*)、GAME (*)、SA-CD/CD、VIDEO (*)

* 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、入力モード設定 ([INPUT MODE]) が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。
- 割り当てた端子から音声が出力されない場合は、入力モード設定 ([INPUT MODE]) も確認してください。

[81] その他の機能を使う | スリープタイマーを使う

スリープタイマーを使う

指定した時間にアンプの電源が切れるよう設定できます。


1 SLEEPを押す。

SLEEPを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

0-30-00 - 1-00-00 - 1-30-00 - 2-00-00 - OFF

スリープタイマーを使用中は、本体前面の表示窓に [SLEEP] が点灯します。

ヒント

- 電源が切れるまでの残り時間は、SLEEPを押すと確認できます。残り時間は表示窓に表示されません。
- スリープタイマーの使用中に  (電源) を押すと、スリープタイマーは解除されます。

[82] その他の機能を使う | 情報を確認する

表示窓で情報を確認する

表示窓で、音場 (サウンドフィールド) などさまざまな情報を確認できます。

1 情報を確認したい入力を選ぶ。

2 本体前面のDISPLAYをくり返し押す。

DISPLAYを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

入力のインデックス名 (*1) - 選択した入力 - 最近適用したサウンドフィールド (*2) - 音量レベル - ストリーム情報 (*3)

FMラジオ聴取時

プリセット放送局名 (*1) - 周波数 - 最近適用したサウンドフィールド (*2) - 音量レベル

- |
- *1 インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。
 - *2 ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、表示窓に [PURE.DIRECT] が表示されます。
 - *3 ストリーム情報は表示されない場合があります。




ご注意

- 言語によっては、文字やマークが表示されないことがあります。

[83] 設定を調節する | 表示窓のメニューを使う

表示窓のメニューを使って操作する

アンプをテレビにつないでいない場合でも表示窓を使って操作できます。

- 1 **AMP MENUを押す。**
表示窓にメニューが表示されます。
- 2 **▲/▼をくり返し押ししてメニューを選び、を押す。**
- 3 **▲/▼をくり返し押ししてパラメーターを選び、を押す。**
- 4 **▲/▼をくり返し押ししてお好みの設定を選び、を押す。**

前の表示に戻るには

←またはBACKを押す。

メニューを閉じるには

AMP MENUを押す。

ご注意

- パラメーターや設定が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、または固定および変更不可であることを意味します。

[84] 設定を調節する | 表示窓のメニューを使う

表示窓で情報を確認する

表示窓で、音場（サウンドフィールド）などさまざまな情報を確認できます。

1 情報を確認したい入力を選ぶ。

2 本体前面のDISPLAYをくり返し押す。

DISPLAYを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

入力のインデックス名（*1） - 選択した入力 - 最近適用したサウンドフィールド（*2） - 音量レベル - ストリーム情報（*3）

FMラジオ聴取時

プリセット放送局名（*1） - 周波数 - 最近適用したサウンドフィールド（*2） - 音量レベル

*1 インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

*2 ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、表示窓に[PURE.DIRECT]が表示されます。

*3 ストリーム情報は表示されない場合があります。

ご注意

- 言語によっては、文字やマークが表示されないことがあります。

[85] 設定を調節する | かんたん設定（Easy Setup）

Easy Setup（かんたん設定）を使って設定する

アンプの電源を初めて入れたときや初期化後に電源を入れたときには、テレビ画面にEasy Setupの設定画面が表示されます。画面の指示に従って、以下の機能を設定できます。

- **Language**
画面のメッセージに使用する言語を選べます。
- **Surround Back Speakers Assign**

スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子への割り当てを設定できます。

- **Auto Calibration**

スピーカーの構成や距離、視聴環境などを測定し、音のバランスを最適な状態に補正します。

ご注意

- この機能を使うには、テレビの入力を、アンプをつないでいる入力に切り替えてください。

Easy Setup画面が表示されない、または手動でEasy Setup画面を表示させたい場合は、HOMEを押してホームメニューを表示し、[Easy Setup]を選んでください。

[86] 設定を調節する | *かんたん*設定 (Easy Setup)

言語を選ぶ (Language)

画面のメッセージに使用する言語を選べます。

① ホームメニューから [Easy Setup] を選ぶ。

② お好みの言語を選ぶ。

- **English** : 英語
- **Español** : スペイン語
- **Français** : フランス語
- **Deutsch** : ドイツ語

[87] 設定を調節する | *かんたん*設定 (Easy Setup)

サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する (Surround Back Speakers Assign)

スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子への割り当てを設定できます。

- 1 ホームメニューから [Speaker Setting] を選ぶ。
- 2 [Surround Back Speakers Assign] を選ぶ。
- 3 スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子に対して、以下のいずれかの割り当てを設定する。
 - Surround Back Speakers : サラウンドバックスピーカーを使うとき。
 - Bi-Amplifier Speakers : バイアンプ接続を使うとき。
 - Front B Speakers : フロントBスピーカーを使うとき。
 - Front High Speakers: フロントハイスピーカーを使うとき。
 - None Speaker : 上記の接続を使わないとき。

ご注意

- [Surround Back Speakers Assign] はヘッドホンをつないでいないときのみ設定することができます。

ヒント

- 表示窓の [<SPEAKER>] メニューの [SB ASSIGN] から、サラウンドバックスピーカー端子の割り当てをすることもできます。

[88] 設定を調節する | 自動音場補正を行う

1. 自動音場補正について

自動音場補正機能で以下の自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーとアンプの接続の確認
- スピーカーレベルの調節
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定 (*)
- スピーカーサイズの測定 (*)
- 周波数特性の測定 (EQ) (*)

* [DIRECT] が使われていてアナログ入力選ばれているときは、測定結果は使用できません。

ご注意

- 自動音場補正 (D.C.A.C.) は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。

ただし、スピーカーのレベルは、 [Speaker Setting] メニューの [Level] を使ってお好みに合わせて手動で調節できます。

[89] 設定を調節する | 自動音場補正を行う

2. 自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に、以下の項目を実行または確認してください。

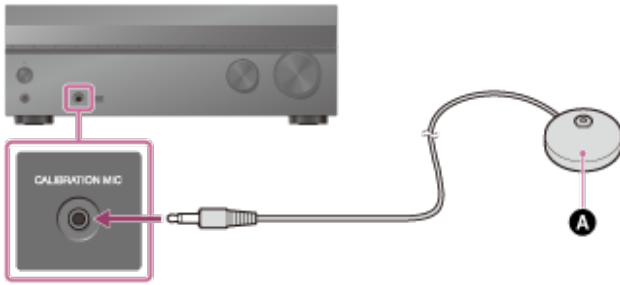
- スピーカーを配置し、接続が完了していること。
- CALIBRATION MIC端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には他のマイクをつながないでください。
- バイアンプ接続またはフロントBスピーカー接続を使用する場合は、スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の割り当てを正しく設定してください。
- スピーカー出力が [SPK OFF] 以外に設定されていることを確認する。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子さまに充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

[90] 設定を調節する | 自動音場補正を行う

3. 測定用マイクをつなぐ



A 測定用マイク（付属）

1 CALIBRATION MIC端子に付属の測定用マイクをつなぐ。

2 測定用マイクを配置する。

視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

[91] 設定を調節する | 自動音場補正を行う

4. フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。
操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1 本体前面のSPEAKERSをくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

SPEAKERS



どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SP A :**
スピーカーFRONT A端子につないだスピーカー

- **SP B (*) :**
スピーカー-SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につないだスピーカー
- **SP A B (*) :**
スピーカー-FRONT A端子およびスピーカー-SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の両方につないだスピーカー（パラレル接続）
- **(表示なし) :**
[SPK OFF] が表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

* [SP B] または [SP A B] を選ぶには、ホームメニューの [Speaker Setting] - [Surround Back Speakers Assign] を使って、スピーカー-SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の割り当てを [Front B Speakers] に設定してください。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

[92] 設定を調節する | 自動音場補正を行う

5. 自動音場補正を行う

視聴位置から自動音場補正を実行します。

① ホームメニューから [Easy Setup] を選ぶ。

② テレビ画面の指示に従って操作し、[Start] を選ぶ。

数秒後に測定が始まります。

測定が完了するのにおよそ30秒かかり、テスト音が鳴り続きます。

測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。

③ お好みの項目を選ぶ。

- **Retry :** 自動音場補正を再度実行します。
- **Save&Exit :** 測定結果を保存し、設定を終了します。
- **Exit :** 測定結果を保存せずに設定を終了します。

測定結果について詳しくは、「[6. 自動音場補正の結果を確認する](#)」をご覧ください。

4 測定結果を保存する。

手順3で [Save&Exit] を選びます。

ご注意

- 手順2でエラーコードや警告メッセージが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。
- ヘッドホンが接続しているときはこの設定はできません。

ヒント

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。
 - 電源（電源）を押す。
 - リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
 - リモコンのHOME、AMP MENUまたは \times を押す。
 - 本体前面のSPEAKERSを押す。
 - 音量を調節する。
 - ヘッドホンをつなぐ。

[93] 設定を調節する | 自動音場補正を行う

6. 自動音場補正の結果を確認する

以下の手順に従って、自動音場補正で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

1 [Retry] を選ぶ。

2 テレビ画面の指示に従って操作し、[Start] を選ぶ。

数秒後に測定が始まります。

測定が完了するのにおよそ30秒かかり、テスト音が鳴り続きます。

測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。

3 お好みの項目を選ぶ。

- **Retry** : 自動音場補正を再度実行します。
- **Save&Exit** : 測定結果を保存し、設定を終了します。
- **Exit** : 測定結果を保存せずに設定を終了します。

4 測定結果を保存する。

手順3で [Save&Exit] を選びます。

警告メッセージが表示されたら

警告メッセージを確認して、[OK] を選びます。警告メッセージについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。

ヒント

- アクティブサブウーファースの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のまま使用できます。

[94] 設定を調節する | 自動音場補正を行う

自動音場補正の補正タイプを選ぶ (CAL TYPE)

自動音場補正を実行して設定を保存すると、補正タイプを選べます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<AUTO CAL>] メニューから [CAL TYPE] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **FULL FLAT** : 各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- **ENGINEER** : 「ソニー基準のリスニングルーム」の周波数特性にします。
- **FRONT REF** : すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
- **OFF**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - [DIRECT] が選ばれアナログ入力を選択しているとき。
 - ヘッドホンをつないでいるとき。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

[95] 設定を調節する | レベル設定 (<LEVEL>)


各スピーカーからテストトーンを出力する (TEST TONE)

各スピーカーから順にテストトーンを出力できます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<LEVEL>] メニューから [TEST TONE] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - OFF
 - **AUTO XXX (*)** : テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。

* XXXにはスピーカーチャンネルが入ります
(FL、CNT、FR、SR、SBR、SB、SBL、SL、LH、RH、SW)。
- 4 スピーカーレベルを調節したいスピーカーを表示窓で選ぶ。
- 5 スピーカーレベルを調節する。

ヒント

- すべてのスピーカーのレベルを同時に調節するには、 +/-を押してください。本体前面のMASTER VOLUMEつまみでも操作できます。
- 調節中は、表示窓に調節した値が表示されます。

[96] 設定を調節する | レベル設定 (<LEVEL>)

スピーカーレベルを調節する (Level)

各スピーカー（フロント左/右、フロントハイ左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右、アクティブサブウーファー）のレベルを調節できます。

- 1 ホームメニューから [Speaker Setting] を選ぶ。
- 2 [Level] を選ぶ。
- 3 スピーカーレベルを調節したいスピーカーをテレビ画面で選ぶ。
- 4 スピーカーレベルを調節する。

ご注意

- 音楽用の音場（サウンドフィールド）のいずれかを選んでいるときは、[Speaker Setting] メニューの [Size] ですべてのスピーカーが [Large] に設定されていると、アクティブサブウーファーから音が出力されません。ただし、以下の場合には、アクティブサブウーファーから音が出力されます。
 - デジタル入力信号にLFE信号が含まれている。
 - フロントまたはサラウンドスピーカーの [Size] が [Small] に設定されている。
 - [MULTI ST.]、[PLII MV]、[PLII MS]、[PLIIX MV]、[PLIIX MS]、[HD-D.C.S.] または [A. ENHANCER] が選ばれている。
- ヘッドホンをつないでいるときは、[Front Left] と [Front Right] の [Level] 以外は調節できません。

ヒント

- 表示窓の [<LEVEL>] メニューから、各スピーカーのスピーカーレベルを調節することもできます。

[97] 設定を調節する | スピーカー設定 (Speaker Setting/<SPEAKER>)

スピーカーパターンを選ぶ (SP PATTERN)

お使いのスピーカーシステムに合わせて、スピーカーパターンを選べます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<SPEAKER>] メニューから [SP PATTERN] を選ぶ。
- 3 お好みのスピーカーパターンを選ぶ。
お使いのスピーカーシステムに合わせて、スピーカーパターンを選びます。

[98] 設定を調節する | スピーカー設定 (Speaker Setting/<SPEAKER>)

サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する (Surround Back Speakers Assign)

スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子への割り当てを設定できます。

- 1 ホームメニューから [Speaker Setting] を選ぶ。
- 2 [Surround Back Speakers Assign] を選ぶ。
- 3 スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子に対して、以下のいずれかの割り当てを設定する。
 - Surround Back Speakers : サラウンドバックスピーカーを使うとき。

- **Bi-Amplifier Speakers** : バイアンプ接続を使うとき。
- **Front B Speakers** : フロントBスピーカーを使うとき。
- **Front High Speakers**: フロントハイスピーカーを使うとき。
- **None Speaker** : 上記の接続を使わないとき。

ご注意

- [Surround Back Speakers Assign] はヘッドホンをつないでいないときのみ設定することができます。

ヒント

- 表示窓の [<SPEAKER>] メニューの [SB ASSIGN] から、サラウンドバックスピーカー端子の割り当てをすることもできます。

[99] 設定を調節する | スピーカー設定 (Speaker Setting/<SPEAKER>)

スピーカーのサイズを調節する (Size)

各スピーカー（フロント左/右、フロントハイ左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右）のサイズを調節できます。

- 1 ホームメニューから [Speaker Setting] を選ぶ。
- 2 [Size] を選ぶ。
- 3 サイズを調節したいスピーカーをテレビ画面で選ぶ。
- 4 お好みのサイズを選ぶ。
 - **Large** : 低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、[Large] を選びます。通常は [Large] を選びます。
 - **Small** : マルチチャンネルサラウンド音声を出力している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不十分に感じるときは、[Small] を選びます。低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブウーファーまたは [Large] に設定した他のスピーカーから出力します。

ご注意

- ヘッドホンをつないでいるときは、[Size] の調節はできません。

ヒント

- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を [Small] にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントハイスピーカーも自動的に [Small] に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に [Large] に設定されます。
- 表示窓の [<SPEAKER>] メニューから各スピーカーのサイズを調節することもできます。

[100] 設定を調節する | スピーカー設定 (Speaker Setting/<SPEAKER>)

スピーカーの距離を調節する (Distance)

視聴位置から各スピーカー（フロント左/右、フロントハイ左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

- 1 ホームメニューから [Speaker Setting] を選ぶ。
- 2 [Distance] を選ぶ。
- 3 視聴位置からの距離を調節したいスピーカーをテレビ画面で選ぶ。
- 4 距離を調節する。

ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、調節できないパラメーターがあります。
- ヘッドホンをつないでいるときは、[Distance] の調節はできません。

ヒント

- 表示窓の [<SPEAKER>] メニューから各スピーカーの距離を調節することもできます。

[101] 設定を調節する | スピーカー設定 (Speaker Setting/<SPEAKER>)

スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する (Crossover Freq)

[Speaker Setting] メニューでスピーカーサイズが [Small] に設定されているスピーカーに対して、低音域のクロスオーバー周波数を設定できます。自動音場補正のあとに、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が、各スピーカーに設定されます。

- 1 ホームメニューから [Speaker Setting] を選ぶ。
- 2 [Crossover Freq] を選ぶ。
- 3 クロスオーバー周波数を調節したいスピーカーをテレビ画面で選ぶ。
- 4 クロスオーバー周波数を設定する。

ご注意

- ヘッドホンをつないでいるときは、[Crossover Freq] の設定はできません。
- [Speaker Setting] メニューの [Size] が [Large] に設定されているスピーカーに対しては、[Crossover Freq] は設定できません。
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。

ヒント

- 表示窓の [<SPEAKER>] メニューからスピーカーのクロスオーバー周波数を設定することもできます。

距離の測定単位を選ぶ (DIST. UNIT)

距離を設定する際の単位を選ぶことができます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<SPEAKER>] メニューから [DIST. UNIT] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **METER** : 距離はメートル単位で表示されます。
 - **FEET** : 距離はフィート単位で表示されます。

デジタル音声とアナログ音声を切り替える (INPUT MODE)

機器を本体後面のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り替えたりすることができます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 入力切り替え用ボタンを押して入力を選ぶ。
- 2 AMP MENUを押す。
- 3 表示窓の [<INPUT>] メニューから [INPUT MODE] を選ぶ。
- 4 お好みの設定を選ぶ。
 -

AUTO : デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMIの音声信号が優先されます。デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。テレビ入力を選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が優先されます。お使いのテレビがARC機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。

- **OPT** : デジタル音声信号入力を光デジタル音声IN端子に指定します。
- **COAX** : デジタル音声信号入力を同軸デジタル音声IN端子に指定します。
- **ANALOG** : アナログ音声信号入力を音声IN (L/R) 端子に指定します。

ご注意

- 入力信号によっては、 [INPUT MODE] が暗く表示され、設定できない場合があります。

ヒント


- 手順1で入力を選ぶときに、本体前面のINPUT SELECTORつまみを使うこともできます。

[104] 設定を調節する | 入力設定 (<INPUT>)

各入力の名前を変更する (NAME IN)

各入力に最大8文字で名前を入力できます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 変更したい入力名を選ぶ。
 - 2 AMP MENUを押す。
 - 3 表示窓の [<INPUT>] メニューから [NAME IN] を選ぶ。
 - 4 ▲/▼をくり返し押しして文字を選び、▶を押す。
◀/▶を押して、入力位置を前後に移動できます。
- 

5 手順4をくり返して1文字ずつ入力し、**[+]**を押す。

入力した名前が登録されます。

[105] 設定を調節する | 入力設定 (<INPUT>)

他の音声入力端子を使う (A. ASSIGN)

端子の初期設定がつないでいる機器に対応していない場合は、光デジタル音声IN/同軸デジタル音声IN端子の割り当てを他の入力に変更できます。

例：DVDプレーヤーを光デジタル音声IN端子につないでいるとき、光デジタル音声IN端子を [BD/DVD] に割り当てる。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 割り当てたい入力名を選ぶ。

2 AMP MENUを押す。

3 表示窓の [<INPUT>] メニューから [A. ASSIGN] を選ぶ。

4 割り当てたい端子を選ぶ。

割り当て可能な音声入力端子

OPT :

BD/DVD、SAT/CATV、GAME、SA-CD/CD、VIDEO (*)

COAX :

BD/DVD、SAT/CATV、GAME、SA-CD/CD (*)、VIDEO

NONE :

BD/DVD (*)、SAT/CATV (*)、GAME (*)、SA-CD/CD、VIDEO (*)

* 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、入力モード設定 ([INPUT MODE]) が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。
-

割り当てた端子から音声が出力されない場合は、入力モード設定（ [INPUT MODE] ）も確認してください。

[106] 設定を調節する | サラウンド設定

HD-D.C.S.エフェクトタイプを選ぶ（HD-D.C.S. TYP）

HD-D.C.S.（HDデジタル・シネマ・サウンド）のお好みのタイプを選ぶことができます。以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<SURROUND>] メニューから [HD-D.C.S. TYP] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - DYNAMIC
 - THEATER
 - STUDIO

ご注意

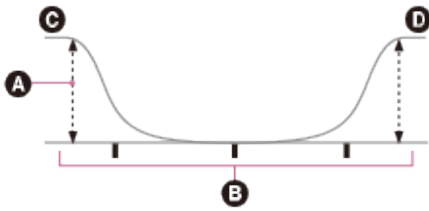
- この機能は、音場（サウンドフィールド）で [HD-D.C.S.] を選んでいる場合にのみ働きます。
- この機能は、ヘッドホンをつないでいるときは働きません。

[107] 設定を調節する | イコライザー設定 (<EQ>)

イコライザーを調節する（EQ）

以下のパラメーターを使って、フロントスピーカークの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。



- A レベル (dB)
- B 周波数 (Hz)
- C 低域
- D 高域

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓のメニューから [**<EQ>**] を選ぶ。
- 3 [**BASS**] または [**TREBLE**] を選ぶ。
- 4 ゲインを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - [**DIRECT**] が選ばれアナログ入力を選択しているとき。
 - ピュアダイレクト機能が有効なとき。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- [**BASS**] および [**TREBLE**] の周波数は固定です。

[108] 設定を調節する | チューナー設定 (<TUNER>)

FM放送局の受信モードを選ぶ (FM MODE)

FM放送局の受信モード (ステレオ放送またはモノラル放送) が選べます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<TUNER>] メニューから [FM MODE] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **STEREO** : ステレオ放送を受信します。
- **MONO** : モノラル放送を受信します。

ご注意

- この機能は、入力ソースとして [FM] を選んでいる場合にのみ働きます。

[109] 設定を調節する | チューナー設定 (<TUNER>)

プリセットした放送局に名前をつける (NAME IN)

プリセットした放送局に最大8文字で名前を入力できます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 名前をつけたいプリセット番号を選ぶ。

2 AMP MENUを押す。

3 表示窓の [<TUNER>] メニューから [NAME IN] を選ぶ。

4 ▲/▼をくり返し押しして文字を選び、▶を押す。
◀/▶を押して、入力位置を前後に移動できます。

5 手順4をくり返して一文字ずつ選び、[+]を押す。

入力した名前が登録されます。

名前の入力を中止するには

BACKを押す。

[110] 設定を調節する | 音声設定 (<AUDIO>)

低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ (NIGHT MODE)

小さな音量でも映画館のような環境を作り出す機能です (ナイトモード機能)。深夜に映画を見るときに、小さな音量でも会話をはっきりと聞き取れます。この機能は、音場 (サウンドフィールド) が選ばれている場合でも使用できます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<AUDIO>] メニューから [NIGHT MODE] を選ぶ。
- 3 [NIGHT ON] または [NIGHT OFF] を選ぶ。

ご注意

- [DIRECT] が選ばれアナログ入力を選択しているときは、働きません。

ヒント

- 本体前面のNIGHT MODEでも、ナイトモード機能のオン/オフが設定できます。
- ナイトモードが有効になると、低域、高域、エフェクトレベルが上がり、[D. RANGE] が自動的に [COMP. ON] に設定されます。

[111] 設定を調節する | 音声設定 (<AUDIO>)

音声と映像出力を同期させる (A/V SYNC)

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。
大画面の液晶ディスプレイやプラズマモニター、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。この機能は、入力ごとに独立して設定できます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<AUDIO>] メニューから [A/V SYNC] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **SYNC ON (遅延時間: 60 ms)** : 音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に抑えます。
- **SYNC OFF (遅延時間: 0 ms)** : 音声出力に遅れは生じません。

ご注意

- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

[112] 設定を調節する | 音声設定 (<AUDIO>)

音量を自動で調整する (AUTO VOL)

コンテンツの内容や接続機器からの入力信号に応じて、音量を自動で調整します。
例えば、テレビ番組よりコマーシャルの音量が大きいといった場合などに便利です。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<AUDIO>] メニューから [AUTO VOL] を選ぶ。

3 [A. VOL ON] または [A. VOL OFF] を選ぶ。

ご注意

- この機能をオン/オフするときは、必ず事前に音量を下げてください。
- 音声フォーマットによっては、この機能は働きません。
- この機能は、[DIRECT] が選ばれアナログ入力を選択しているときは、働きません。

[113] 設定を調節する | 音声設定 (<AUDIO>)

デジタル放送の音声を選択をする (DUAL MONO)

デジタル放送で二重音声が見聴可能な場合に、お好みの音声を選べます。この機能は、MPEG-2 AAC音源とドルビーデジタル音源でのみ働きます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<AUDIO>] メニューから [DUAL MONO] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **MAIN/SUB** : フロントスピーカー (左) から主音声、フロントスピーカー (右) から副音声と同時に出力されます。
 - **MAIN** : 主音声が出力されます。
 - **SUB** : 副音声が出力されます。

[114] 設定を調節する | 音声設定 (<AUDIO>)

ダイナミックレンジを圧縮する (D. RANGE)

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小さい音量で映画を見たいときなどに便利です。

この機能は、ドルビーデジタルおよびドルビーTrueHDの音源でのみ働きます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<AUDIO>] メニューから [D. RANGE] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **COMP. ON** : レコーディングエンジニアが意図したとおりにダイナミックレンジが圧縮されます。
- **COMP. AUTO** : この機能の使用を推奨するフラグが音源にある場合に、ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
- **COMP. OFF**

[115] 設定を調節する | HDMI設定 (<HDMI>)

HDMI機器を制御する (CTRL HDMI)

HDMI機器制御機能のオン/オフを切り替えることができます。詳しくは「[“ブラビアリンク”の準備をする](#)」をご覧ください。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<HDMI>] メニューから [CTRL HDMI] を選ぶ。

3 [CTRL ON] または [CTRL OFF] を選ぶ。

ご注意

- [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定すると、[AUDIO OUT] が自動的に変わることがあります。
- スタンバイ状態で、[CTRL HDMI] が [CTRL ON] に設定されている場合は、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。

テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）

テレビの電源を切ると、アンプとアンプに接続された機器の電源も連動して切れます。以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<HDMI>] メニューから [STBY LINK] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **ON**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
 - **AUTO**：アンプの入力が [TV]、[BD/DVD]、[GAME]、[SAT/CATV]、[SA-CD/CD]、[VIDEO] のとき、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
 - **OFF**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切っても、アンプの電源は連動しません。

ご注意

- 機器の状態によっては、接続された機器の電源が切れない場合があります。
- 電源オフ連動はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（STBY THRU）

HDMI信号スタンバイスルーとは、アンプの電源を入れることなく、本機に接続された機器の音声や映像をテレビで楽しむことができる機能です。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<HDMI>] メニューから [STBY THRU] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **ON** : アンプの電源が入っていないとき、常に本体後面のHDMIテレビOUT (ARC) 端子から信号を出力します。ソニー製以外のテレビに接続した場合、この設定をおすすめします。
- **AUTO** : アンプの電源が入っていないとき、テレビの電源が入っていれば、本体後面のHDMIテレビOUT (ARC) 端子から信号を出力します。[ON] よりもアンプの待機電力を抑えることができます。
- **OFF** : アンプの電源が入っていないとき、本体後面のHDMIテレビOUT (ARC) 端子から信号を出力しません。アンプに接続した機器のコンテンツをテレビで楽しむ場合には、アンプの電源を入れてください。[ON] よりもアンプの待機電力を抑えることができます。

ご注意

- アンプに接続した機器の映像がテレビに表示されない場合は、[STBY THRU] を [ON] に設定してください。
- アンプの電源が入っていない状態で、[STBY THRU] が [ON] または [AUTO] に設定されている場合は、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
- [AUTO] の設定はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

[118] 設定を調節する | HDMI設定 (<HDMI>)

接続機器のHDMI音声信号出力を設定する (AUDIO OUT)

HDMI接続した再生機器からのHDMI音声信号を設定できます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<HDMI>] メニューから [AUDIO OUT] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **AMP** : 再生機器からのHDMI音声信号を、アンプにつないだスピーカーにのみ出力します。マルチチャンネルの音声をそのまま再生できます。
- **TV+AMP** : 再生機器からのHDMI音声信号を、アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力します。

ご注意

- [AUDIO OUT] が [AMP] に設定されているときは、音声信号はテレビのスピーカーからは出力されません。
- [TV+AMP] に設定しているときの再生機器からの信号フォーマットは、チャンネル数、サンプリング周波数など、テレビ側の対応フォーマットによります。テレビがステレオ音声にしか対応していない場合、マルチチャンネル音源の再生時でも、アンプからもテレビと同じステレオ音声が出力されます。
- アンプにプロジェクターなどの映像機器をつないでいる場合に、アンプから音が出力されない場合があります。この場合は、[AMP] に設定してください。
- [TV+AMP] に設定しても、HDMI IN端子以外からの音声信号はテレビのスピーカーから出力することはできません。

[119] 設定を調節する | HDMI設定 (<HDMI>)

番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセレクター）

オートジャンルセレクターは、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG 情報）を検出し、アンプのサウンドフィールドをその番組のジャンルに合わせて自動的に切り替え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。

この機能は、テレビとアンプに接続された機器がオートジャンルセレクターに対応している場合に使用できます。詳しくは、テレビや機器の取扱説明書を参照してください。

1 表示窓の [<HDMI>] メニューから [SOUND.FIELD] を選ぶ。

- **AUTO** : デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- **MANUAL** : 本体前面またはリモコンの2CH/MULTI、MOVIE、MUSICボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応一覧（番組情報（EPG 情報）：オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド）

- ニュース／報道：2chステレオ（2CH STEREO）
- スポーツ：スポーツ（SPORTS）
- 情報／ワイドショー：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- ドラマ：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- ミュージック：詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応一覧をご覧ください。
- バラエティ：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- 映画：HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）
- アニメ／特撮：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- ドキュメンタリー：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- 劇場／公演：ライブハウス（CONCERT）
- 趣味／教育：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- 福祉：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- その他：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- スポーツ（CS）：スポーツ（SPORTS）
- 洋画（CS）：HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）
- 邦画（CS）：HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）
- 映画：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）

音楽番組詳細ジャンル対応一覧（詳細ジャンル：サウンドフィールド）

- 国内ロック／ポップス：ライブハウス（CONCERT）
- 海外ロック／ポップス：ライブハウス（CONCERT）
- クラシック／オペラ：コンサートホール（HALL）
- ジャズ／フュージョン：ジャズクラブ（JAZZ）
- 歌謡曲／演歌：ライブハウス（CONCERT）
- ライブ／コンサート：ライブハウス（CONCERT）
- ランキング／リクエスト：ライブハウス（CONCERT）
- カラオケ／のど自慢：ライブハウス（CONCERT）
- 民謡／邦楽：ライブハウス（CONCERT）
- 童謡／キッズ：ライブハウス（CONCERT）
- 民族音楽／ワールドミュージック：ライブハウス（CONCERT）
- その他：ライブハウス（CONCERT）

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わる時、音が途切れることがあります。
- オートジャンルセレクターはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

アクティブサブウーファースのレベルを設定する (SW LEVEL)

PCM信号がHDMI接続で入力されているとき、アクティブサブウーファースのレベルを0 dBまたは+10 dBに設定できます。HDMI入力端子に割り当てられている各入力のレベルを個別に設定できます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<HDMI>] メニューから [SW LEVEL] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **SW AUTO** : オーディオストリームに応じて、レベルを0 dBまたは+10 dBに自動で設定します。
 - **SW +10 dB**
 - **SW 0 dB**

ご注意


- [FM]、[USB]、[BT]、[SA-CD/CD]、[TV] を選んでいるときは、この機能は無効です。

HDMI信号フォーマットを設定する (SIGNAL FMT.)

HDMI入力端子に接続した機器からの映像信号の入力に対して、HDMIの信号フォーマットが選べます。4Kの映像信号など、高精細な映像をテレビなどで表示したい場合には設定を変更してください。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。

- 2 表示窓の [<HDMI>] メニューから [SIGNAL FMT.] を選ぶ。
- 3 設定を変更したい入力名を選び、 を押す。
- 4 お好みの設定を選ぶ。
 - **STANDARD** : 標準フォーマット。拡張フォーマットを使わない場合に選びます。
 - **ENHANCED** : 拡張フォーマット。4K/60p 4:4:4、4:2:2および 4K/60p 4:2:0 10 bitなどの高精細な4Kフォーマットの信号を使う場合に選びます。

ご注意

- [ENHANCED] に設定したときは、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- [ENHANCED] の設定では、一部の機器（ケーブルテレビ（CATV）ボックスまたは衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー、DVDレコーダー/プレーヤーなど）からの映像信号や音声信号が正常に入力されないことがあります。その場合には、[STANDARD] に設定してください。
- お使いのテレビによっては、HDMI信号フォーマットの設定項目が用意されている場合があります。アンプ側で [ENHANCED] に設定したときは、テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- 高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[HDMI接続について](#)」の「対応する映像フォーマット」をご覧ください。

[122] 設定を調節する | BLUETOOTH設定 (<BT>)

BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（BT STANDBY）

BLUETOOTHスタンバイモードを設定すると、アンプがスタンバイ状態のときでもBLUETOOTH機器の操作でアンプの電源が入り、BLUETOOTH接続が開始されます。以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<BT>] メニューから [BT STANDBY] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **STBY ON** : BLUETOOTH機器を操作したときに、自動的にアンプの電源が入り、BLUETOOTH接続が開始されます。
- **STBY OFF**

ご注意

- [BT STANDBY] を [STBY ON] にしたとき、ペアリング済みのBLUETOOTH機器がある場合、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
- この機能は、お使いになるBLUETOOTH機器のペアリングが完了している場合のみ働きます。

[123] 設定を調節する | BLUETOOTH設定 (<BT>)

BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する (BT AAC)

AAC (Advanced Audio Coding) を有効または無効にできます。
以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<BT>] メニューから [BT AAC] を選ぶ。

3 [AAC ON] または [AAC OFF] を選ぶ。

- **AAC ON** : BLUETOOTH機器がAACに対応している場合は、AAC音声の有効になります。
- **AAC OFF** : AAC音声は無効になります。

ご注意

- 設定を変更すると、次にBLUETOOTH機器と接続したときに設定が適用されます。

ヒント

- AAC音声が無効な場合、高音質の音声を楽しむことができます。

[124] 設定を調節する | BLUETOOTH設定 (<BT>)

BLUETOOTH機能をオン/オフする (BT POWER)

BLUETOOTH機能をオン/オフできます。NFC機能もこの設定と連動してオン/オフされます。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。
- 2 表示窓の [<BT>] メニューから [BT POWER] を選ぶ。
- 3 [BT ON] または [BT OFF] を選ぶ。

ご注意

- 入力ソースとして [BT] (BLUETOOTH機器) を選んでいるときは、この機能は設定できません (表示窓の [BT POWER] の表示が暗くなります)。

[125] 設定を調節する | システム設定 (<SYSTEM>)

自動的にスタンバイ状態になるよう設定をする (AUTO STBY)

操作や信号の入力がないときに、自動的にアンプがスタンバイ状態に切り替わるように設定できます (オートスタンバイ機能)。

以下の操作は、表示窓のメニューを使って行ってください。

- 1 AMP MENUを押す。

2 表示窓の [<SYSTEM>] メニューから [AUTO STBY] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **STBY ON** : 操作しない時間または信号入力がない状態が約20分経過すると、アンプはスタンバイ状態になります。
- **STBY OFF**

ご注意

- 入力ソースとして [FM] を選んでいるときは、この機能は働きません。
- オートスタンバイ機能とスリープタイマーが同時に設定されている場合は、スリープタイマーが優先されます。

[126] 設定を調節する | お買い上げ時の設定に戻す

お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順に従って、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1 電源を切る。

2 本体前面の  (電源) を5秒間押したままにする。

表示窓にしばらく [CLEARING] が点滅したあと、表示が [CLEARED *] に変わります。

ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に [CLEARED *] が表示されるまで、電源を切らないでください。

PROTECTOR

表示窓に [PROTECTOR] の表示が出ると、数秒後にアンプの電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起きています。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- アンプが何かで覆われ、通気孔がふさがれています。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- 本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いスピーカーをつないでいます。音量を下げてください。
- 電源コードを抜いて30分放置し、アンプの温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
 - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファースのケーブルを抜く。
 - スピーカーケーブルの芯線の先端がしっかりとねじってあるか確認する。
 - まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、アンプの温度が上がるまで少なくとも30分間、アンプを操作する。そのあと、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているか確かめる。

以上の項目を確認して問題が解決したら、電源コードをつないでアンプの電源を入れてください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

- **Error 30 :**
PHONES端子にヘッドホンをつないでいます。ヘッドホンを取り外し、もう一度自動音場補正を実行してください。
- **Error 31 :**
フロントスピーカーの設定が [SPK OFF] になっています。本体前面のSPEAKERSボタンを使ってフロントスピーカーを選び、もう一度自動音場補正を実行してください。
- **Error 32 :**
スピーカーを検出できません。CALIBRATION MIC端子に測定用マイクをしっかりと接続し、自動音場補正をもう一度実行してください。
- **Error 33 :** フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーからの音を検出できません。以下を確認してください。

- 測定用マイクが破損していないこと。測定用マイクがCALIBRATION MIC端子に接続されていること。
- すべてのスピーカーが正しくつながれていること。

- **Warning 40 :**

測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態で再測定を行うと、測定結果が改善される場合があります。

- **Warning 41、Warning 42 :**

測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して設置し、再測定してください。

- **Warning 43 :**

アクティブサブウーファアの距離と位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

[129] 困ったときは | エラーメッセージ

USBメッセージ一覧

操作の過程で表示窓に以下のメッセージが表示されることがあります。メッセージの意味は以下のとおりです。

- **READING :**

USB機器の情報を認識して読み込んでいます。

- **NO SUPPORT :**

未対応のUSB機器をつないでいる、未知のUSB機器をつないだ、USBハブを介してつないでいる、もしくはUSB機器がアンプに認識されていません。

- **NO DEVICE :**

USB機器をつないでいない、もしくは接続したUSB機器が認識されていません。

- **NO TRACK :**

再生可能なトラックが見つかりませんでした。

[130] 困ったときは | 全体

電源が自動的に切れる

- 表示窓の [<SYSTEM>] メニューの [AUTO STBY] が [STBY ON] に設定されています。[STBY OFF] に設定してください。

- スリープタイマーが働いています。
- 異常が検知されたため、保護回路（ [PROTECTOR] ）が働いています。

[131] 困ったときは | 全体

複数のデジタル機器を接続中、再生可能な入力がみつからない

同軸デジタル音声IN端子および光デジタル音声IN端子を他の入力に再度割り当ててください。詳しくは、「他の音声入力端子を使う (A. ASSIGN)」をご覧ください。

[132] 困ったときは | 全体

テレビの電源を入れてもアンプの電源が入らない

- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。アンプの電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合は、テレビの電源を入れてもアンプの電源は入りません。

[133] 困ったときは | 全体

テレビの電源を切るとアンプの電源が切れる

- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [STBY LINK] の設定を確認してください。[ON] に設定している場合は、本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
-

テレビの電源を切ってもアンプの電源が切れない

- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [STBY LINK] の設定を確認してください。テレビの電源を切ったときに、アンプの入力にかかわらずアンプの電源も連動させたい場合は、[STBY LINK] を [ON] に設定してください。

テレビに映像が表示されない

- 入力切り替え用ボタンで適切な入力を選んでください。
- テレビを適切な入力モードに設定してください。
- テレビからオーディオ機器を離してください。
- ケーブルが正しく、しっかりと機器に接続されているか確認してください。
- AMP MENUを押して、選んだ入力のHDMI信号フォーマットを、表示窓の [<HDMI>] メニューの [SIGNAL FMT.] から [STANDARD] に変更してください。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルを使用してください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- HDCP 2.2対応のコンテンツを再生するには、お使いのテレビのHDCP 2.2に対応のHDMI入力端子にアンプをつないでください。

テレビに3D映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、3Dの映像が表示されないことがあります。お使いのテレビまたは映像機器が3Dに対応しているか確認してください。また、アンプが対応しているHDMI映像フォーマットと3D形式の設定になっているかどうかを確認してください。詳しくは、テレビまたは映像機器の取扱説明書を参照してください。

- 必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルを使用してください。

[137] 困ったときは | 映像

テレビに4K映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、4Kの映像が表示されないことがあります。お使いのテレビや映像機器の設定、対応する映像フォーマットを確認してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。それ以外の映像信号の場合には、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル以上のグレードのHDMIケーブルをお使いください。
- お使いのテレビによっては、HDMI信号フォーマットの設定項目が用意されている場合があります。アンプ側で [SIGNAL FMT.] を [ENHANCED] に設定したときは、テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- アンプは、必ず4K対応のテレビまたは映像機器のHDMI入力端子につないでください。4K解像度のコンテンツを再生するためには、HDMIケーブルは再生機器のHDCP 2.2対応のHDMI端子につなぐ必要があります。

[138] 困ったときは | 映像

スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの映像がテレビに出力されない

- アンプがスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる直前に選択していたHDMI機器からの映像／音声がテレビに出力されます。
画像が出ない場合は、以下の操作を行ってください。
 - アンプの電源を入れて再生したいHDMI機器を選択してください。
 - 表示窓の [<HDMI>] メニューの [STBY THRU] を [ON] または [AUTO] に設定してください。

[139] 困ったときは | 映像

テレビ画面にホームメニューが表示されない

-
- HDMIテレビOUT端子にテレビをつないでいるときのみ、ホームメニューを使用できます。
 - HOMEを押して、ホームメニューを表示させてください。
 - テレビが正しく接続されているか確認してください。
 - テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

[140] 困ったときは | 映像

表示窓が消灯する

- 本体前面のPURE DIRECTランプが点灯しているときは、PURE DIRECTを押して機能をオフにしてください。
- 本体前面のDIMMERを押して、表示窓の明るさを調節してください。

[141] 困ったときは | 映像

アンプの電源が入っていないときテレビに映像が出ない

- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定後、 [<HDMI>] メニューの [STBY THRU] を [AUTO] または [ON] に設定してください。
- アンプの電源を入れて、入力を再生している機器に切り替えてください。
- ソニー製以外のHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合には、AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定してください。

[142] 困ったときは | 音声

どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続ケーブルが、アンプ、スピーカー、機器のそれぞれの入力/出力端子に差し

込まれているか確認してください。

- アンプとすべての機器の電源が入っているか確認してください。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみが [VOL MIN] に設定されていないか確認してください。
- 本体前面のSPEAKERSボタンが [SPK OFF] に設定されていないか確認してください。
- ヘッドホンをアンプにつないでいないことを確認してください。
- ㊦を押して消音機能を解除してください。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、再生機器を選んでください。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたいときは、AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [AUDIO OUT] を [TV+AMP] に設定してください。マルチチャンネル音声を再生できない場合は、[AMP] に設定してください。この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 再生機器から出力される音声信号のサンプリング周波数、チャンネル数、または音声フォーマットが変わると、音声が途切れる場合があります。

[143] 困ったときは | 音声

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。
- 接続ケーブルがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯から少なくとも3メートル離れているか確認してください。
- テレビからオーディオ機器を離してください。
- プラグや端子が汚れています。アルコールで少し湿らせた布で拭き取ってください。

[144] 困ったときは | 音声

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認してください。ヘッドホンから1チャンネルのみが出力される場合は、機器がアンプに正しく接続されていない可能性があります。アンプと機器の端子にすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
ヘッドホンから両方のチャンネルが出力される場合は、フロントスピーカーがアンプに正しく接続されていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認してください。
- お使いの機器で音声をアナログ接続で出力する場合は、左右の音声出力端子 (L/R) にケー

ブルを接続しているか確認してください。アナログ音声出力の接続では、左右両方の端子にケーブルを接続する必要があります。接続には、音声ケーブル（別売）をお使いください。

- スピーカーのレベルを調節してください。
- [Easy Setup] の自動音場補正、または表示窓の [<SPEAKER>] メニューの [SP PATTERN] を使って、スピーカーの設定が適切か確認してください。スピーカー設定の確認後は、表示窓の [<LEVEL>] メニューの [TEST TONE] を使って、各スピーカーから正しく音が出力されているか確認してください。
- ドルビーデジタルサラウンドEXの情報を持たないディスクがあります。その場合は、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認してください。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認してください。
- 選択した音場（サウンドフィールド）によっては、アクティブサブウーファーから音が出ない場合があります。
- 音源によっては、すべてのスピーカーが [LARGE] に設定されていて、[NEO6.CINEMA]（Neo:6 シネマ）または [NEO6.MUSIC]（Neo:6 ミュージック）が選ばれているときは、アクティブサブウーファーから音が出ない場合があります。

[145] 困ったときは | 音声

特定の機器から音が出ない

- 機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 接続に使用されているケーブルが、アンプと機器の端子に確実に差し込まれているか確認してください。
- 現在の入力モードの設定を確認してください。入力モードが適切でない場合は、AMP MENUを押して、表示窓の [<INPUT>] メニューの [INPUT MODE] から設定を切り替えてください。
- 機器が、対応するHDMI端子に正しく接続されているか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- テレビ画面にホームメニューが表示されているときは、アンプから音声が出力されないことがあります。HOMEを押して、ホームメニューを非表示にしてください。
- HDMI端子から伝送された音声信号（フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など）は接続機器側で制限されることがあります。HDMIケーブルをつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音声が出なかったりする場合は、機器の設定を確認してください。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していない場合、本体後面のHDMIテレビOUT端子からの映像や音声が歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD）を楽しむには、再生機

器の映像解像度を720p/1080iより高く設定してください。

- DSDやマルチチャンネルリニアPCMフォーマットの音声を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していることを確認してください。
- お使いのテレビにシステムオーディオコントロールがない場合は、AMP MENUを押し、表示窓の [<HDMI>] メニューから [AUDIO OUT] を選び、以下のとおり設定してください。
 - [TV+AMP] : アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音を聞きたい場合。
 - [AMP] : アンプにつないだスピーカーのみで音を聞きたい場合。
- アンプにプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、アンプから音が出力されない場合があります。この場合は、AMP MENUを押し、表示窓の [<HDMI>] メニューの [AUDIO OUT] を [AMP] に設定してください。
- アンプでテレビ入力選ばれているときに、アンプにつないだ機器の音声が聞こえない場合
 - HDMI接続でつないだ機器の番組を視聴したいときは、必ずアンプの入力をHDMIに変更してください。
 - テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り替えてください。
 - テレビにつないだ機器から番組を視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を正しく選んでください。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能を使用しているときは、つないだ機器をテレビのリモコンで操作することはできません。
 - お使いの機器およびテレビによっては、機器側とテレビ側で設定が必要な場合があります。機器とテレビに付属の取扱説明書を参照してください。
 - アンプの入力を機器を接続しているHDMI入力に切り替えてください。
- 選んだデジタル音声入力端子が他の入力に割り当てられていないか確認してください。

[146] 困ったときは | 音声

オーディオリターンチャンネル (ARC) 機能に対応しているHDMIテレビOUT端子にテレビを接続しているとき、テレビから音が出ない

- AMP MENUを押し、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定してください。
- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル (ARC) 機能に対応しているか確認してください。
- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル (ARC) 機能に対応している場合には、

アンプがHDMIケーブルでテレビのARC機能に対応する端子に接続されているか確認してください。

[147] 困ったときは | 音声

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認してください。
- ホームメニューの [Speaker Setting] メニューで音声レベルのパラメーターを調節してください。

[148] 困ったときは | 音声

ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生されない

- DVDなど再生中のコンテンツの音声が、ドルビーデジタル (Dolby Digital) またはDTS形式で記録されているか確認してください。
- DVDプレーヤーなどの機器を本体後面のデジタル入力端子につないでいるときは、機器側のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認してください。
- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [AUDIO OUT] を [AMP] に設定してください。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD)、DSD、マルチチャンネルリニアPCMは、HDMI接続でのみ楽しめます。

[149] 困ったときは | 音声

サラウンド効果が得られない

- 映画用または音楽用の音場 (サウンドフィールド) を選んでいるか確認してください。
- [<SPEAKER>] メニューの [SP PATTERN] の設定を [2/0] または [2/0.1] にした場合は、[PLII MV] (ドルビープロロジックII Movie)、[PLII MS] (ドルビープロロジックII Music)、[PLIIX MV] (ドルビープロロジックIIx Movie)、[PLIIX MS] (ドルビープロロジックIIx Music)、[NEO6.CINEMA] (Neo : 6 シネマ) および

[150] 困ったときは | 音声

スピーカーからテストトーンが出力されない

- スピーカーケーブルが確実に接続されていない可能性があります。スピーカーケーブルを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につないでください。
- スピーカーケーブルがショートしている恐れがあります。

[151] 困ったときは | 音声

表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される

- スピーカーパターンの設定が間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正しく一致していることを確認してください。

[152] 困ったときは | 音声

スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの音声がテレビに出力されない

- アンプがスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる直前に選択していたHDMI機器からの映像／音声がテレビに出力されます。
音声がでない場合は、以下の操作を行ってください。
 - アンプの電源を入れて再生したいHDMI機器を選択してください。
 - 表示窓の [<HDMI>] メニューの [STBY THRU] を [ON] または [AUTO] に設定してください。

アンプにつないだスピーカーからテレビの音声がでない

- テレビとアンプをつないでいるHDMIケーブル、光デジタル音声ケーブル、またはアナログ音声ケーブルの種類や接続を確認してください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- アンプをオーディオリターンチャンネル（ARC）対応テレビに接続しているときは、アンプがテレビのARC対応HDMI入力端子に接続されているか確認してください（付属のスタートガイドを参照してください）。それでも音が出ない、もしくは音が途切れる場合は、光デジタル音声ケーブル（別売）を接続し、AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL OFF] に設定してください。
- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、テレビとアンプを光デジタル音声ケーブル（別売）かアナログ音声ケーブル（別売）で接続してください。テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、アンプをテレビのHDMI入力端子に接続しても、テレビの音声はアンプに接続されたスピーカーから出力されません。
- アンプの入力を [TV] に切り替えてください。
- アンプの音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビに接続されたケーブルテレビ（CATV）ボックス／衛星放送チューナーの音声がでない場合は、それぞれの機器をアンプのHDMI入力端子に接続して、アンプの入力を接続した機器の入力に切り替えてください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- テレビとアンプの電源を入れる順番によっては、アンプが消音状態になり、本体前面の表示窓に [MUTING] と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、アンプの電源を入れてください。
- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定を [オーディオシステム] にしてください。設定のしかたについては、テレビの取扱説明書を参照してください。

アンプの電源が入っていないときテレビに映像と音声がでない

- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定後、 [<HDMI>] メニューの [STBY THRU] を [AUTO] または [ON] に設定してください。
- アンプの電源を入れて、入力を再生している機器に切り替えてください。
- ソニー製以外のHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合には、AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定してください。

[155] 困ったときは | 音声

アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音が出る

- アンプまたはテレビを消音状態にしてください。
- HDMI接続した再生機器からのHDMI音声信号がアンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力される場合は、表示窓の [<HDMI>] メニューから [AUDIO OUT] を選び、[AMP] を選んでください。アンプにつないだスピーカーからのみ出力されるようになります。

[156] 困ったときは | チューナー

FM放送の受信状態が悪い

- FMアンテナ線を伸ばし、受信状態が良くなるように位置を調節してください。
- FMアンテナ線を窓のそばに設置してください。

[157] 困ったときは | チューナー

FMステレオ放送の受信状態が悪い

- AMP MENUを押して、表示窓の [<TUNER>] メニューの [FM MODE] を [MONO] に設定してください。

[158] 困ったときは | チューナー

放送局が受信できない


-

アンテナがしっかりと接続されているか確認してください。必要に応じてアンテナを調節してください。

- 放送局の信号が弱い場合、自動選局で受信できません。ダイレクト選局モードで周波数を合わせてください。
- プリセット登録された放送局がない、またはプリセット登録した放送局が消去されています（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。放送局をプリセット登録してください。
- 周波数が表示窓に表示されるまで、DISPLAYをくり返し押してください。

[159] 困ったときは | iPhone/iPod

音声が歪む

- リモコンの  をくり返し押してください。本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使うこともできます。

[160] 困ったときは | USB機器

対応していないUSB機器を使用している

- 対応していないUSB機器を使用すると、下記のような問題が起こることがあります。
 - USB機器が認識されない。
 - ファイル名またはフォルダー名が表示されない。
 - 再生ができない。
 - 音が飛ぶ。
 - ノイズがある。
 - 歪んだ音声が出力される。

[161] 困ったときは | USB機器

ノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする

- アンプの電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 音楽データ自体がノイズや歪んだ音声を含んでいます。

[162] 困ったときは | USB機器

USB機器が認識されない

- アンプの電源を切り、USB機器を取り外してください。もう一度電源を入れて、USB機器をつなぎ直してください。
- 対応しているUSB機器をつないでください。
- USB機器が正しく動作していません。問題の対処方法については、USB機器の取扱説明書を参照してください。

[163] 困ったときは | USB機器

再生が始まらない

- アンプの電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 本機が対応しているUSB機器をつないでください。
- [USB] を選んでからフォルダー/トラックを選び、▶||を押して再生を開始してください。

[164] 困ったときは | USB機器

USB機器をUSBポートにつなげない

- USB機器のプラグを上下逆さまの向きにつなごうとしています。プラグを正しい向きにしてつないでください。

[165] 困ったときは | USB機器

表示窓の表示がおかしい

- USB機器に保存されているデータが破損している可能性があります。
- 本体前面の表示窓で表示できる文字は以下のとおりです。
 - 大文字 (A~Z)
 - 数字 (0~9)
 - 記号 (' = < > * + , - . / @ [¥] _ `)

他の文字は正しく表示されないことがあります。

[166] 困ったときは | USB機器

[READING] が長時間表示される、または再生までに時間がかかる

- 以下の場合、読み出しに時間がかかることがあります。
 - USB機器内に多くのフォルダーやファイルがある。
 - 非常に複雑なファイル構造になっている。
 - メモリー容量が極端に大きい場合
 - メモリーが断片化している。

以下を目安にすることをおすすめします。

- フォルダーパスの文字数：128文字以内
- フォルダーあたりの最大音声ファイル数：150個以下

[167] 困ったときは | USB機器

音声ファイルを再生できない

- MP3 PRO形式のMP3ファイルは再生できません。
- マルチチャンネルの音声ファイルは再生できません。
- AACファイルは正しく再生できないことがあります。
- Windows Media Audio LosslessおよびProfessional形式のWMAファイルは再生できません。
- FAT16またはFAT32以外のファイルシステムでフォーマットされたUSB機器には対応していません（*）。
- 8階層のフォルダーまで再生できます（ルートフォルダー含む）。
- 再生対象のファイルが格納されたフォルダーまでのフォルダーパスの文字数が128文字を超えているため再生できません。
-

フォルダー内のファイル数が150を超えているため再生できません。

- パーティション分割したUSB機器をお使いの場合は、第1パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。
- 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。

* FAT16およびFAT32に対応していますが、これらのファイルシステムに対応していないUSB機器もあります。詳しくは、お使いのUSB機器の取扱説明書を参照するか、製造元にお問い合わせください。

[168] 困ったときは | BLUETOOTH機器

ペアリングができない

- BLUETOOTH機器をアンプに近付けてください。
- 他のBLUETOOTH機器がアンプの周りがあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他のBLUETOOTH機器の電源を切ってください。
- ペアリング操作の過程でパスキーの入力を求められたときは、「0000」を入力してください。

[169] 困ったときは | BLUETOOTH機器

BLUETOOTH接続ができない

- 接続しようとしているBLUETOOTH機器がA2DPプロファイルに対応していないため、アンプとつなぐことができません。
- 本体前面のCONNECTION  PAIRING BLUETOOTHを押してください。前回つないだBLUETOOTH機器につながります。
- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにしてください。
- BLUETOOTH機器側から接続を確立してください。
- ペアリング登録情報が消去されています。もう一度ペアリングを行ってください。
- アンプとBLUETOOTH機器が接続しているときは、他のBLUETOOTH機器でアンプは検出されません。
- いったんBLUETOOTH機器のペアリング登録情報を消去し、もう一度ペアリングを行ってください。

[170] 困ったときは | BLUETOOTH機器

音が飛んだり変動したりする、または接続が切れる

- アンプとBLUETOOTH機器が離れすぎています。
 - アンプとBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、アンプとBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
 - 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器がアンプの近くにある場合は、それらを遠ざけてください。
-

[171] 困ったときは | BLUETOOTH機器

BLUETOOTH機器の音源が聞けない

- まずBLUETOOTH機器の音量を上げてから、リモコンの \triangle +（または本体前面のMASTER VOLUMEつまみ）を使って音量を調節してください。
-

[172] 困ったときは | BLUETOOTH機器

ハム音またはノイズがひどい

- アンプとBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、アンプとBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
 - 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器がアンプの近くにある場合は、それらを遠ざけてください。
 - つないだBLUETOOTH機器の音量を下げてください。
-

[173] 困ったときは | BLUETOOTH機器

SongPalアプリが終了する

- スマートフォン/タブレット側でBLUETOOTH接続を切断したあとで、アンプと再度接続してください。

[174] 困ったときは | “ブラビアリンク” (HDMI機器制御)

HDMI機器制御機能が正しく働かない

- アンプと各機器とのHDMI接続を確認してください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- しばらく待ってから操作してください。アンプの電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。
- HDMIケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、「“ブラビアリンク”の準備をする」の手順をくり返してください。
- テレビが本体後面のHDMIテレビOUT端子に接続されているか確認してください。
- AMP MENUを押して、表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] を [CTRL ON] に設定してください。
- アンプに接続した機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- 接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
 - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
 - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで
 - チューナー関連機器：4台まで
 - オーディオシステム（AVアンプ/ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します）

[175] 困ったときは | “ブラビアリンク” (HDMI機器制御)

アンプにつないだスピーカーからテレビの音が聞こえない

- 表示窓の [<HDMI>] メニューの [CTRL HDMI] が [CTRL ON] に設定されていることを確認してください。
- テレビの入力に対して、表示窓の [<INPUT>] メニューの [INPUT MODE] が [AUTO] に設定されていることを確認してください。
- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているか確認してください。テレビのHDMI入力端子に「ARC」の表示があるか確認してください。
- お使いのテレビに複数のHDMI入力端子がある場合は、アンプがARC機能に対応する端子に接続されているか確認してください。
- お使いのテレビが本体後面のHDMIテレビOUT端子に接続されているか確認してください。

[176] 困ったときは | リモコン

リモコンで操作できない


- リモコンを本体前面のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコンとアンプの間にある障害物を取り除いてください。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、2本とも新しい乾電池に交換してください。

[177] 困ったときは | 解決しないときは

お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順に従って、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

- 1 電源を切る。
- 2 本体前面の （電源）を5秒間押したままにする。

表示窓にしばらく [CLEARING] が点滅したあと、表示が [CLEARED *] に変わります。

ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に [CLEARED *] が表示されるまで、電源を切らないでください。

[178] 困ったときは | 解決しないときは

音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

以下の操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1 電源を切る。

2 MUSICを押しながら  (電源) を押す。

[S.F. CLEAR] が表示窓に表示され、すべての音場 (サウンドフィールド) が初期設定状態に戻ります。

[179] 困ったときは | 解決しないときは

カスタマーサポートウェブサイト

本機の最新情報について詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/audio/>

[180] その他 | 商標について

商標について

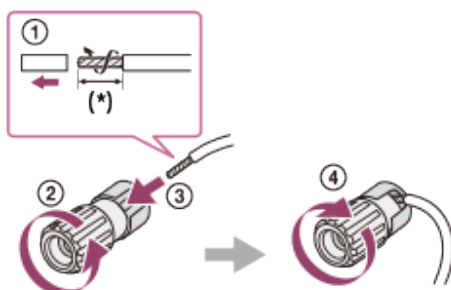
- 本機はドルビー (*1) デジタルデコーダー (EX) およびドルビープロロジック (II, IIx)、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS (*2) (DTS-ESおよびDTS 96/24) デコーダー、DTS-HDデコーダーを搭載しています。
 - *1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AACロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
 - *2 DTSの特許については<http://patents.dts.com>をご覧ください。DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、DTSおよびシンボルの組み合わせはDTS社の登録商標です。また、DTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.
- 本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI®) 技術を搭載しています。HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple、Apple ロゴ、iPhone、iPod、iPod touch、及びRetina は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App Store はApple Inc. のサービスマークです。
-

「Made for iPod」「Made for iPhone」とは、それぞれiPod、iPhone専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品をiPod、又はiPhoneと共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

- Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本製品にはMicrosoft Corporationの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoft およびMicrosoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術の本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
- 本機はFraunhofer IIS およびThomson のMPEG Layer-3 オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- “ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- “PlayStation”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。
- BLUETOOTH®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- Android™はGoogle Inc.の商標です。
- Google Play™はGoogle Inc.の商標です。
- その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、®マークは明記していません。

スピーカーケーブルのつなぎかた

下図のようにスピーカーケーブルをつないでください。



* スピーカーケーブル両端の被覆を10 mmはがしてください。

アクティブサブウーファースの設定を確認する

- アクティブサブウーファースをつないでいる場合は、アクティブサブウーファースをお使いになる前にアクティブサブウーファースの電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリューム（LEVEL）つまみを回し、中間よりやや小さめの音量になるように調節しておいてください。



- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファースをつないでいる場合は、設定値を最大に設定してください。



- 自動電源オフ機能があるアクティブサブウーファースをつなぐ場合は、自動電源オフ機能を切（無効）にしてください。
詳しくは、アクティブサブウーファースの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- お使いになるアクティブサブウーファースの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

2チャンネルサウンドモード／マルチチャンネルステレオモード

ダイレクト（DIRECT）：

サラウンド効果を加えず、録音またはエンコードされたままの音源として処理します。

マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）：

2チャンネルの左／右の信号またはモノラル信号をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。

2chステレオ（2CH STEREO）：

フロント左／右の2本のスピーカーのみから音が出ます。アクティブサブウーファースからは音が出ません。

通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全にバイパスし、マルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

ご注意

- マルチチャンネル音声信号を受信しているときは、[MULTI ST.] は働きません。
- サラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーをつないでいるときに、[DIRECT] を選び、5.1チャンネルの音源を再生すると、音声フォーマットによっては、7.1チャンネルのサラウンドシステムのときのように、サラウンドバックスピーカーからサラウンドスピーカーと同じ音声が出力されます。サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音声レベルは、自動的に最適なバランスに調節されます。

[MOVIE] モード

あらかじめ設定されている音場（サウンドフィールド）を選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で映画館の臨場感にあふれた迫力のある音声を再現できます。

HD デジタル・シネマ・サウンド (HD-D.C.S.) :

HD デジタル・シネマ・サウンド (HD-D.C.S.) は、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。この技術は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づいています。

このモードにより、ご自宅でブルーレイディスクやDVDの映画ソフトの高音質に加えて、マスタリング時に映画制作エンジニアが意図した最良の音場も楽しめます。

- **ダイナミック (DYNAMIC)** : 残響は多い反面、広い音場感の乏しい環境（音が十分に吸収されていない環境）向けです。反射音を強調し、大型で古いタイプの映画館を再現します。どのような環境でもダビングスタジオのような広さを強調し、独特の音場感を作り出します。
- **シアター (THEATER)** : 一般のリビングルーム向けです。映画館（ダビングシアター）のような残響を再現します。ブルーレイディスクに記録されたコンテンツを映画館の雰囲気鑑賞するのに最適です。
- **スタジオ (STUDIO)** : 適切な音響機器を備えたリビングルームに適しています。劇場用音源をブルーレイディスク用として家庭での鑑賞に適した音量にリミックスする際の残響感を再現します。反射音や残響音は最低限のレベルに抑えています。ただし、セリフやサラウンド効果が生き生きと再生されます。

ドルビープロロジックII Movie (PLII MV) :

ドルビープロロジック II ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビーサラウンドにエンコードされた映画に適しています。また、このモードでは、吹き替え版や古い映画などの映像を視聴するときにも、音源を5.1チャンネルで再生できます。

ドルビープロロジックIIx Movie (PLIIX MV) :

ドルビープロロジック IIx ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビープロロジック II ムービーまたはドルビーデジタル5.1を、7.1チャンネルのディスクリートチャンネルに拡張します。

Neo:6 シネマ (NEO6.CINEMA) :

DTS Neo:6 シネマモードのデコード処理を行います。2チャンネルのフォーマットで録音された音源を最大7チャンネルに拡張します。

フロントサラウンド (FRONT SUR.) :

2本のフロントスピーカーのみでバーチャルサラウンド効果を楽しめます。ただし、一部の入力信号にはバーチャルサラウンド効果が働かないことがあります。

[MUSIC] モード

あらかじめ設定されている音場（サウンドフィールド）を選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

オーディオエンハンサー (A. ENHANCER) :

ポータブルオーディオ機器の音源を、よりクリアな音像で再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。

コンサートホール (HALL) :

コンサートホールの音響を再現します。

ジャズクラブ (JAZZ) :

ジャズクラブの音響を再現します。

ライブハウス (CONCERT) :

300席あるライブハウスの音響を再現します。

スタジアム (STADIUM) :

広々とした屋外のスタジアムの雰囲気再現します。

スポーツ (SPORTS) :

スポーツ中継放送の雰囲気再現します。

ドルビープロロジックII Music (PLII MS) :

ドルビープロロジック II ミュージックモードのデコード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

ドルビープロロジックIIx Music (PLIIX MS) :

ドルビープロロジック IIx ミュージックモードのデコード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

Neo:6 ミュージック (NEO6.MUSIC) :

DTS Neo:6 ミュージックモードのデコード処理を行います。2チャンネルの音源を最大7チャンネルに拡張します。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

ヘッドホンをつないでいるときは

以下の音場（サウンドフィールド）は、本体前面のPHONES端子にヘッドホンを接続しているときのみ選択できます。

ヘッドホン (2ch) (HP 2CH) :

ヘッドホンを接続しているときは自動的に選ばれます。通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、LFE信号以外のマルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する

本体前面のDISPLAYをくり返し押すことで、BLUETOOTH接続中のBLUETOOTH機器の情報を確認できます。

DISPLAYを押すたびに表示が次のように切り替わります。

BLUETOOTH機器名 - 現在選んでいる音場 (サウンドフィールド) - 音量レベル - 選んだ入力

メニュー一覧 (表示窓)

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。

自動音場補正設定 [<AUTO CAL>]

- 自動音場補正開始 [A.CAL START]
- 自動音場補正の種類 [CAL TYPE] (*1)
FULL FLAT、ENGINEER、FRONT REF、OFF

レベル設定 [<LEVEL>]

- テストトーン [TEST TONE] (*2) OFF、AUTO XXX (*3)
- フロントスピーカー (左) レベル [FL LEVEL] (*2)
FL -10.0 dB ~ FL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- フロントスピーカー (右) レベル [FR LEVEL] (*2)
FR -10.0 dB ~ FR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- センタースピーカーレベル [CNT LEVEL] (*2)
CNT -10.0 dB ~ CNT +10.0 dB (0.5 dB単位)
- サラウンドスピーカー (左) レベル [SL LEVEL] (*2)
SL -10.0 dB ~ SL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- サラウンドスピーカー (右) レベル [SR LEVEL] (*2)
SR -10.0 dB ~ SR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- サラウンドバックスピーカーレベル [SB LEVEL] (*2)
SB -10.0 dB ~ SB +10.0 dB (0.5 dB単位)
- サラウンドバックスピーカー (左) レベル [SBL LEVEL] (*2)

- SBL -10.0 dB ~ SBL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- サラウンドバックスピーカー (右) レベル [SBR LEVEL] (*2)
SBR -10.0 dB ~ SBR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- フロントハイスピーカー (左) レベル [LH LEVEL] (*2)
LH -10.0 dB ~ LH +10.0 dB (0.5 dB単位)
- フロントハイスピーカー (右) レベル [RH LEVEL] (*2)
RH -10.0 dB ~ RH +10.0 dB (0.5 dB単位)
- アクティブサブウーファーレベル [SW LEVEL] (*2)
SW -10.0 dB ~ SW +10.0 dB (0.5 dB単位)

スピーカー設定 [<SPEAKER>]

- スピーカーパターン [SP PATTERN]
5/2.1 ~ 2/0 (20パターン)
- フロントスピーカーサイズ [FRT SIZE] (*2)
LARGE、SMALL
- センタースピーカーサイズ [CNT SIZE] (*2)
LARGE、SMALL
- サラウンドスピーカーサイズ [SUR SIZE] (*2)
LARGE、SMALL
- フロントハイスピーカーサイズ [FH SIZE] (*2)
LARGE、SMALL
- サラウンドバックスピーカーの割り当て [SB ASSIGN] (*4)
SPK B、BI-AMP、OFF
- フロントスピーカー (左) までの距離 [FL DIST.] (*2)
FL 1.00 M ~ FL 10.00 M (FL 3'3" ~ FL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- フロントスピーカー (右) までの距離 [FR DIST.] (*2)
FR 1.00 M ~ FR 10.00 M (FR 3'3" ~ FR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- センタースピーカーまでの距離 [CNT DIST.] (*2)
CNT 1.00 M ~ CNT 10.00 M (CNT 3'3" ~ CNT 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドスピーカー (左) までの距離 [SL DIST.] (*2)
SL 1.00 M ~ SL 10.00 M (SL 3'3" ~ SL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドスピーカー (右) までの距離 [SR DIST.] (*2)
SR 1.00 M ~ SR 10.00 M (SR 3'3" ~ SR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドバックスピーカーまでの距離 [SB DIST.] (*2)
SB 1.00 M ~ SB 10.00 M (SB 3'3" ~ SB 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドバックスピーカー (左) までの距離 [SBL DIST.] (*2)
SBL 1.00 M ~ SBL 10.00 M (SBL 3'3" ~ SBL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドバックスピーカー (右) までの距離 [SBR DIST.] (*2)
SBR 1.00 M ~ SBR 10.00 M (SBR 3'3" ~ SBR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- フロントハイスピーカー (左) までの距離 [LH DIST.] (*2)
LH 1.00 M ~ LH 10.00 M (LH 3'3" ~ LH 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- フロントハイスピーカー (右) までの距離 [RH DIST.] (*2)
RH 1.00 M ~ RH 10.00 M (RH 3'3" ~ RH 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- アクティブサブウーファーまでの距離 [SW DIST.] (*2)
SW 1.00 M ~ SW 10.00 M (SW 3'3" ~ SW 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- 距離表示の単位 [DIST. UNIT]
FEET、METER
- フロントスピーカーのクロスオーバー周波数 [FRT CROSS] (*5)

- CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- センタースピーカーのクロスオーバー周波数 [CNT CROSS] (*5)
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数 [SUR CROSS] (*5)
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- フロントハイスピーカーのクロスオーバー周波数 [FH CROSS] (*5)
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)

入力設定 [<INPUT>]

- 入力モード [INPUT MODE]
AUTO、OPT、COAX、ANALOG
- 入力に名前を付ける [NAME IN]
詳しくは、入力設定メニューの「各入力の名前を変更する (NAME IN)」をご覧ください。
- デジタル音声入力端子割り当て [A. ASSIGN]
OPT、COAX、NONE

サラウンド設定 [<SURROUND>]

- HD-D.C.S.エフェクトタイプ [HD-D.C.S. TYP] (*6)
DYNAMIC、THEATER、STUDIO

イコライザー設定 [<EQ>]

- フロントスピーカー低域レベル [BASS]
BASS -10 dB ~ BASS +10 dB (1 dB単位)
- フロントスピーカー高域レベル [TREBLE]
TREBLE -10 dB ~ TREBLE +10 dB (1 dB単位)

チューナー設定 [<TUNER>]

- FM放送局の受信モード [FM MODE]
STEREO、MONO
- プリセットした放送局に名前をつける [NAME IN]
詳しくは、「プリセットした放送局に名前をつける (NAME IN)」をご覧ください。

音声設定 [<AUDIO>]

- ナイトモード [NIGHT MODE]
NIGHT ON、NIGHT OFF
- 映像と音声のずれを調節する [A/V SYNC]
SYNC ON、SYNC OFF
- 音量自動調整 [AUTO VOL]
A. VOL ON、A. VOL OFF
- デジタル放送音声選択 [DUAL MONO]
MAIN/SUB、MAIN、SUB
- ダイナミックレンジの圧縮 [D. RANGE]
COMP. ON、COMP. AUTO、COMP. OFF

HDMI設定 [<HDMI>]

- HDMI機器制御 [CTRL HDMI]

CTRL ON、CTRL OFF

- **電源オフ連動 [STBY LINK]**
ON、AUTO、OFF
- **スタンバイスルー [STBY THRU]**
ON、AUTO、OFF
- **HDMI音声出力 [AUDIO OUT]**
AMP、TV+AMP
- **音場 (サウンドフィールド) [SOUND.FIELD]**
AUTO、MANUAL
- **HDMIアクティブサブウーファーレベル [SW LEVEL]**
SW AUTO、SW +10 dB、SW 0 dB
- **HDMI信号フォーマット [SIGNAL FMT.]**
STANDARD、ENHANCED

BLUETOOTH設定 [<BT>]

- **BLUETOOTHスタンバイモード [BT STANDBY] (*7)**
STBY ON、STBY OFF
- **BLUETOOTH音声フォーマット - AAC [BT AAC]**
AAC ON、AAC OFF
- **BLUETOOTH機能をオン/オフする [BT POWER]**
BT ON、BT OFF

システム設定 [<SYSTEM>]

- **自動電源オフ [AUTO STBY]**
STBY ON、STBY OFF
- **バージョン表示 [VER. X.XXX] (*8)**

*1 自動音場補正を実行し、設定を保存した場合のみこの設定を選べます。

*2 スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターや設定があります。

*3 XXXにはスピーカーチャンネルが入ります (FL、FR、CNT、SL、SR、SB、SBL、SBR、LH、RH、SW)。

*4 サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーありの [SP PATTERN] に設定していないときのみ、このパラメーターを選べます。

*5 スピーカーが [SMALL] に設定されているときのみ、このパラメーターを選べます。

*6 音場 (サウンドフィールド) を [HD-D.C.S.] に設定しているときのみ、このパラメーターを選べます。

*7 お使いになるBLUETOOTH機器のペアリングが完了している場合にのみ設定できます。

*8 X.XXXにはソフトウェアのバージョンナンバーが入ります。